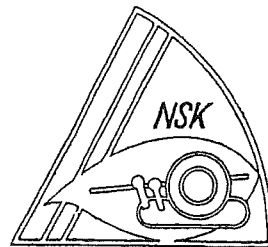


JA 北海道厚生連
旭川厚生看護専門学校

令和 5 年度
33 期 生

SYLLABUS



_____期生 _____番 氏 名_____

は じ め に

「シラバス」(Syllabus)とは、授業計画や授業概要という意味です。

看護学校のカリキュラムは、基礎分野・専門基礎分野・専門分野・統合分野と多くの授業が組み込まれています。これからの学習は、ただ“暗記する”のではなく、理解し、自分の身につけていくことが必要です。そして、自分の課題や目標を持ち主体的に学習していくこと、つまり、学習することに個々の学生が責任を持って取り組むことが求められます。

その学習の羅針盤となるよう、「シラバス」を作りました。

はじめに全体に目を通し、学習の組立を理解しましょう。どのような科目があり、それらと教育目標の関係はどうなっているのかを読み取って下さい。そして、各授業の始まる前には必ず目を通し、目的や授業の概要を理解して臨むようにしましょう。さらに、紹介されている文献に目を通して授業に臨むと、より理解が深まります。

旭川厚生看護専門学校の学生としてどのように学習するか、3年間の良きガイドとして有効に活用して下さい。

目 次

I 教育理念・目的・目標・・・1

II 3つのポリシー・・・2

III 教育課程

- 1 教育課程構図・・・5
- 2 教育課程表・・・6
- 3 教科進捗状況・・・8
- 4 教育課程計画・・・9
- 5 授業科目の概要・・・14

基礎分野

科学的思考の基盤

- 文章構成法・・・25
- 情報デザインⅠ・・・26
- 情報デザインⅡ・・・27
- 統計学・・・28
- 英語・・・29
- 倫理学・・・30

人間と生活、社会の理解

- 心理学・・・31
- コミュニティデザインⅠ・・・32
- コミュニティデザインⅡ・・・33
- 運動と看護・・・34
- 人間関係論・・・35
- 教育学・・・36
- アイヌ語とアイヌ文化・・・37
- 演劇コミュニケーション・・・38

専門基礎分野

人間の構造と機能

- 解剖学Ⅰ・・・39
- 解剖学Ⅱ・・・40
- 生理学Ⅰ・・・41
- 生理学Ⅱ・・・42
- 看護形態機能学・・・43
- 生化学・・・44

疾病の成り立ちと回復の促進

- 栄養学・・・45
- 微生物学・・・46
- 薬理学・・・47
- 看護薬理学・・・48
- 病理学総論・・・49
- 病理学各論Ⅰ・・・50
- 病理学各論Ⅱ・・・51
- 病理学各論Ⅲ・・・52
- 病理学各論Ⅳ・・・53
- 病理学各論Ⅴ・・・54
- 病理学各論Ⅵ・・・55

健康支援と社会保障制度

- 医療概論・・・56
- 公衆衛生学Ⅰ・・・57
- 公衆衛生学Ⅱ・・・58
- 社会福祉Ⅰ・・・59
- 社会福祉Ⅱ・・・60
- 関係法規・・・61

専門分野

基礎看護学

- 看護学概論Ⅰ・・・64
- 看護学概論Ⅱ・・・66
- 看護援助の基本Ⅰ・・・68
- 看護援助の基本Ⅱ・・・72
- 看護援助の基本Ⅲ・・・76
- 日常生活援助技術Ⅰ・・・78
- 日常生活援助技術Ⅱ・・・81
- 日常生活援助技術Ⅲ・・・84
- 日常生活援助技術Ⅳ・・・87
- 診療援助技術Ⅰ・・・89
- 診療援助技術Ⅱ・・・92

地域・在宅看護論

- 地域・在宅看護概論Ⅰ・・・96
- 地域・在宅看護概論Ⅱ・・・97
- 地域・在宅看護援助論Ⅰ・・・98
- 地域・在宅看護援助論Ⅱ・・・99
- 地域・在宅看護援助論Ⅲ・・・101
- 地域・在宅看護援助論Ⅳ・・・103

成人看護学

- 成人看護学概論・・・106
- 成人看護学援助論Ⅰ・・・109
- 成人看護学援助論Ⅱ・・・114
- 成人看護学援助論Ⅲ・・・117

老年看護学

- 老年看護学概論・・・122
- 老年看護学援助論Ⅰ・・・124
- 老年看護学援助論Ⅱ・・・127

小児看護学

- 小児看護学概論・・・131
- 小児看護学援助論Ⅰ・・・133
- 小児看護学援助論Ⅱ・・・136

母性看護学

- 母性看護学概論・・・140
- 母性看護学援助論Ⅰ・・・142
- 母性看護学援助論Ⅱ・・・145

精神看護学

- 精神看護学概論・・・149
- 精神保健・・・151
- 精神看護学援助論Ⅰ・・・152
- 精神看護学援助論Ⅱ・・・154

健康状態に応じた看護

- 健康支援論・・・157
- 周術期と看護・・・159
- 終末期と看護・・・161
- 継続看護・・・163
- 薬物療法と看護・・・165
- 問題解決活用法・・・167

看護の統合と実践

- 看護の統合・・・170
- 看護研究・・・174
- ケーススタディ・・・176
- 看護管理・・・177
- 統合演習・・・179

I 教育理念・目的・目標（卒業生の特性）

教育理念

人間愛をもとに、人間の本質的価値を理解し、科学的思考に基づいて看護実践をすることをおして、地域社会に貢献できる看護者を育成する。

教育目的

人間愛をもとに、豊かな感性を育み、人と人との関係性を築きながら、専門的知識・技術を統合させ、看護をデザインできる能力を養う。

教育目標

1. 優しさや思いやりの心をもって、人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広くとらえる力をもつことができる。
2. 多様な文化的背景や価値観をもつ人と、人間関係を築くためのアサーティブなコミュニケーションを図ることができる。
3. 専門職業人としての自覚と責任をもち、生命の尊厳と対象の意思決定を支えることができる。
4. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断をおこなうための基礎的能力を身につける。
5. 健康の保持・増進・疾病予防および健康の回復に向けて、対象の個別性や健康状態の変化に合わせた看護を実践することができる。
6. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割および、他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働しながら多様な場で生活する人々へ看護を提供することができる。
7. 生涯学習者として、看護に対する問いをもち、学び続けることができる。

Ⅱ 3つのポリシー

【アドミッションポリシー】

- 看護師になりたいという熱意と意欲のある人
- 自ら学ぶ姿勢のある人
- 看護を学ぶうえで必要な基礎学力がある人
- 自己管理ができ責任ある行動がとれる人
- 優しさや思いやりのある人
- 人と関わることが好きな人
- 協力・助け合いができる人
- 創意工夫ができる人

【ディプロマポリシー】

本校は、以下の資質と能力を身につけ所定の単位を修得したものに卒業を認定し、専門士を授与します。

1. 優しさや思いやりの心をもって、人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く捉える力を持つことができる
2. 多様な文化的背景や価値観をもつ人と、人間関係を築くためのアサーティブなコミュニケーションが図ることができる
3. 専門職業人としての自覚と責任をもち、生命の尊厳と対象の意思決定を支えることができる
4. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断のための基礎を身につけている
5. 健康の保持・増進、疾病予防および健康の回復に向けて、対象の個別性や健康状態の変化に合わせた看護実践ができる
6. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割および、他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働しながら多様な場で生活する人々への看護を実践することができる
7. 生涯学習者として、看護に関する問いをもち、学び続けることができる

【カリキュラムポリシー】

本校では、ディプロマポリシーに掲げる能力を修得するために、各分野の科目を体系的、系統的に構成しています。

1. 教育内容は

1) 基礎分野

- (1) 人間愛を育むための感性、人間の幅広い理解、科学的思考の基礎となるリラルアーツやリテラシーについて学ぶ。
- (2) 人間関係の構築に必要な知識とコミュニケーション能力を身に着ける。
- (3) 地域(コミュニティ)とその文化を知り、そこで生活する人々の暮らしから地域の課題とその解決方法について学ぶ。

2) 専門基礎分野

- (1) 人体を系統だてて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力・判断力を身につける。
- (2) 科学的根拠に基づいて看護実践を可能にするための基盤を形成する。
- (3) 保健・医療・福祉について学び、健康や障害の状態に応じた支援に必要な知識と基礎的能力を身につける。

3) 専門分野

(1) 基礎看護学

- ① 臨床判断能力や看護の基盤となる理論や基礎的技術、看護の展開方法を学ぶ。
- ② コミュニケーション、フィジカルアセスメントを強化する。
- ③ 看護師として倫理的に判断し、行動するための基礎的能力を身につける。

(2) 地域・在宅看護論

- ① 地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場での看護の基礎を学ぶ。
- ② 地域で提供する看護を理解し、基礎的な技術を身につけ、多職種協働する中で看護の役割を学ぶ。
- ③ 地域での終末期看護について学ぶ。

(3) 各専門領域

- ① それぞれの発達段階や健康段階にある人、及び多様な場で看護を必要とする人々に対する看護について学ぶ。

(4) 看護の統合と実践

- ① チーム医療における看護師としてのメンバーシップ、およびリーダーシップの発揮や他職種との連携を学ぶ。
- ② 臨床判断を行うための基礎的能力を養うために専門基礎分野で学んだことをもとに看護実践を段階的に学ぶ。
- ③ 看護をマネジメントできる基礎的能力を学ぶ(医療安全、災害を含む)

(5) 臨地実習

- ① 知識・技術を看護実践の場面に適用し、看護の理論と実践を結び付けて理解できる能力を養う。
- ② 保健・医療・福祉との連携、協働を通して、切れ目のない看護について学ぶ。
- ③ 対象者及び家族の意思決定を支援することの重要性を学ぶ。

2. 教育方法

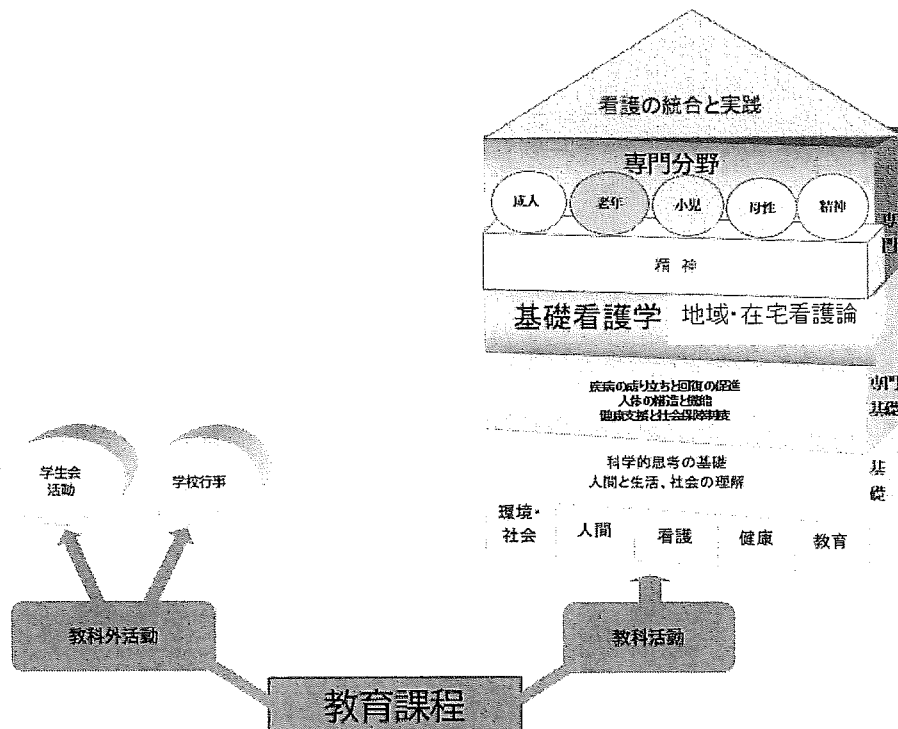
講義、演習、臨地実習を行います。その中で主体的に学習できるように、アクティブラーニング、反転授業などを取り入れた授業を展開します。

3. 学修成果

シラバスや実習要綱に沿って適切な評価を行います。

Ⅲ 教育課程

1. 教育課程構造図



科目の配列とその順序

分野	1 学 年		2 学 年		3 学 年	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
基礎	文章構成法 情報デザインⅠ・Ⅱ 心理学 コミュニティデザインⅠ・Ⅱ 運動と健康		人間関係論 演劇コミュニケーション		倫理学 統計学 教育学 アイヌ語とアイヌ文化 英語	
専門基礎	解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 病理学各論Ⅰ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 病理学各論Ⅱ 生化学 微生物学 薬理学 看護薬理学 栄養学 看護形態機能学 社会福祉Ⅰ 医療概論 公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ 病理学総論		病理学各論Ⅲ 社会福祉Ⅱ 病理学各論Ⅳ 病理学各論Ⅴ 病理学各論Ⅵ		関係法規	
専門	看護学概論Ⅰ 看護学概論Ⅱ 看護援助の基本Ⅰ 看護援助の基本Ⅲ 看護援助の基本Ⅱ 看護援助の基本Ⅳ 日常生活援助技術Ⅰ 日常生活援助技術Ⅱ 日常生活援助技術Ⅲ 日常生活援助技術Ⅳ 地域・在宅看護概論Ⅰ 地域・在宅看護概論Ⅱ 成人看護学概論 成人看護学援助論Ⅰ 老年看護学概論 老年看護学援助論Ⅱ 小児看護学概論 小児看護学援助論Ⅲ 母性看護学概論 母性看護学援助論Ⅳ 精神看護学概論 精神看護学援助論Ⅴ 健康支援論		診療援助技術Ⅱ 基礎Ⅱ実習 地域・在宅看護援助論Ⅰ 地域・在宅看護援助論Ⅲ 地域・在宅看護援助論Ⅱ 地域・在宅看護援助論Ⅳ 地域・在宅実習 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学援助論Ⅲ 高齢者施設実習・成人基礎実 老年看護学援助論Ⅰ 老年看護学援助論Ⅱ 小児看護学援助論Ⅰ 小児看護学援助論Ⅲ 母性看護学援助論Ⅰ 母性看護学援助論Ⅳ 精神看護学援助論Ⅰ 精神看護学援助論Ⅴ 周術期と看護 継続看護 終末期と看護 薬物療法と看護 問題解決活用法 看護の統合		地域・在宅実習Ⅱ 成人・老年実習Ⅰ 成人・老年実習Ⅱ 小児実習 母性実習 精神実習 看護研究 統合演習 看護管理 ケーススタディ 統合実	

2. 教 育 課 程 表

教 育 内 容		授 業 科 目	実務 経 験	1年次		2年次		3年次		単位 合計	時間 合計	備 考		
				単位	時間	単位	時間	単位	時間					
基礎分野 14単位 345時間	科学的思考の基礎 〔6単位〕150時間	文章構成法	○	1	30					1	30			
		情報デザインⅠ	○	1	30					1	30			
		情報デザインⅡ	○	1	15					1	15			
		統計学	○					1	30	1	30			
		英語	○					1	30	1	30			
		倫理学						1	15	1	15			
	人間と生活、社会の理解 〔8単位〕195時間	心理学	○	1	30					1	30			
		コミュニティデザインⅠ	○	1	30					1	30			
		コミュニティデザインⅡ	○	1	15					1	15			
		運動と健康	○	1	15					1	15			
		人間関係論	○			1	30			1	30			
		教育学	○					1	15	1	15			
		アイヌ語とアイヌ文化	○					1	30	1	30			
演劇コミュニケーション		○			1	30			1	30				
合 計				7	165	2	60	5	120	14	345			
専門基礎分野 23単位 570時間	人間の構造と機能 〔6単位〕180時間	解剖学Ⅰ		1	30					1	30			
		解剖学Ⅱ		1	30					1	30			
		生理学Ⅰ		1	30					1	30			
		生理学Ⅱ		1	30					1	30			
		看護形態機能学	○	1	30					1	30			
		生化学		1	30					1	30			
	疾病の成り立ちと回復の促進 〔11単位〕300時間	栄養学	○	1	30					1	30			
		微生物学	○	1	30					1	30			
		薬理学	○	1	30					1	30			
		看護薬理学	○	1	15					1	15			
		病理学総論	○	1	15					1	15			
		病理学各論Ⅰ	○	1	30					1	30			
		病理学各論Ⅱ	○	1	30					1	30			
		病理学各論Ⅲ	○			1	30			1	30			
		病理学各論Ⅳ	○			1	30			1	30			
		病理学各論Ⅴ	○			1	30			1	30			
		病理学各論Ⅵ	○			1	30			1	30			
	健康支援と社会保障制度 〔6単位〕90時間	医療概論	○	1	15					1	15			
		公衆衛生学Ⅰ		1	15					1	15			
		公衆衛生学Ⅱ		1	15					1	15			
		社会福祉Ⅰ		1	15					1	15			
		社会福祉Ⅱ				1	15			1	15			
		関係法規						1	15	1	15			
	合 計				17	420	5	135	1	15	23	570		
専門分野 68単位 2165時間	基礎看護学 〔11単位〕330時間	看護学概論Ⅰ	○	1	30					1	30			
		看護学概論Ⅱ	○	1	15					1	15			
		看護援助の基本Ⅰ	○	1	30					1	30			
		看護援助の基本Ⅱ	○	1	30					1	30			
		看護援助の基本Ⅲ	○	1	30					1	30			
		日常生活援助技術Ⅰ	○	1	30					1	30			
		日常生活援助技術Ⅱ	○	1	30					1	30			
		日常生活援助技術Ⅲ	○	1	30					1	30			
		日常生活援助技術Ⅳ	○	1	45					1	45			
		診療援助技術Ⅰ	○	1	30					1	30			
		診療援助技術Ⅱ	○			1	30			1	30			
		小 計				10	300	1	30	0	0	11	330	

教 育 内 容	授 業 科 目	実務 経験	1年次		2年次		3年次		単位 合計	時間 合計	備 考	
			単位	時間	単位	時間	単位	時間				
地域・在宅看護論 〔6単位〕150時間	地域・在宅看護概論Ⅰ	○	1	30					1	30		
	地域・在宅看護概論Ⅱ	○	1	15					1	15		
	地域・在宅看護援助論Ⅰ	○			1	15			1	15		
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	○			1	30			1	30		
	地域・在宅看護援助論Ⅲ	○			1	30			1	30		
	地域・在宅看護援助論Ⅳ	○			1	30			1	30		
	小 計		2	45	4	105			6	150		
成人看護学 〔4単位〕120時間	成人看護学概論	○	1	30					1	30		
	成人看護学援助論Ⅰ	○	1	30					1	30		
	成人看護学援助論Ⅱ	○			1	30			1	30		
	成人看護学援助論Ⅲ	○			1	30			1	30		
	小 計		2	60	2	60			4	120		
老年看護学 〔3単位〕90時間	老年看護学概論	○	1	30					1	30		
	老年看護学援助論Ⅰ	○			1	30			1	30		
	老年看護学援助論Ⅱ	○			1	30			1	30		
	小 計		1	30	2	60			3	90		
小児看護学 〔3単位〕90時間	小児看護学概論	○	1	30					1	30		
	小児看護学援助論Ⅰ	○			1	30			1	30		
	小児看護学援助論Ⅱ	○			1	30			1	30		
	小 計		1	30	2	60			3	90		
母性看護学 〔3単位〕90時間	母性看護学概論	○	1	30					1	30		
	母性看護学援助論Ⅰ	○			1	30			1	30		
	母性看護学援助論Ⅱ	○			1	30			1	30		
	小 計		1	30	2	60			3	90		
精神看護学 〔4単位〕90時間	精神看護学概論	○	1	15					1	15		
	精神保健	○	1	30					1	30		
	精神看護学援助論Ⅰ	○			1	15			1	15		
	精神看護学援助論Ⅱ	○			1	30			1	30		
	小 計		2	45	2	45			4	90		
健康状態に応じた看護 〔6単位〕165時間	健康支援論	○	1	30					1	30		
	周術期と看護	○			1	30			1	30		
	終末期と看護	○			1	30			1	30		
	継続看護	○			1	30			1	30		
	薬物療法と看護	○			1	15			1	15		
	問題解決活用法	○			1	30			1	30		
	小 計		1	30	5	135			6	165		
看護の統合と実践 〔5単位〕110時間	看護の統合	○			1	30			1	30		
	看護研究	○					1	15	1	15		
	ケーススタディ	○					1	30	1	30		
	看護管理	○					1	15	1	15		
	統合演習	○					1	20	1	20		
	小 計				1	30	4	80	5	110		
臨地実習 〔23単位〕930時間	基礎看護学Ⅰ実習	○	2	60					2	60		
	基礎看護学Ⅱ実習	○			3	90			3	90		
	地域・在宅看護論実習Ⅰ	○			2	60			2	60		
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	○					1	45	1	45		
	高齢者施設実習	○			1	45			1	45		
	成人看護学基礎実習	○			1	45			1	45		
	成人・老年看護学実習Ⅰ	○					2	90	2	90		
	成人・老年看護学実習Ⅱ	○					2	90	2	90		
	小児看護学実習	○					2	90	2	90		
	母性看護学実習	○					2	90	2	90		
	精神看護学実習	○					2	90	2	90		
	地域実習	○	1	45					1	45		
	統合実習	○					2	90	2	90		
	小 計		3	105	7	240	13	585	23	930		
講 義 総 計				44	1155	28	780	10	215	82	2150	
実 習 総 計				3	105	7	240	13	585	23	930	
総 合 計				47	1260	35	1020	23	800	105	3080	

3. 教 科 進 度 状 况

[illegible]

4. 教育課程計画

教 育 内 容		科 目	講 師	学年	単 位 (時間)	講 義 時 間 (コマ)	評価方法	配 点			
基礎分野 14単位	科学的思考の基礎 6単位（150）	文章構成法	上田	1	1（30）	30（15）	レポート	100			
		情報デザインⅠ	石田	1	1（30）	30（15）	課題・レポート	100			
		情報デザインⅡ	〃	1	1（15）	15（ 8）	課題・レポート	100			
		統 計 学		3	1（30）	28（14）	テスト	100			
		英 語		3A	1（30）	28（14）	テスト	100			
		〃		3B	〃	〃	テスト	100			
		倫 理 学		3	1（15）	14（ 7）	テスト	100			
	人間と生活、社会 の理解 8単位（195）	心 理 学	寺崎	1	1（30）	28（14）	テスト	100			
		コミュニティデザインⅠ	小島	1	1（30）	30（15）	総合評価	100			
		コミュニティデザインⅡ	〃	1	1（15）	15（ 8）	総合評価	100			
		運動と健康	杉山	1	1（15）	15（ 8）	総合評価	100			
		人間関係論		2	1（30）	30（15）	総合評価	100			
		教 育 学		3	1（15）	14（ 7）	テスト	100			
		アイヌ語とアイヌ文化		3	1（30）	30（15）	レポート	100			
演劇コミュニケーション		2	1（30）	30（15）	総合評価	100					
専門基礎分野 23単位	人体の構造と機能 6単位（180）	解 剖 学 Ⅰ	平	1	1（30）	28（14）	テスト	100			
		解 剖 学 Ⅱ	〃	1	1（30）	28（14）	テスト	100			
		生 理 学 Ⅰ	金子	1	1（30）	28（14）	テスト	100			
		生 理 学 Ⅱ	〃	1	1（30）	28（14）	テスト	100			
		看護形態機能学	寺本	1	1（30）	28（14）	課題	100			
		生 化 学	安田	1	1（30）	28（14）	テスト	100			
	疾病の成り立ちと 回復の促進 11単位（300）	栄 養 学	東郷	1	1（30）	28（14）	レポート	100			
		微 生 物 学	原・松田	1	1（30）	28（14）	テスト	100			
		薬 理 学	長塚	1	1（30）	28（14）	テスト	100			
		看護薬理学	船引	1	1（15）	14（ 7）	テスト・課題	100			
		病理学総論	佐藤啓	1	1（15）	14（ 7）	テスト	100			
		病理学各論Ⅰ	斎藤・河本・後藤 赤羽 松ヶ瀬	1	1（30）	14（ 7） 6（ 3） 8（ 4）	テスト	100			
		病理学各論Ⅱ		秋葉 大谷嘉 佐藤啓 貴田岡	1	1（30）	10（ 5） 4（ 2） 4（ 2） 10（ 5）	テスト	100		
		病理学各論Ⅲ				2	1（30）	4（ 2） 4（ 2） 6（ 3） 2（ 1） 8（ 4） 4（ 2）	テスト	100	
		病理学各論Ⅳ	2			1（30）	8（ 4） 6（ 3） 2（ 1） 4（ 2） 4（ 2） 4（ 2）	テスト	100		
		病理学各論Ⅴ		2		1（30）	8（ 4） 8（ 4） 12（ 6）	テスト	100		
		病理学各論Ⅵ							4（ 2） 4（ 2） 4（ 2） 4（ 2） 6（ 3） 2（ 1）	テスト	100
		麻 酔									
		手術療法									
		放射線治療									
		検査									
		化学療法									
		リハビリテーション									
再生医療											

教 育 内 容		科 目	講 師	学年	単位 (時間)	講 義 時 間 (コマ)	評価方法	配 点
健康支援と 社会保障制度 6単位(90)		医 療 概 論	森	1	1 (15)	14 (7)	テスト	100
		公衆衛生学Ⅰ	松浦	1	1 (15)	14 (7)	テスト	100
		公衆衛生学Ⅱ	伊藤俊	1	1 (15)	14 (7)	テスト	100
		社 会 福 祉Ⅰ	岩崎	1	1 (15)	14 (7)	テスト	100
		社 会 福 祉Ⅱ		2	1 (15)	14 (7)	テスト	100
		関係法規		3	1 (15)	14 (7)	テスト	100
専 門 分 野 6 8 単 位	基 礎 看 護 学 11単位(330)	看護学概論Ⅰ	秋本	1	1 (30)		テスト	100
		1. 看護の概念				8 (4)		
		2. 看護の対象				6 (3)		
		3. 人間と健康				4 (2)		
		4. 看護の提供者				2 (1)		
		5. 看護理論				4 (2)		
		6. 看護の場と役割・機能				4 (2)		
		看護学概論Ⅱ	秋本	1	1 (15)		テスト	100
		1. 倫理学の基本的な考え方				2 (1)		
		2. 生命倫理				2 (1)		
		3. 看護倫理				2 (1)		
		4. 専門職の倫理				4 (2)		
		5. 倫理的問題へのアプローチ				4 (2)		
		看護援助の基本Ⅰ	寺本 〃 深川 片岡	1	1 (30)		テスト	100
		1. 看護技術の概念				2 (1)		
		2. 看護における記録・報告				4 (2)		
		3. コミュニケーション				12 (6)		
		4. 安全を守るための技術				10 (5)		
		看護援助の基本Ⅱ	中坪	1	1 (30)		テスト	100
		1. フィジカルアセスメントの理解				4 (2)		
		2. フィジカルアセスメントの実際				24 (12)		
		看護援助の基本Ⅲ	諏訪	1	1 (30)		テスト・課題	100
		1. 看護過程の概念と構成要素				8 (4)		
		2. ヘンダーソンのニード理論と看護過程				6 (3)		
		3. ヘンダーソンの理論に基づく看護過程の実際				14 (7)		
		日常生活援助技術Ⅰ	勝見 藤野	1	1 (30)		テスト	100
		1. 環境を整える技術				16 (8)		
		2. 活動・休息の技術				12 (6)		
		日常生活援助技術Ⅱ	赤間	1	1 (30)		テスト	100
		1. 健康生活における清潔の意義と基本的知識				4 (2)		
		2. 身体の清潔・衣生活を整える援助				24 (12)		
		日常生活援助技術Ⅲ	齊藤	1	1 (30)		テスト	100
		1. 食生活の援助技術				8 (4)		
		2. 排泄の援助技術				20 (10)		
		日常生活援助技術Ⅳ	中坪 勝見 赤間	1	1 (45)		技術チェック	100
		1. オリエンテーション				4 (2)		
		2. 技術練習および技術チェック				40 (20)		
		3. 演習の振り返り				2 (1)		
		診療援助技術Ⅰ	齊藤 安藤	1	1 (30)		テスト	100
		1. 検査時の看護				6 (3)		
		2. 治療・処置に伴う看護				6 (3)		
		1) 吸入・酸素吸入				4 (2)		
		2) 吸引				2 (1)		
		3) 包帯				4 (2)		
		4) 電 法				6 (3)		
		5) 創傷処置	和田					
		診療援助技術Ⅱ		2	1 (30)		テスト	100
		1. 与薬(採血含む)				20 (10)		
		2. 輸液・静脈内注射				6 (3)		
		3. 輸血				2 (1)		
地域・在宅看護論 6単位(150)		地域・在宅看護概論Ⅰ	土田	1	1 (30)		総合評価	100
		1. 暮らしと生活者				6 (3)		
		2. コミュニティと生きがい				6 (3)		
		3. 生活環境と健康、暮らしを支える看護				6 (3)		
		4. 地域に暮らす人々				10 (5)		

教 育 内 容		科 目	講 師	学年	単 位 (時間)	講 義 時 間 (コマ)	評価方法	配 点
専 門 分 野 6 8 単 位		地域・在宅看護概論Ⅱ 1. 地域・在宅看護の変遷 2. 地域・在宅看護の対象と取り巻く環境 3. 地域・在宅看護の理念と倫理	雄城	1	1 (15)	6 (3) 2 (1) 6 (3)	テスト	100
		地域・在宅看護援助論Ⅰ 1. 地域・在宅における健康管理 2. 日常生活における安全管理 3. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割		2	1 (15)	6 (3) 2 (1) 6 (3)	テスト	100
		地域・在宅看護援助論Ⅱ 1. 訪問看護の特徴 2. 在宅看護におけるアセスメントと生活援助		2	1 (30)	12 (6) 16 (8)	テスト	100
		地域・在宅看護援助論Ⅲ 1. 生活の場における医療と看護 2. 療養者家族への支援 3. 地域・在宅における終末期ケア		2	1 (30)	18 (9) 4 (2) 6 (3)	テスト	100
		地域・在宅看護援助論Ⅳ 1. 疾患・状況別の地域・在宅看護の実際 2. 地域・在宅における看護過程		2	1 (30)	18 (9) 10 (5)	テスト	100
		成人看護学 4単位(120)	片岡	1	1 (15)	4 (2) 8 (4) 6 (3) 10 (5)	テスト	100
		成人看護学援助論Ⅰ 1. 消化吸収機能障害のある人の看護 2. 栄養・代謝機能障害のある人の看護 3. 呼吸機能障害のある人の看護 4. 循環機能障害のある人の看護 5. 排尿機能障害のある人の看護	佐藤 〃 安藤 佐藤 〃	1	1 (30)	6 (3) 6 (3) 6 (3) 8 (4) 2 (1)	テスト	100
		成人看護学援助論Ⅱ 1. 内部環境調節機能障害のある人の看護 2. 血糖機能障害のある人の看護 3. 身体防御機能障害のある人の看護		2	1 (30)	8 (4) 14 (7) 8 (4)	テスト・提出物	100
		成人看護学援助論Ⅲ 1. 脳神経機能障害のある人の看護 2. 運動機能障害のある人の看護 3. 感覚機能障害のある人の看護 4. 性・生殖機能障害のある人の看護		2	1 (30)	8 (4) 10 (5) 6 (3) 4 (2)	テスト	100
		老年看護学 3単位(90)	深川	1	1 (30)	6 (3) 8 (4) 4 (2) 6 (3) 4 (2)	テスト	100
		老年看護学援助論Ⅰ 1. 日常生活動作維持の援助 2. 高齢者の日常生活のアセスメントと援助		2	1 (30)	4 (2) 24 (12)	テスト	100
		老年看護学援助論Ⅱ 1. 寝たきりと認知症高齢者の看護 2. 高齢者のコミュニケーション障害と看護 3. 老年期特有の健康障害と看護 4. 安らかな死に向けての看護 5. 看護過程の展開		2	1 (30)	6 (3) 2 (1) 10 (5) 2 (1) 8 (4)	テスト・提出物	100
		小児看護学 3単位(90)	諏訪	1	1 (30)	2 (1) 4 (2) 6 (3) 8 (4) 4 (2) 4 (2)	テスト・提出物	100
		小児看護学援助論Ⅰ 1. 発達段階における子どもの生活と支援 2. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 3. 検査・処置を受ける子どもの看護 4. 小児期における疾病の経過と看護		2	1 (30)	8 (4) 4 (2) 4 (2) 12 (6)	テスト・提出物	100

教 育 内 容		科 目	講 師	学年	単位 (時間)	講 義 時 間 (コマ)	評価方法	配 点
専 門 分 野 6 8 単 位	母 性 看 護 学 3単位(90)	小児看護学援助論Ⅱ 1. 子どもの主な疾患 2. 外来・緊急時の子どもと家族の看護 3. さまざまな状況にある子どもと家族の看護 4. 障害のある子どもと家族の看護 5. NICUに入室している子どもと家族の看護		2	1 (30)	14 (7) 2 (1) 6 (3) 4 (2) 2 (1)	テスト	100
		母性看護学概論 1. 母性看護の基盤となる概念 2. リプロダクティブヘルスに関する概念 3. 母性看護と倫理 4. 母性看護の対象理解 5. リプロダクティブヘルスケア 6. 女性のライフステージと看護 母性看護のまとめ	松村	1	1 (30)	4 (2) 4 (2) 4 (2) 6 (3) 6 (3) 4 (2)	テスト	100
		母性看護学援助論Ⅰ 1. 周産期看護 2. 妊娠期看護 3. 分娩期看護		2	1 (30)	2 (1) 18 (9) 8 (4)	テスト	100
		母性看護学援助論Ⅱ 1. 産褥期看護 2. 新生児期の看護 3. 母性の看護過程		2	1 (30)	12 (6) 10 (5) 6 (3)	テスト・課題	100
	精 神 看 護 学 4単位(90)	精神看護学概論 1. 精神看護の基本的な考えかた 2. 精神障がいをもつ人のアセスメントの視点	船引・大西・土田	1	1 (15)	10 (5) 4 (2)	テスト・レポート	100
		精神保健 1. 精神とは、精神の機能 2. ライフサイクルと精神保健 3. 生活の場と精神保健 4. 社会と精神保健 5. 精神の健康の捉え方 6. 精神障害の歴史的変遷 7. 精神保健活動	長谷川	1	1 (30)	4 (2) 6 (3) 4 (2) 6 (3) 2 (1) 4 (2) 2 (1)	テスト	100
		精神看護学援助論Ⅰ 1. ケアの人間関係 2. 回復(リカバリー)とストレングスモデル		2	1 (15)	8 (4) 6 (3)	テスト・提出物	100
		精神看護学援助論Ⅱ 1. 精神障害と社会復帰 2. 精神障害と看護の考え方 3. 精神障害の理解と看護		2	1 (30)	4 (2) 4 (2) 20 (10)	テスト・課題	100
		健康状態に応じた看護 6単位(165)	高濱	1	1 (30)	6 (3) 18 (9) 4 (2)	テスト・課題	100
		周術期と看護 1. 周術期の看護とは 2. 術前の患者の看護 3. 術中の患者の看護 4. 術後の患者の看護 5. 高齢者と手術 6. 精神障害のある患者と手術 7. 手術を受ける子どもと家族の看護 8. 帝王切開術を受ける産婦の看護		2	1 (30)	4 (2) 6 (3) 2 (1) 6 (3) 2 (1) 2 (1) 4 (2) 2 (1)	テスト	100
		継続看護 1. 継続看護とは 2. 継続看護の実践		2	1 (30)	4 (2) 24 (12)	テスト・課題	100

教 育 内 容		科 目	講 師	学 年	単 位 (時間)	講 義 時 間 (コマ)	評価方法	配 点
専 門 分 野 6 8 単 位		終末期と看護 1. 終末期にある対象の理解 2. 緩和ケア 3. 死の受容 4. 看取りの看護 5. 死亡時の看護		2	1 (30)	6 (3) 4 (2) 6 (3) 10 (5) 2 (1)	テスト	100
		薬物療法と看護 1. 薬物療法と看護の基礎知識 2. 薬物療法と看護の実際 3. 薬物療法における安全管理		2	1 (15)	2 (1) 10 (5) 2 (1)	テスト・課題	100
		問題解決活用 1. 発達段階と看護の展開 2. その人らしさを支える看護 3. 「生活しているひとりの人」の理解		2	1 (30)	4 (2) 24 (12) 2 (1)	成果物	100
	看護の統合と実践 5単位 (110)	看護の統合 1. 医療安全 2. 救命救急 3. 国際協力 4. 災害看護		2	1 (30)	10 (5) 6 (3) 6 (3) 6 (3)	テスト	100
		看護研究 1. 看護研究の基礎 2. ケーススタディの基礎		3	1 (15)	10 (5) 4 (2)	テスト	100
		ケーススタディ 1. ケーススタディのプロセス 2. ケーススタディの実際		3	1 (30)	2 (1) 28 (14)	論文	100
		看護管理 1. 看護管理の概念 2. 看護におけるマネジメント 3. 看護管理の実際 4. マネジメントに必要な知識と技術 5. 看護職のキャリアマネジメント		3	1 (15)	2 (1) 4 (2) 4 (2) 2 (1) 2 (1)	テスト	100
		統合演習 1. 臨床看護の実際		3	1 (20)		テスト・提出物	100
		臨 地 実 習 23単位 (930)	基礎看護学Ⅰ実習 基礎看護学Ⅱ実習 地域・在宅看護論実習Ⅰ 地域・在宅看護論実習Ⅱ 高齢者施設実習 成人看護学基礎実習 成人・老年看護学実習Ⅰ 成人・老年看護学実習Ⅱ 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 地域実習 統合実習 実習要綱参照					

5. 授業科目の概要

A. 基礎分野

<科学的思考の基盤>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
文章構成法	1	30	現象を的確に捉え筋道を立てて考える論理的思考とそれを表現できる文章構成能力を養う。文章構成に関する問題意識を明確に持ち、かつ自己の文章構成力を自己評価しながら学習できる事と、レポート課題に活用していけるよう1年次前期に履修する。	講義 演習	1年次 前期
情報デザインⅠ	1	30	情報の本質を理解し、看護学部領域に限定しない情報の意味を習得する。また、情報を取り扱う際の様々なメディアの特性についてもあわせて学修し、情報伝達の様々な手法も実践する。	講義 演習	1年次 前期
情報デザインⅡ	1	15	情報デザインⅠで習得した知識を踏まえ、情報伝達の応用的実践を行う。様々な情報機器に対する知識を習得する。加えて、グループワークに取り組み、課題を通してコミュニケーションの実践を行う。	講義 演習	1年次 後期
統計学	1	30	各種統計データの取り扱い方、まとめ方の基礎を習得し、看護研究及び保健の動向への理解に役立てる。情報の収集・整理・活用方法について、パソコンを用いて学び、情報化社会へ対応できる基礎的能力を身に付ける。	講義 演習	3年次 前後期
英語	1	30	国際社会の一員として基本的な英語力をもつこと、医療・看護に関する英語を学び、英文の解釈と簡単な会話ができるようになることを目的とした学習を行う。	講義 演習	3年次 前期
倫理学	1	15	生命倫理を学び、生命の尊厳と、生命の質について考えることを狙いとする。人間として、医療者としての倫理的判断を身につける。さらに、看護職者として倫理的課題を解決するための基礎的能力を身につける。	講義 演習	3年次 前期

<人間と生活、社会の理解>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
心理学	1	30	心理学の基礎的知識、及び人間の心理、行動について学び、自己及び対象の幅広い理解を深める。各看護学における対象論の講義に先駆けて行う。	講義	1年次前期
コミュニティデザインⅠ	1	30	コミュニティデザインの手法を理解し、地域の課題発見・解決し安心安全な地域福祉を実現するための調査・企画力、手難力を体得する。	講義 演習	1年次前期
コミュニティデザインⅡ	1	15	「コミュニティデザインⅠ」において理解した理論、体得したコミュニティデザインのアプローチ方法、地域の課題解決の手法をもとに、地域におけるフィールドワーク（FWで）実践知を高める。	講義 演習 FW	1年次後期
運動と健康	1	15	体力の増強をはかる中でスポーツの楽しみを実感し、その意味を体験を通して学ぶ。また、運動と健康の関連についても考え、各年代に合った運動についても学び、実践する。	講義 実技	1年次前期
人間関係論	1	30	対人関係に関する諸理論を学ぶことにより、相互尊重に基づいて、人間関係を築くための基礎的能力を養う。自己洞察を深めながら学習できるようにする。	講義 演習	2年次前後期
教育学	1	15	教育の目的や本質を理解し、看護場面における教育的役割について学ぶ。	講義	3年次前期
アイヌ語とアイヌ文化	1	30	日本語とアイヌ語並びにそれらによって形作られる文化を北海道とともに息づく言語・文化として理解する視座に立って、アイヌ語で語られる生活史、物語、自叙伝などを読み解き、様々な形での追体験を通して、そこに書き出される人間関係、社会、生活、人生などの文化的とらえ方を現代的な視点から学ぶ。また、アイヌ語と日本語、それぞれの今と昔にみられる類似点と相違点を比較・対照することによって、多様な物事のあり方、価値観について理解を深める。	講義 GW	3年次前後期
演劇コミュニケーション	1	30	「身体性」や「身体感覚」に重点を置き、「シアターゲーム」や「コミュニケーションアクティビティ」といった俳優のトレーニングを体験し、普段の態度や振る舞い、他者との関わり方をふり振り返りつつ、人と人が関係性を築く上で身体が与える影響の大きさを学ぶ。また、共感力の根元となる想像力を磨く。	講義 演習	2年次前後期

B. 専門基礎分野

<人体の構造と機能>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
<解剖学>			人間の正常な形態、構造を人体の諸機能と関連付けて学ぶ。		
解剖学Ⅰ	1	30	細胞、組織、骨格系、筋系、循環器系 血液・造血器・リンパ系、消化器系	講義	1年次前期
解剖学Ⅱ	1	30	呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系 神経系、外皮、感覚器	講義	1年次前後期
<生理学>			人間の正常な形態、構造に関連づけ、生理機能や生命現象を学ぶ。		
生理学Ⅰ	1	30	細胞生理、血液・造血・リンパ系、神経系 皮膚、運動器系、循環器系、呼吸器系	講義	1年次前期
生理学Ⅱ	1	30	消化器系、腎・泌尿器系 内分泌・代謝・栄養・体温、生殖、感覚器	講義	1年次前後期
看護形態機能学	1	30	人間のからだの構造と機能を生活者という視点から理解する	講義	1年次後期
生化学	1	30	物質代謝や、エネルギー交代の仕組みについて学び、人体の生命現象を科学的側面から捉える。	講義	1年次前期

<疾病の成り立ちと回復の促進>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
栄養学	1	30	生命の正常な営みのための必要な栄養に関する基礎的知識及び健康障害・健康回復と栄養との関係を学び、看護実践のための基礎的知識とする。また、調理実習を行い保健指導・患者指導に学んだ知識を活用できるようにする。	講義	1年次前期
微生物学	1	30	病原微生物が人体に及ぼす影響、感染と免疫の機序を理解し、疾病の予防対策について学ぶと共に、感染予防に対する責任を認識する。	講義	1年次前期

薬理学	1	30	薬物の作用機序、副作用など生体への影響、薬物の取り扱いや管理について学習する。また基礎的知識をもとに、薬物療法における看護の役割について考えられる。 臨床の場での薬物療法が理解できるよう以下の各薬剤について学習する。 末梢神経作用薬、心臓・血管系作用薬、中枢神経作用薬、炎症とアレルギーに関する薬物、物質代謝作用薬、気管支喘息治療薬、消化性潰瘍治療薬、化学療法薬	講義	1年次 前後期
看護薬理学	1	15	対象に適切な薬物治療を実施するために必要となる基礎知識を看護の視点から理解する。	講義	1年次 後期
病理学総論	1	15	人体組織における主要な病的状態について、その原因、発生機序、病理的状态を学ぶ。	講義	1年次 前期
病理学各論			器官系統別の代表的疾病の原因、発生機序、経過、検査、治療法を学び、疾病の成り立ちと回復を助ける医療内容を理解する。		
病理学各論Ⅰ	1	30	消化器系の疾患、腎泌尿器系の疾患	講義	1年次 前後期
病理学各論Ⅱ	1	30	呼吸器系の疾患、循環器系の疾患	講義	1年次 後期
病理学各論Ⅲ	1	30	内分泌系の疾患、自己免疫疾患、血液・リンパ系の疾患、口腔外科疾患、代謝異常	講義	2年次 前期
病理学各論Ⅳ	1	30	女性生殖器系の疾患、乳腺疾患、運動器系の疾患、感覚器	講義	2年次 前期
病理学各論Ⅴ	1	30	脳神経系の疾患、精神病理	講義	2年次 前後期
病理学各論Ⅵ	1	30	麻酔、手術、放射線治療、検査、リハビリテーション、再生医療	講義	2年次 前期

<健康支援と社会保障制度>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
医療概論	1	15	総合保健医療福祉の概念を理解し、保健・医療・福祉における現状の問題と今後の展望について学ぶ。	講義	1 年次前期
公衆衛生学Ⅰ	1	15	公衆衛生の概念、保健統計・疫学、社会保障制度と医療システム、年代的対象ごとの各種保健活動の動向や制度について学ぶ。	講義	1 年次後期
公衆衛生学Ⅱ	1	15	生活する場における保健活動、さらには健康範囲による精神保健など、それぞれに対する現状や影響すること、その対策について学ぶ。	講義	1 年次後期
社会福祉Ⅰ	1	15	総合保健医療福祉における福祉の概念を理解し、社会制度と社会資源の活用方法を学ぶ。	講義	1 年次後期
社会福祉Ⅱ	1	15	現代の福祉問題を把握すると共に看護と社会福祉の関連性、看護実践における福祉との協働の意義を修得する。	講義	2 年次前後期
関係法規	1	15	我が国の保健医療福祉に関する法令制度を理解し、看護は法的根拠に基づき、看護業務がなされていることを理解し、看護職の果たす役割を理解する。	講義	3 年次前期

C. 専門分野

<基礎看護学>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
看護学概論Ⅰ	1	30	看護学の学習の第1歩として、看護の概念、役割、機能、看護の対象である人間、健康について学ぶ。この科目での学びを通して、看護の役割と重要性について考え、今後の学習の方向性を見出すことを目指す。	講義	1年次前期
看護学概論Ⅱ	1	15	専門職として倫理的判断のもとに看護を行うため、看護実践の基本的概念である職業倫理としての看護倫理を学ぶ。	講義 演習	1年次前期
看護援助の基本Ⅰ	1	30	看護実践の基盤となる看護技術の概念を学び、さらに記録・報告、コミュニケーション、安全など看護行為に共通する技術を学ぶ。	講義 演習	1年次前期
看護援助の基本Ⅱ	1	30	看護を実践するためには、フィジカルアセスメントを行い、根拠に基づいて的確に系統的に把握する必要がある。そのための基本的な知識・技術・態度を身につける。	講義 演習	1年次前期
看護援助の基本Ⅲ	1	30	看護における問題解決思考プロセスを理解し、対象に応じた問題を的確に捉え、解決して行くための看護過程展開の基礎的知識を学ぶ。	講義 演習	1年次前後期
日常生活援助技術Ⅰ	1	30	心身の機能を十分に発揮できるための環境調整、生体リズムを整える活動・休息の原理・原則を理解し、生活行動を整えるための基礎的援助技術を習得する。	講義 演習	1年次前期
日常生活援助技術Ⅱ	1	30	人間生活に欠かせない基本的ニードである清潔を保つための原理・原則を理解し、対象に応じた方法で生活行動を整えるための基礎的援助技術を習得する。	講義 演習	1年次前期
日常生活援助技術Ⅲ	1	30	食事・排泄という人間の健康にとって欠くことが出来ない重要な生活行動を整えるための基礎的援助技術を習得する。	講義 演習	1年次前後期
日常生活援助技術Ⅳ	1	45	既習のバイタルサイン測定、日常生活援助技術を原理・原則に沿って、確実に実施できる技術力を身に付ける。	演習	1年次前後期
診療援助技術Ⅰ	1	30	生体機能を整えるための診療援助技術の基本を学習し、安全で安楽な援助が実践できる能力を習得する。ここでは、吸引・吸入・酸素吸入・包帯・創傷処置・電法を学習する。	講義 演習	1年次後期

診療援助技術Ⅱ	1	30	生命に直結することが多い、与薬・輸液・静脈内注射・輸血などの診療援助技術を中心に、安全で効果的な技術が提供するために必要な看護を学習する。	講義 演習	2年次 前期
---------	---	----	---	----------	-----------

<地域・在宅看護論>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
地域・在宅看護概論Ⅰ	1	30	地域で生活する人々や暮らしについて理解し、暮らしが健康に与える影響について学ぶ。 そして、暮らしを支える人々や地域看護について学ぶ。	講義 演習	1年次 前期
地域・在宅看護概論Ⅱ	1	15	社会環境の変遷と健康課題に対応した地域看護の歴史などを通して、在宅療養を支える法律や制度、保健医療福祉チームのあり方について学ぶ。	講義	1年次 後期
地域・在宅看護援助論Ⅰ	1	15	地域で生活する人々の健康の保持、疾病の予防を支援する看護について学ぶ。	講義 演習	2年次 前期
地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30	地域で療養する人々の生活を支える看護について学ぶ	講義 演習	2年次 前期
地域・在宅看護援助論Ⅲ	1	30	療養者の状況に応じたアセスメントの視点、セルフマネジメント力向上の支援、医療処置を行っている療養者や家族に対しての必要が看護技術を学ぶ。	講義 演習	2年次 前後期
地域・在宅看護援助論Ⅳ	1	30	地域・在宅療養者に多く見られる疾患を中心とした看護の特徴や他職種との連携、社会資源の活用について学ぶ。また、地域・在宅看護における看護過程の展開を行う。	講義 演習	2年次 後期

<成人看護学>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
成人看護学 概論	1	30	成人各期の発達段階、発達課題を理解する。 また、さまざまな健康状態にある対象の特徴、看護アプローチや健康を守るシステム、有用な理論と看護を理解する。	講義 演習	1年次 前期
成人看護学 援助論Ⅰ	1	30	消化吸収機能、栄養・代謝機能、呼吸機能、循環機能、排尿機能障害により、生涯に亘り自己コントロールが必要な人の看護を実践するための基礎を学ぶ。	講義 演習	1年次 前後期
成人看護学 援助論Ⅱ	1	30	内部環境調節機能、血糖調節器機能、身体防御機能障害により、生涯に亘り自己コントロールが必要な人の看護を実践するための基礎を学ぶ。	講義 演習	2年次 前期
成人看護学 援助論Ⅲ	1	30	脳神経機能、運動機能、感覚機能、性・生殖機能障害があり、健康や生命の危機的状況にある人のQOLの維持や健康寿命の延長に必要な看護を実践するための基礎を学ぶ。	講義 演習	2年次 前後期

<老年看護学>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
老年看護学 概論	1	30	老年期にある対象の身体的、精神的、心理的、社会的変化と特徴を理解する。また、高齢社会における保健、医療、福祉の意義と老年看護の役割について学ぶ。	講義 演習	1年次 前後期
老年看護学 援助論Ⅰ	1	30	加齢に伴う身体的、精神的、社会的変化をふまえて、老年期にある対象の日常生活への適応を促進し、自立性の維持を目指した看護が行える方法を学ぶ。	講義 演習	2年次 前期
老年看護学 援助論Ⅱ	1	30	身体・精神・社会的変化などにより、生活機能の低下や日常生活行動が自立に向かえない高齢者が有する特徴的な二次的障害を理解する。また、その高齢者や家族を援助するために必要な基礎的知識と高齢者を尊重した看護を学ぶ。	講義 演習	2年次 前後期

<小児看護学>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
小児看護学 概論	1	30	小児看護の概念を理解し、子どもと家族を取り巻く社会の現状から倫理的課題や小児看護の必要性を学ぶ。また、子どもの成長・発達過程を理解し、子どもの健やかな成長・発達に向けた看護の役割を学ぶ。	講義	1年次 前後期
小児看護学 援助論Ⅰ	1	30	小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護について学び、子どもの全体像を理解する。また、病気や障害に対して子どもと家族が示す反応をとらえ、健康問題や発達段階による特徴から、必要とされる看護を考える。	講義 演習	2年次 前期
小児看護学 援助論Ⅱ	1	30	小児の疾患を学ぶ。また、子どもの発達段階や家族のニーズ、疾病や健康問題の状態に応じた看護を学ぶ。健康障害を持つ子どもと家族が遭遇するさまざまな状況を知り、看護に必要な知識・技術・態度を身につける。	講義	2年次 前後期

<母性看護学>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
母性看護学 概論	1	30	母性看護学の概念および母性のあり方を理解する。また、リプロダクティブヘルスライツに関する概念、倫理、対象、リプロダクティブヘルスケアの実際を理解し、ライフステージに合わせた健康教育から母性看護の役割について学ぶ。	講義	1年次 後期
母性看護学 援助論Ⅰ	1	30	妊娠期・分娩期に母子の身体的・心理的・社会的変化と適応過程における総合的アセスメントを理解する。また、妊娠期・分娩期の看護の原則と必要な看護について学ぶ。	講義 演習	2年次 前期
母性看護学 援助論Ⅱ	1	30	産褥・新生児期の過程を理解し、子どもと母親の健康を守るセルフケア能力を獲得するために必要な援助を学ぶ。また、新生児の成長発達にとって適切な療育環境を整えるための基本的知識を学ぶ。	講義 演習	2年次 後期

<精神看護学>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
精神看護学概論	1	15	精神看護の対象・場・看護者の役割を理解し、精神障害者の人権尊重と看護師の倫理的配慮について学ぶ。また、精神看護に必要な倫理や法律、制度、安全管理について学び、精神に障害をもつ人の生きにくさ、不自由さを理解し、看護を実践するためのアセスメントモデルについて理解する。	講義	1 年次前後期
精神保健	1	30	精神のはたらき・しくみ、精神の健康と影響因子について理解する。またその中で起きる危機状況について理解し、各看護学で学ぶ対象理解の基盤とする。	講義 演習	1 年次後期
精神看護学援助論Ⅰ	1	15	精神障害をもつ対象との治療的関係の構築のために必要な知識とコミュニケーション技法を学ぶ。また、対象の回復（リカバリー）を促進するための強みや生きる力に着目した看護モデルを理解する。	講義 演習	2 年次前期
精神看護学援助論Ⅱ	1	30	精神障害を多角的にとらえ、対象の発達段階を踏まえ回復（リカバリー）と自立（自律）を促進する看護援助について学ぶ。また、精神障害をもつ人への地域における看護の実践を学ぶ。	講義 演習	2 年次後期

<健康状態に応じた看護>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
健康支援論	1	30	ライフステージ各期の発達課題、健康課題と施策の概要、健康支援の基本的理論・方法について学び、看護者の役割を理解する。また、衛生統計から保健医療福祉の動向が理解できる。	講義 演習	1 年次後期
周術期と看護	1	30	手術による生体侵襲と生体反応を理解し、周術期の特徴に応じた看護が理解できる。また、手術後の身体的変化が生活にどのような影響を与えているのか、それに対しての必要な看護援助について理解する。	講義	2 年次前期
終末期と看護	1	30	終末期にある対象の特徴を理解し、各発達段階にある人とその家族の死の捉え方を学ぶ。さらに、身体や精神の苦痛を緩和させつつ、人としての尊厳を保ちながら、静かにその人らしい最期を迎えられるよう、また、不安定な精神状態にある家族への看護について学ぶ。	講義 演習	2 年次後期

継続看護	1	30	継続看護の意義や目的を理解するとともに、継続看護を提供するための在宅看護について理解する。また、事例を通して継続看護を考えることができる。	講義 演習	2 年次 前後期
薬物療法と看護	1	15	薬物療法を受ける対象に必要な看護の方法、薬物治療における安全管理と Medikation エラーが理解できる。	講義 演習	2 年次 前期
問題解決 活用法	1	30	各発達段階、さまざまな健康状態にある対象の看護過程の特徴を理解し、展開できる。また、その中で、「生活しているひとりの人」の一生を理解する。	講義 演習	2 年次 前後期

<看護の統合と実践>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業 形態	履修 時期
看護の統合	1	30	多様な場面で求められる看護の役割・機能を理解し、信頼される看護が実践できるための基礎的能力を修得する。また、医療安全、救命救急、国際協力、災害看護において看護者が担う役割・機能・活動内容を学習し、習得した看護技術を安全に実践できる能力を身につける。	講義 演習	2 年次 前後期
看護研究	1	15	看護研究における研究の意義、概要と方法、実践者としての基本的な姿勢を理解する。	講義 演習	3 年次 前期
ケース スタディ	1	30	ケーススタディのプロセスを理解し、実習中受け持ったケースの看護過程の展開を振り返り、詳細に検討・再評価を行う。 ケーススタディの取り組みを通して問題意識を高め、研究的態度を養う。また自己洞察を深め、自己の看護観を育む。	講義 演習	3 年次 前後期
看護管理	1	15	看護専門職としてマネジメント能力が求められている。マネジメントの概念・看護管理に関する基本的な知識と技術を学び、専門職業人としての基礎作りを行う。	講義	3 年次 前後期
統合演習	1	20	様々な健康レベルにある対象者に、根拠に基づいた看護技術の実践ができるような応用力を身につける。複数事例の看護計画を展開し、3 年間で学習した基礎的知識と看護援助技術の達成状況を総合的に評価する。	講義 演習	3 年次 前後期

基礎分野

科学的思考の基盤

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
文章構成法	1単位（30時間）	1 年次 前期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 文章はコミュニケーションの重要な手段ですが、その最も大きな特色は、文字として記録に残るということです。それは、時間・空間を超えて多くの人に事実や考えを伝えることができるという利点がある一方で、そのような隔たりがあってもなお、それらが適切に伝わるように書かなければならないという難しさがあります。 この授業では、社会生活において適切な文章を書くための基礎的な知識や文章の構成法について学んでいきます。もちろんみなさんはこれまで文章を書くことについてさまざまなことがらを学んできたはずです。この授業が、それらを改めて整理する機会になるとともに、みなさんの文章構成力を向上させる手がかりになることを期待します。				
授 業 計 画	第1回：授業のねらいと概要 第2回：文章表現の基礎知識（1）－漢字・送り仮名・句読点などの表記－ 第3回：文章表現の基礎知識（2）－手紙・原稿用紙などの形式－ 第4回：文章表現の基礎知識（3）－待遇表現や文体など－ 第5回：わかりやすい文章表現（1）：文の構成 第6回：わかりやすい文章表現（2）：内容のまとめ 第7回：文章構成の基本（1）：事実の表現 第8回：文章構成の基本（2）：資料の活用 第9回：文章構成の基本（3）：データの活用 第10回：文章構成の基本（4）：比較の構成 第11回：文章構成の基本（5）：論理の構成－根拠をまとめる－ 第12回：文章構成の基本（6）：論理の構成－根拠と考えをつなぐ－ 第13回：文章構成の実際：実用的な文章の構成 第14回：文章構成の実際：論理的な文章の構成 第15回：まとめ			
評 価	レポートによる。			
教 科 書	特に定めません。必要に応じて資料を配布します。			
参 考 文 献	授業時に、適宜、示します。			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
情報デザイン I	1単位（30時間）	1年次 前期	非常勤講師	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

情報とは何でしょう。現代を生きる私達にとって、情報を理解することは自分たちの生活を豊かにしかつ自分たちを守ることでもあります。一方で、情報の本質を見誤ることで大きな間違いが起こることにもなります。つまり情報とは、非常に便利なものでもあり、一方で非常に危ないものでもあるのです。看護という領域では、様々な重要な情報を取り扱います。本講義では情報の本質を知り、看護という領域だけに限らない情報の意味を学修します。さらに、情報を扱うメディアの特性も知ること、自らが情報を扱う際の、様々な手法も習得します。

<単元目標>

1. 情報とは何かを知る
2. 情報の利便性と危険性を理解する
3. メディアの違いを理解し、その有効性を踏まえた選定を可能とする

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 情報を知る (10時間)	1～5	1) 情報とは何か、その実例と定義 (1) すべての物事が情報となる (2) デジタルネイティブとSNS (3) ゲームと私たち (4) スマホは世界への出入り口 (5) 情報を取り扱うための権利（著作権、肖像権etc.）	講義
2. 情報を伝える (10時間)	6～10	1) 情報伝達のための様々なメディアを理解する (1) メディアとは何か (2) メディアの違いを知る (3) メディアの差を考える (4) 伝えるべき相手は誰なのかを考える	講義
3. 情報伝達の実践 (10時間)	11～15	2) 情報の伝達を有効に行うための実践 (1) 他己紹介の実践 (インタビュー、リサーチ) (2) 集めた情報の整理 (メディア選定、編集) (3) 紹介のための資料制作（パワーポイント等プレゼンテーション資料の作成） (4) プレゼンテーションの実践	講義 演習
評 価	講義内で出題する課題（60％）及び、レポート（40％）		
教科書	なし		
参考文献	必要時授業内で提示する。		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
情報デザインⅡ	1単位（15時間）	1年次 後期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 情報デザインⅠで習得した情報に対する知識を踏まえ、看護の領域における情報伝達の応用的実践を行います。はじめに、自らの手にあるスマートフォンやデジタルカメラ、タブレットやコンピュータなどの様々な情報機器に対する知識を習得します。加えて、それらの知識をもとにグループワークに取り組み、課題となる情報コンテンツの制作を通して、プロジェクトマネジメントに重要なコミュニケーションの実践を行います。 <単元目標> 1. 情報伝達のためのコミュニケーションを実践する 2. 情報機器とメディアの理解する 3. 課題解決に向かうマネジメントを理解する				

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 情報伝達のためのプロジェクト実践 （15時間）	1～3	1) 情報伝達のための様々な知識の習得 （1）メディアの違いによる様々なコンテンツ （2）メディアの持つ機能とその効果 （3）情報機器の機能の習得	講義 GW
	4～8	2) 伝えたいことを形にする （1）課題解決のためのディスカッション見つけた課題に対する具体的なアクションアイデア （2）グループワークにおけるコミュニケーションの実践、課題制作とその発信	GW
評 価	課題による制作物（50%）、グループワークでの取り組み（30%）、レポート（20%）		
教科書	なし		
参考文献	必要時授業内で提示する。		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
統 計 学	1単位（30時間）	3 年次前・後期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 統計学は社会の中の集団を対象として、数値により事象の特性や法則を明らかにしようとする学問領域である。 殊に、近年の医学・看護学領域ではEBM（Evidence based Medicine）の実践において統計学の処理が必須となっている。 本講義では、統計学の基礎知識や基本的な考え方、統計学と医学・看護学の関わりを理解することはもとより、統計学を用いた看護研究デザインを紹介しながら、より実践的な形での理解、習得を目指す。				
授 業 計 画	<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション、看護学における統計学学習の意義 第 2 回 様々な健康指標 第 3 回 データの種類と入力方法 第 4 回 度数分布表、クロス集計表、図示法 第 5 回 集団をあらわす代表的な数値 第 6 回 確率、正規分布 第 7 回 正規分布以外の確率分布 第 8 回 推 定 第 9 回 代表的な統計学的検定（1） 第10回 代表的な統計学的検定（2） 第11回 回帰と相関 第12回 疫学と統計学 第13回 保健統計の実際 第14回 統計学を用いた看護研究のデザイン 第15回 試 験			
評 価	試験、出席状況、講義への参加態度により評価			
教 科 書	系統看護学講座 基礎分野 統計学 医学書院 2016 第7版			
参 考 文 献	講義の中で紹介する			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
英 語	1単位（30時間）	3年次 前期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 体調の悪い人や怪我を負った人との基本的な遣り取りを英語で出来るようになることを目指すと共に、日本滞在中に体調を崩したり、怪我を負ったりした外国人観光客に医療の場で看護師として接する際に必要となる初歩的な会話が英語で行える程度の能力を養うことを目的とします。単に英会話に興味があるというのではなく、英語で積極的に話そうとする姿勢を持ち、自らの考えを表現するのに必要となる最低限の文法と語彙を何としても身に付けたいと強く望むことが肝要です。				
授 業 計 画	1 回 発音と韻律 2 回 相手を気遣う 3 回 会話練習（話し掛けと歩み寄り） 4 回 相手の具合を尋ねる 5 回 会話練習（寄り添いと援助） 6 回 痛みについて詳しく尋ねる 7 回 会話練習（痛みの様態） 8 回 身体に関わる因果関係 9 回 会話練習（怪我や体調不良の原因） 10 回 怪我や病状について説明し、補助する 11 回 会話練習（怪我や体調不良への処置） 12 回 怪我や病気の経過について尋ねる 13 回 会話練習（怪我や病気の経過） 14 回 怪我人・患者を労い、労わり、励ます 15 回 試験			
評価	筆記試験			
教科書	未定			
参考文献	随時指示			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
倫 理 学	1単位（15時間）	3 年次 前期	非常勤講師	
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 履修目的： 授業の目的は、生命倫理・看護倫理に関わる個別具体的な問題の学習である。生命倫理・看護倫理に関する知識を習得することも重要である。しかし、知識の習得以上に、具体的な事例に触れ、自分自身で考える経験を持ってもらうということが授業の主たる目的になる。さまざまな倫理的な問題に関し、自ら考えてみることによって、医療・看護の現場で働くときの心構えを養う。 概要・指針： まず、生物医学倫理（biomedical ethics）の4原則など、生命倫理・看護倫理の基礎的な議論を確認する（主として講義の形式で進める）。次に、「自分が当事者であるならば、どのように判断するか」という問題意識を持ちながら、生命倫理・看護倫理の観点から、個別具体的な事例に関して議論する（主としてグループ・ワークの形式で進める）。				
授 業 計 画	第1回 生命倫理・看護倫理の基礎1：生物医学倫理の4原則 第2回 生命倫理・看護倫理の事例研究1（グループ・ワーク） 第3回 生命倫理・看護倫理の基礎2：ケアの倫理 第4回 生命倫理・看護倫理の事例研究2（グループ・ワーク） 第5回 生命倫理・看護倫理の基礎3：ナラティブ倫理学 第6回 生命倫理・看護倫理の事例研究3（グループ・ワーク） 第7回 まとめ *第2回・第4回・第6回の事例研究は、患者による治療の拒否、終末期医療、生殖医療、在宅医療などに関わる個別具体的な問題を取り上げる。			
評 価	成績評価は試験による。試験は生命倫理・看護倫理の知識を問うものではなく、試験時間のなかで、個別具体的な事例に関する自分自身の見解をまとめる文章を作成する形式のものとなる。試験は授業でのグループ・ワーク討論（ディスカッション）の延長線上に位置付けられるものであるから、とくに、グループ・ワークへの積極的な参加に期待します。			
教 科 書	使用しない。			
参 考 文 献	授業のなかで指示する。			

人間と生活、社会の理解

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
心理学	1単位（30時間）	1 年次前期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> テキスト（「心理学」医学書院 2017）に準じて、教育心理学・社会心理学・臨床心理学・発達心理学・医療心理学等の心理学各分野の代表的な実験や理論に触れてもらいながら、自分とは何なのか、人間とは何なのかということを考えてもらいたいと思います。				
授 業 計 画	1) 心理学とはどのような学問か 2) 性格とパーソナリティ 3) 社会と集団の心理学 4) 感覚と知覚 5) 記憶の心理学 6) 考えること、思うこと、知能について 7) 学習心理学 8) 発達心理学 9) 発達心理学とアタッチメント理論 10) 心理学の歴史 11) 心理臨床 DSMの考え方とストレスについて 12) 心理臨床 治ることはどういうこと 13) 心理臨床 虐待を受けるということ 14) 医療・看護と心理 15) 最終試験			
評価	筆記試験			
教科書	心理学（医学書院 2017）を使用します。			
参考文献	授業の中で随時、お知らせします。			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
コミュニティデザインⅠ	1単位（30時間）	1 年次 前期	非常勤講師	○

＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞

少子高齢化社会は、地域社会において様々な課題を顕在化させています。これらの課題を解決するための一つの切り口として「コミュニティによる課題解決」があります。しかし、地域コミュニティは現状、社会環境の変化でその活動が弱体化しています。同時に、地域医療においても地域包括ケアシステムなど、住民や組織間のつながりが重要ではないでしょうか。では、多様なつながりであるコミュニティを再生し活動を活発化させるためにはどうすれば良いのでしょうか。その仕組みを構築する手法として「コミュニティデザイン」というアプローチが重要となっています。本授業では、コミュニティデザインの手法を理解し、地域の課題発見・解決し安心安全な地域福祉を実現するための調査・企画力、提案力を体得することを目的とします。

＜単元目標＞達成水準

1. 少子高齢化社会におけるコミュニティの役割と課題を理解し説明できる
2. ケーススタディを通じコミュニティデザインの理論、内容、効果を説明できる
3. グループワークによるコミュニティデザイン、フィールドワーク手法を体得する

＜授業計画＞

単 元	回数	内 容	授業形態
1. コミュニティの理解	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回	コミュニティとは何か ー授業で学ぶことー コミュニティの変遷と現状 コミュニティの種類 コミュニティの今後の可能性（1） コミュニティの今後の可能性（2） ※ゲスト講師 奥野 圭 氏 株式会社オリエンタルランド 元マーケティング担当	講義 講義 講義 講義 講義
2. コミュニティによる 地域課題の解決 コミュニティデザインの 理解	第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回	コミュニティデザインの事例研究 コミュニティデザインとは？ コミュニティデザインの進め方 グループワークでコミュニティの課題抽出と課題解決の演習 ・地域課題について考えてみよう ・課題の真因を考えてみよう ・課題を解決するためのアイデア、発表	講義 講義 GW GW GW GW GW GW
3. 課題解決手法の理 解と計画	第14回 第15回	コミュニティデザイン手法の理解 ・フィールドワークとは？ ・フィールドワークのための調査手法の理解 ・フィールドワークの計画立案	講義 講義
評 価	授業内のレポート、グループワーク・ディスカッションなどへの取り組み方から総合的に評価する。		
教科書	プリントを中心に講義を行う。		
参考文献	必要に応じて紹介する。		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
コミュニティデザインⅡ	1単位（15時間）	1 年次 後期	非常勤講師	○

＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞

本授業は、「コミュニティデザインⅠ」において理解した理論、体得したコミュニティデザインのアプローチ方法、地域の課題解決の手法をもとに、地域におけるフィールドワークで実践知を高めることを目的とします。授業は、事前調査～調査計画～フィールドワークでの課題発見～課題解決案の策定～提案という構成とし、4～5名のグループをベースとしながら進める予定です。

履修条件：コミュニティデザインⅠを履修済であること

＜単元目標＞

1. フィールドワークに向けた計画策定、事前調査、実査により地域課題の把握ができる
2. 課題解決に向けた企画案の策定、提案資料の取りまとめができる
3. 課題解決案のプレゼンテーションができる

＜授業計画＞

単 元	回数	内 容	授業形態
1. フィールドワークの計画と実践	第1回 講義 第2回 第3回 第4回 FW	フィールドワークの実施に向けた計画策定 フィールドワークに向けた事前調査 フィールドワークの実施 東川町で実施予定（町に協力依頼）	講義 演習 フィールドワーク
2. 課題発見と課題解決案の策定	第5回 第6回	フィールドワークの発表準備 フィールドワークの発表準備	GW
3. 発表会	第7回 第8回	学内において発表会を開催 学内において発表会を開催 （第7・8回2コマで構成する） 留意事項：新型コロナウイルスの感染によりフィールドワークができないケースを想定する。その場合は、オンラインで、東川町職員から取り組む課題を提示してもらい提案する。	発表会
評 価	グループワーク、ディスカッション、発表内容などへの取り組み方から総合的に評価する。評価は、グループでなく、個人を対象とする。		
教科書	プリントを中心に講義を行う。		
参考文献	玉村雅敏・小島敏明（2016）．『東川スタイル』．産学社		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
運動と健康	1単位（15時間）	1年次 前期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 体育というと、運動の得意な人だけが輝ける教科と考える人もいるかもしれません。しかし、これまでの小・中・高校の体育とは違い、運動技能の高い低いに関係なくその種目に取り組んでいる仲間と、いかにスポーツの魅力に触れることができたかという事を大切に授業を展開します。 したがって単元終了時の技能テストのような事は一切行いません。けれども、活動している仲間とともにどのようなルールや行い方の工夫をしたら、みんなでそのスポーツを楽しめるのかという気付きは大切にしていきたいので、毎時の学習カードをしっかりと記入してください。 ここでは、リハビリテーションのように必要に迫られて行う運動ではなく、主体的なスポーツの実践者になる事の大切さを、活動を通して身につけてもらう事を狙っています。				
授 業 計 画	第 1 回 : オリエンテーション 体ほぐしの運動 第 2 回 } 第 3 回 } 体を動かすスポーツ 第 4 回 } 高齢者の健康維持・促進のための運動について考え実践する 第 5 回 } 第 6 回 } 第 7 回 } 第 8 回 }			
評 価	学習カードの記入、活動の姿、出席の状況を総合的に評価します。			
教 科 書	特になし。			
参 考 文 献	特にないが、必要に応じて適宜講義の中で紹介していく。			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
人間関係論	1単位（30時間）	2年次前・後期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 看護は社会的存在である「人間」を対象とする。言い換えれば、看護は対人援助職であり、様々な背景や立場にある人々との関係性を常に考慮しながら援助が展開されていく。本講義では、人間関係を個人から集団まで広く捉えながら、人間関係の基礎と対人スキルの基本を学ぶことで、臨床の場で人間関係を活用し対象者への援助の質を高められることを目標とする。 そのために、看護と対人関係理論の関連、コミュニケーション技法の獲得、看護師自身の自己理解、カウンセリングの基本的態度、多職種連携とメンバーシップ・リーダーシップについて講義と演習を通して深めていくことを目的とする。 更に人間理解を深められる感性を学生個々に育んでもらうことも一つの狙いとする。 なお、この講義は単に知識を取得するだけではありません。何よりも皆さんが主体的に人間関係を育むことが必要です。グループワークやロールプレイ等を講義の中で数多く取り入れます。一人ひとりが積極的に参加してください。講義が関係性で成り立ちます。課題と考えず、すべてがコミュニケーションに通ずるという視点で参加して下さい。				
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション：人間関係論で目指すところ、講義の心がけ 成績評価について 第2回 人間関係と看護：人間関係論を重視した看護理論から人間関係を捉える 第3回・4回・5回：コミュニケーションの基本概念 ●コミュニケーションの構造、種類、機能 ●コミュニケーションに影響を及ぼす諸要因 ●自分に伝えたいメッセージ・相手の伝えたいメッセージ 第6回・7回・8回：『他者を理解』『自己を理解』この2つの側面の重要性 ●人間関係形成には他者を理解するだけではない。まずは、自分自身を見つめてみよう！ ●自己開示と自己呈示 ●対人理解（感情と表情、対人認知、対人魅力） 第9回・10回・11回：カウンセリングの基本的態度 ●「受容」「共感」の理解 ●そのためには、積極的に「聴く」こと ●「聴く」態度を身につけるための訓練法 ●実際に相手の話を聴こう！ 第12回・13回：自分も相手も大事に～アサーションとコーチング技術から学ぶ ●あなたのアサーション度は ●アサーションの基本 ●アサーションを体験 ●意欲を高める介入はしている？ ●コーチングの基本 ●コーチングを体験 第14回・15回：多職種連携を体験し、気づきをチームで共有 ●リーダーシップとメンバーシップの必要性 ●多職種連携に必要な視点 ●まとめ			
評 価	グループワーク参加状況、グループワーク課題、レポート試験により、総合的に評価する。詳細は講義初日のオリエンテーション時に提示する。			
教 科 書	プリントを中心に講義を行う。			
参 考 文 献	必要に応じて紹介する。			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
教 育 学	1単位（15時間）	3 年次 前期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 教育学は、教育の目的、意義、方法など、教育に関する基本的な原則や基礎的な諸問題を包括的に学ぶ科目です。 1. 教育とは何か、その理論を学びます。 2. 学校教育の基礎的な理論を学習します。 3. 家庭教育、生涯学習をふくめて相対的に関連付けていきます。				
授 業 計 画	1. 教育と学習 2. 教育と発達 3. 学校と教育Ⅰ 4. 学校と教育Ⅱ 5. 生涯学習とは？ ～インクルーシブな学び～ 6. 小児病棟内での学びⅠ ～HPS, CLS, 医療保育士など～ 7. 小児病棟内での学びⅡ ～院内学級など～ 8. テスト			
評 価	受講態度、毎回のコメント、そして最終テスト			
教 科 書	プリント配布します。			
参 考 文 献	その都度紹介します。			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
アイヌ語とアイヌ文化	1単位（30時間）	3年次 前・後期	非常勤講師	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

日本語とアイヌ語並びにそれらによって形作られる文化を北海道に共に息づく言語・文化として理解する視座に立って、アイヌ語で語られる生活史、物語、自叙伝などを読み解き、様々な形での追体験を通して、そこに描き出される人間関係、社会、生活、人生などの文化的捉え方を現代的な視点から学ぶ。グループワークで資料を読み解き、時に語りや劇、ロールプレイングなどを織り交ぜながらその成果を報告し合って理解を共有し、アイヌ語と日本語、それぞれの今と昔に見られる類似点と相違点を比較・対照することによって、多様な物事のあり方、価値観について理解を深める。

<単元目標>

1. 異言語・異文化ではなく、多言語・多文化という視点から生活や人生を見つめ直す。
2. 伝統文化と現代生活に根ざす言語文化の異同について理解を深める
3. 価値観・世界観の多様性を豊かな想像力を持って受け止める心のしなやかさを涵養する。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 語られる文化と生活誌	1	mokor、hopunpa、ewonne/yaske（起きて顔を洗う）、simusiska/sihawnuyar（家を訪問する）	講 義
2. アイヌ語と伝統文化	2	aynu、kamuy、mosir（人、神、国、世界）、ape、wakka、ni（火、水、木；cf. 生活）、	講 義
3. 自叙伝に綴られる生活誌	3～8	huci、ekasi、aca、unarpe（祖父母、おじ・おば） cise、kotan、pet、kim、iwor、toy（家、村、川、山、猟場、畑）、iso、haru、cep、yuk、kina（獲物、収穫） kakko、ikaoykicise/isacise、tesapa（学校、病院、駅）	演 習
4. 物語に描かれる生活誌	9～13	ona、unu、yup、sa、ak、matak、tures（父母、兄弟・姉妹；cf. 家族） ukor、etun、honkor、pokor、ukokor、yaykosanke（結婚、妊娠、出産）、menoko、okkayo、itese、kemeyki、inuye（男女、手仕事） suke、suwe、ma、kam、sum、ohaw、rur、sito（食事）	演 習
5. アイヌ語と現代文化	14	学習のまとめと今後の学びの展望	演 習
6. 北海道の言語、文化、生活	15		講 義 演 習
評 価	毎回提出の省察用紙、資料調査とその成果発表、レポートによる		
教科書	資料を使用する。		
参考文献	随時紹介する		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
演劇コミュニケーション	1単位（30時間）	2年次 前・後期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 本授業はワークショップ形式(参加体験型学習)で行います。「身体性」や「身体感覚」に重点を置き「シアターゲーム」や「コミュニケーションアクティビティ」といった俳優のトレーニングを体験していきます。普段の態度や振る舞い、他者との関わり方をふり返りつつ、人と人が関係性を築く上で身体が与える影響の大きさを学び、共感力の根元となる想像力を磨いていきます。 ～本授業でのキーワード～ 《想像性》《創造力》《観察力》《判断力》《問題解決力》《コミュニケーション力》《自己と他者》《関係性》 《共感力》《表現力》《直感力》《共有》《見る見られる》《身体と心》《空間》《物語》 <単元目標> 1. シアターゲームを通して身体感覚を磨き、非言語メッセージへの気づきや発見を養う。 2. 他者理解を深めながら、立場にあった態度や振る舞いができるようになる。 3. 自他の価値観に触れ、集団で合意形成を図る。 4. 主体性や共感力、想像性や創造力を身につけ状況に応じた柔軟な対応ができるようになる 5. 演じる過程で、相互理解を深めながら協働で目的を達成し喜びや達成感を味わう。				

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 関係性を築く要素	第1回 第2回	シアターゲームを体験するⅠ シアターゲームを体験するⅡ	参加体験型学習
2. 自己と他者	第3回	会話の主導権と対話の観察	
	第4回	聞く・聴く・訊くを深める	
	第5回	他者との対話を通して価値観に触れる	
	第6回	ステータス（立場にあった振る舞い）	
	第7回	記憶に残る伝え方とは（ストーリー）	
	第8回	身体を通した他者理解	
3. 個と集団	第9回	与えられた課題をグループでコンセンサス（集団合意）を図る	
	第10回		
	第11回		
4. インプロビゼーション （即興性）	第12回	インプロゲームを体験するⅠ	
	第13回	インプロゲームを体験するⅡ	
	第14回	テキストを使って場面を演じるⅠ	
	第15回	テキストを使って場面を演じるⅡ	
5. 協働的創造性			
評 価	授業内への取り組み方や振り返りシートなどから総合的に評価		
教科書	必要に応じてテキストを配布		
参考文献	必要に応じて紹介する		

專 門 基 礎 分 野

人間の構造と機能

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
解 剖 学 I	1単位（30時間）	1 年次 前期	非常勤講師	
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 履修目的 解剖学は人体の構造を理解する学問である。そのため解剖学の理解は今後履修する疾病に関する科目や看護専門分野の科目内容を理解するための基礎となるものである。本科目を理解することで人体の構造を系統的に理解し、これに続く科目の理解のための基礎知識を得ることが履修の主な目的となる。 概要 解剖学 I では、組織学（細胞学を含む）、骨格系、筋系、循環器系、消化器系について学ぶ。授業は主としてプレゼンファイルを用いて行い、適宜、板書などを交える。また講義内容に関連するプリントを事前に配布する。 人体の理解には構造だけではなく各器官の機能の理解が欠かせない。そのためには同時に開講される生理学や生化学の知識と合わせて理解してもらいたい。				
授 業 計 画	第 1 ～ 2 回	組織学（細胞学を含む）		
	第 3 ～ 5 回	骨格系		
	第 6 ～ 8 回	筋系		
	第 9 ～ 11 回	循環器系		
	第 12 ～ 14 回	消化器系		
	第 15 回	試験		
評 価	筆記試験			
教 科 書	解剖生理学 南山堂 2022 第 2 版 1 刷			
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院【電子版】			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
解 剖 学 II	1単位（30時間）	1 年次 前・後期	非常勤講師	
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 履修目的 解剖学は人体の構造を理解する学問である。そのため解剖学の理解は今後履修する疾病に関する科目や看護専門分野の科目内容を理解するための基礎となるものである。本科目を理解することで人体の構造を系統的に理解し、これに続く科目の理解のための基礎知識を得ることが履修の主な目的となる。 概要 解剖学 I では、組織学（細胞学を含む）、骨格系、筋系、循環器系、消化器系について学ぶ。授業は主としてプレゼンファイルを用いて行い、適宜、板書などを交える。また講義内容に関連するプリントを事前に配布する。 人体の理解には構造だけではなく各器官の機能の理解が欠かせない。そのためには同時に開講される生理学や生化学の知識と合わせて理解してもらいたい。				
授 業 計 画	授業は下記に従って実施する。ただしこれらは目安であり進行状況により多少の変化があることはあらかじめ承知してもらいたい。			
	第 1 回	呼吸器系		
	第 2 ～ 3 回	泌尿器系		
	第 4 ～ 5 回	内分泌系		
	第 6 ～ 7 回	生殖器系		
	第 8 ～ 12 回	神経系		
	第 13 ～ 14 回	感覚器系		
画	第 15 回	試験		
評 価	筆記試験			
教 科 書	解剖生理学 南山堂 2022 第 2 版 1 刷			
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院【電子版】			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
生 理 学 I	1単位（30時間）	1 年次 前期	非常勤講師	
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 身体の機能の種類、それらの発現部位、意義、調節機序について身体を系として統合的に把握することによって、病態の機構を理解するための身体機能に関する基礎的な知識を獲得する。				
授 業 計 画	身体機能の特徴 筋 肉 血 液 体 液 循 環 呼 吸 消 化・吸 収 について講義形式で展開する。			
評 価	筆記試験			
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院【電子版】			
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 医学書院 【電子版】 生理学テキスト 文光堂 第7版			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
生 理 学 II	1単位（30時間）	1 年次 前・校期	非常勤講師	
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 身体機能の種類、それらの発現部位、意義、調節機序について身体を系として統合的に把握することによって、病態の機構を理解するための身体機能に関する基礎的な知識を獲得する。				
授 業 計 画	身体機能の特徴 腎 内分泌 代謝・体温 生殖 神経 皮膚 特殊感覚 について講義形式で展開する。			
評 価	筆記試験			
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院【電子版】			
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 医学書院 【電子版】 生理学テキスト 文光堂 第7版			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
看護形態機能学	1単位（30時間）	1 年次 後期	専任教員	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 医療は、医学に基づく治療と看護学に基づくケアの両輪で成り立ち、正常・異常を含めたからだに関する知識は、看護職にとってすべての土台となる。看護職は、患者が医学的治療を受けながらもその人らしい日々を送れるように、生活の工夫や考え方の発展を見守る役割があり、「人体の構造と機能」のなかに、「生活行動からみるからだ」の枠組みを取り入れ、看護の視点からからだをみていく必要がある。 看護形態機能学は、病態の理解や日常生活行動を援助する看護技術の理解の土台になるもので、人体の構造と機能の知識をもとに、どのように日常生活を営んでいるのかを学ぶ。そして看護が必要となった際には、病態とつなげながら知識を深め、病んだときの体の変化と、それに伴う日常生活行動の変化を理解することで、生活行動の変化に対応する援助技術の理解へとつなげる。				
授 業 計 画	1. 生活行動からみるからだ（2 時間）講義 1) 生きているということ 2) 看護につながるからだのしくみの枠組み 3) 解剖学・生理学と看護形態機能学との違い 2. 解剖学・生理学と生活行動からみるからだ（8 時間）個人ワーク・発表 1) 人間の体を知ろう！（人体図を記載） 2 時間 2) 生活行動について解剖・生理学的に考える 4 時間 ①動く②食べる③トイレに行く④呼吸する⑤話す⑥聞く⑦見る⑧眠る ⑨お風呂に入る⑩こどもを生む 3) 発表まとめ 2 時間 3. 日常生活の中からのからだの構造と機能（20 時間） 1) 個人で記載した人体図を元にグループで人体図を記載（解剖・生理） 4 時間 2) 日常生活の中から一つのテーマで構造・機能についてグループワーク 4 時間 ①1 日の生活行動②鼻から牛乳 ③一人でトイレに行けた ④遊園地のコーヒークップ大好き ⑤お風呂に入ると気持ちいい ⑥あなたとわたし、会話ができたね ⑦胎盤は胎児の生活行動の何をカバーしてしるのか ⑧その他 3) 中間発表、質疑・応答 4 時間 4) 中間発表を元にグループワーク 4 時間 5) 発表、質疑・応答 4 時間			
評 価	課題（100％） 小テスト、個人ワーク、グループワークの提出物、発表・評価の内容から評価する			
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院【電子版】 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版 日本看護協会出版会			
参 考 文 献	随時紹介			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
生 化 学	1単位（30時間）	1 年次 前期	非常勤講師	
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 複雑に見える生命現象も、基本的な化学反応の結果である。生化学の進歩により、生体内では多くの種類の化学反応が、決められた場所で、決められた時に起こり、それらが複雑に絡み合っている様子が、少しずつ明らかにされてきた。その結果さまざまな疾病の発症メカニズムが、化学反応のレベルで明らかにされるようになり、病気の診断、治療に生化学的な検査、療法が広く用いられるようになってきている。 この授業の履修目的は最近の進歩した医学、看護学の理解に必要な生化学の基礎知識を習得することにある。 この授業ではまず生体を構成する各成分の化学的性質と役割を紹介する。そして各臓器の働きを生化学的に解説し、さらにいくつかの疾患について生化学的な面から解説する。				
授 				

疾病の成り立ちと回復の促進

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
栄 養 学	1単位（30時間）	1 年次 前期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 人体の構造と機能および栄養素の代謝との関連性から、傷病者に対してチーム医療による栄養サポートを理解するため、各疾患の病態に対する栄養食事療法について学習する。 受講のポイントは以下の通りである。 ・疾病の治療および予防には、日々の食生活の積み重ねが重要であることから、看護（医療）における栄養と自身の日常の食のあり方をつなげて考えることができる。 ・各栄養素の種類、その吸収や代謝を理解した上で、各疾患における栄養食事療法を理解し、説明できる。 予習は生化学、解剖生理学を基礎とするため事前に復習し、復習は授業にて学習した内容をまとめておくこと。 臨床現場では、管理栄養士と協働する場合も多いことから、臨床栄養学的視点および知識の習得は現場での対応に直結すると考えられる。互いの職種を理解し医療現場での活躍のため、積極的な受講を希望する。				
授 業 計 画	1. 生体内における食事の消化・吸収 2. 栄養素の代謝 3. 臨床栄養学的視点における身体状況の評価 4. 臨床栄養学的視点における身体状況の判定 5. 栄養補給方法の種類と特徴（経口栄養法） 6. 栄養補給方法の種類と特徴（経腸栄養法） 7. 栄養補給方法の種類と特徴（経静脈栄養法） 8. 栄養管理とチーム医療 9. 消化器疾患における栄養食事療法（口腔、食道、胃、腸疾患） 10. 消化器疾患における栄養食事療法（膵臓、胆嚢、肝臓疾患） 11. 代謝性疾患における栄養食事療法（るい瘦、肥満症、糖尿病） 12. 代謝性疾患における栄養食事療法（脂質異常症、高尿酸血症） 13. 循環器疾患における栄養食事療法（高血圧症、動脈硬化症、心臓疾患） 14. 腎臓疾患における栄養食事療法 15. 内分泌疾患および精神疾患における栄養食事療法			
評価	毎時間の出席状況（40％） レポート（60％）			
教科書	授業内で資料を配布			
参考文献	看護栄養学 医歯薬出版 第4版 尾岸恵三子 2018 栄養食事療法必携 医歯薬出版 第4版 中村丁次 2020			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
微 生 物 学	1単位（30時間）	1 年次 前期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> <目的> ヒトに感染症を引き起こす微生物や共存微生物に関する基礎知識を学び、微生物の判別方法や感染症の発症機構、感染予防法、治療法などを理解する。 <到達目標> ・微生物の性質や構造、感染機構、感染病態を説明できる。 ・微生物と宿主の相互作用や免疫応答を説明できる。 ・滅菌や消毒の目的および用途が説明できる。 ・感染予防法や治療法が説明できる。 授業の順番は変更する可能性がある。				
	授業回数	履修主題	履修内容	
授 業 計 画	1回	細菌学序論	細菌の種類や特徴、構造	
	2回	ウイルス学序論	ウイルスの種類や特徴、構造	
	3回	細菌感染	細菌の増殖、感染様式	
	4回	滅菌、消毒、感染症法	滅菌、消毒、感染症法	
	5回	球菌	球菌の各論	
	6回	桿菌	桿菌の各論	
	7回	ウイルス感染	ウイルスの増殖、感染様式	
	8回	感染治療法	感染治療法	
	9回	RNAウイルス	RNAウイルスの各論	
	10回	腫瘍ウイルス	腫瘍ウイルスの各論	
	11回	DNAウイルス	DNAウイルスの各論	
	12回	肝炎ウイルス	肝炎ウイルスの各論	
	13回	マイコプラズマ等	マイコプラズマ等の各論	
	14回	新興感染症等	新興感染症等の各論	
	15回	筆記試験		
評価	筆記試験			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 医学書院【電子版】			
参考文献	標準微生物学 第14版 医学書院 シンプル微生物学 第6版 南江堂			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
薬 理 学	1単位（30時間）	1 年次前・後期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 薬理作用の基礎知識に基づき、薬物の特徴・作用機序・人体への影響および薬物管理について理解する。そのうえで、疾患の治療に用いられる薬物の作用メカニズムを理解し、薬物がどうしてその疾患の治療薬として有効なのか、またその薬物を用いる際にどのような副作用や注意すべきことがあるかについて学び、今日臨床で用いられている薬物の作用と注意点について正しく理解する。また、医療スタッフの一員としての看護師である自覚と自信が持てるよう、病気－薬物－看護師の役割を充分理解する。				
授 業 計 画	1. 薬理学総論 1) 薬理学の概要 2) 薬の作用機序 3) 薬物体内動態 4) 薬理作用 5) 薬の管理と法令（薬事法を含む） 6) 医薬品の安全対策 2. 薬理学各論 1) 中枢神経に作用する薬 2) 末梢神経に作用する薬 3) 免疫・抗アレルギー薬 4) 心臓・血管系に作用する薬 5) 呼吸器・消化器に作用する薬 6) 物質代謝に作用する薬 7) 抗感染薬 8) 皮膚外用薬 9) 抗がん剤			
評 価	筆記試験			
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院【電子版】			
参 考 文 献	シンプル薬理学 改訂6版 野村隆英他 著 南江堂 2019 今日の治療薬			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
看護薬理学	1単位（15時間）	1 年次 後期	専任教員	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 包括医療システム、在宅医療への移行が増加している中、医師がいない状況下での対応を求められる看護師の薬物治療に対する理解は重要であり、与薬の実践者としての看護師には、医師・薬剤師に求められる薬理学の知識に加え、与薬に関する幅広い知識が求められる。 看護薬理学では、人体の正常と異常、治療、看護援助を有機的につなぎ、対象に適切な薬物治療が遂行されるために必要とされる知識を包括的にとらえる。また、看護師が与薬の実践者であり、対象の最も近いところで作用と副作用を観察する立場であることをふまえ、薬物の作用が身体にどのような影響を及ぼすのかを学ぶ。				
授 業 計 画	1. 薬物治療の基礎知識（4 時間） 1) 薬物の人体への働きかけ 2) 薬物治療と看護の基礎知識 (1) 高齢者と薬物治療 (2) 子どもと薬物治療 (3) 妊婦・授乳婦における薬物の影響 3) 薬物治療における看護師の役割 2. 吸収経路における看護の視点（2 時間） 3. 薬物治療と患者指導（演習）（8 時間） 1) 薬物-食品相互作用と患者指導（グレープフルーツジュース、納豆） 2) 手術を受ける患者への指導（抗凝固薬：ワーファリン） 3) パーキンソン病患者の服薬指導 4) ステロイド内服における生活上の留意点			
評 価	筆記試験（60点）、課題（40点）			
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院【電子版】 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院【電子版】			
参 考 文 献	シンプル薬理学 改訂 6 版 野村隆英他 著 南江堂 2019 今日の治療薬			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
病理学総論	1単位（15時間）	1年次 前期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 病理学とは、病気の成り立ちを明らかにする学問であり、基本的には病的状態における変化を形態学的に裏付けていくものである。近年では分子生物学的手法を取り入れたいわゆる分子病理学として疾患にアプローチすることも盛んとなってきている。病理学は体系的には、人体病理学と実践病理学に大別され、前者はより臨床的・診断的なもの、後者は基礎的・研究的なものとの解釈もできるが、この境界は必ずしも明確なものではない。 病理学総論では、病理学ひいては疾患全体を理解する上で必須な基礎的事項を学んでいく。病理学的用語の定義・内容の学習は無味乾燥にも思えるかもしれないが、今後の病理各論の授業や、より臨床的な疾患群をよく理解するためにも必要不可欠である。また、この病理総論で学んだことをもとに、実際に看護にあたる際にも、各疾患・各患者における病態を考察する習慣ができ、よりよい看護に結びつけられることが最終目標でもある。				
授 業 計 画	1. 病理学で学ぶこと、細胞・組織の障害と修復 病理学の役割、病因論、細胞の損傷と適応、創傷治癒 2. 循環障害 循環器系が傷害されたさまざまな病態（虚血、梗塞、血栓症など）を理解する 3. 炎症と免疫、移植と再生医療 炎症とは、炎症の各型、免疫に関与する細胞、アレルギー、移植と拒絶反応 4. 感染症 感染症と感染源、おもな感染症、感染症の治療と予防 5. 代謝障害、老化と死 動脈硬化症、糖尿病、痛風、黄疸、加齢に伴う諸臓器の変化、終末期医療 6. 先天異常と遺伝子異常、腫瘍 1 先天異常の分類、遺伝子異常と疾患、遺伝子異常の診断、腫瘍の定義と分類 7. 腫瘍 2 悪性腫瘍の広がり、腫瘍の発生病理、腫瘍の診断と治療			
評 価	筆記試験			
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院【電子版】			
参 考 文 献				

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名	実務経験
病理学各論Ⅰ	1単位（30時間）	1年次前・後期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 生命維持のためのエネルギー確保の役割を持つ消化器の異常における病理、疾患概念と診断、治療の理解を目的とする。 <消化器>各消化器疾患について解剖生理の基礎的知識の基に臨床像・病態・病理について理解を深め、対象の臨床像や病態について推察する基本的知識を習得する。また、診断・治療に関する知識を学習する。 <腎泌尿器>疾患における病理、疾患概念と診断、治療に関する知識を学習する。				
授 業 計 画	<消化器> 1. 消化器疾患の理解と内科的治療法の理解（斎藤・河本・後藤 14時間） 食道疾患、胃癌、胃潰瘍 大腸疾患（炎症性腸疾患、大腸がん）、肝・胆・膵疾患 2. 消化器疾患の手術療法についての理解（赤羽 6時間） 食道疾患、脳死患者からの臓器摘出、胃疾患、大腸疾患、ストーマ、肝・胆疾患、膵 <腎泌尿器疾患>（松ヶ瀬 8時間） 1. 泌尿器学解剖、検査、症状 2. カテーテル関係、尿路結石 3. 泌尿器系悪性腫瘍（前立腺肥大症を含む） 4. 慢性糸球体腎炎他、腎不全			
評 価	筆記試験			
教 科 書	系統看護学講座	専門基礎分野 病理学	医学書院	【電子版】
	系統看護学講座	専門分野 成人看護学 消化器	医学書院	【電子版】
	系統看護学講座	専門分野 成人看護学 腎・泌尿器	医学書院	【電子版】
参 考 文 献				

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名	実務経験
病理学各論Ⅱ	1単位（30時間）	1 年次 前・後期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 生命維持の基本的機能である呼吸・循環における疾患の病理、疾患概念と診断、治療の理解を目的とする。 <呼吸器>呼吸器の解剖・生理を十分に理解した上で、呼吸器内科・呼吸器外科疾患の症状、診断、治療、予後についても学習する。 <循環器><u>循環器疾患の病理</u> 心臓・大血管の発生と異常（奇形）・冠動脈疾患などによる心筋梗塞などの病理、弁膜疾患、動脈、大動脈疾患の病理像を理解する。 <u>循環器疾患の病態と診断・治療</u> 心臓血管系疾患は1985年以後、日本人の死因の第2位となっている。食生活の欧米化に伴い、動脈硬化性疾患がますます増加しており、その予防治療は当面する最大の保健問題の1つとなっていることをふまえ、これら疾患の病態・概要を理解し、予防・治療にまでつなげて行くことを目的とする。また、循環器疾患の病理については、各疾患のなりたちやその経過などにつき、組織学レベルで生じている現象を含めて学び、疾患の病態に対する理解を深めることを目的とする。臨床的事項と平行して学び、より系統的な知識を会得することが望まれる。				
授 業 計 画	<呼吸器>（秋葉：10時間、大谷：4時間） 1. 解剖、生理：呼吸器の解剖・生理 2. 呼吸のメカニズム 3. 症状、炎症性疾患咳・痰について 4. 肺腫瘍 肺癌の組織型・病期と治療 5. その他胸膜・縦隔疾患について <循環器> 1. 循環器疾患の病理（佐藤：4時間） 1) 心臓・大血管の発生と異常（奇形） 2) 冠動脈疾患などによる心筋梗塞などの病理 3) 弁膜疾患、動脈、大動脈疾患の病理像 2. 循環器疾患の病態と診断・治療（貴田岡：10時間） 1) 解剖、生理、症状 2) 心不全、ショック 3) 心筋梗塞、不整脈 4) リウマチ熱、心内膜炎、心膜炎、心筋症、弁膜症、先天性心疾患、血圧、動脈・静脈疾患			
評価	筆記試験			
教科書	系統看護学講座	専門基礎分野	病理学	医学書院 【電子版】
	系統看護学講座	専門分野	成人看護学	循環器 医学書院 【電子版】
	系統看護学講座	専門分野	成人看護学	呼吸器 医学書院 【電子版】
参考文献	随時紹介			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
病理学各論Ⅲ	1単位（30時間）	2年次前期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 臨床看護において、疾病を持つ人を看る上で、その疾病の特徴（病態、生理、症状、治療など）を知ることが必要不可欠である。そのために基本（礎）的となる病体を理解するために⁽¹⁾発生・⁽²⁾解剖・⁽³⁾病理組織学的な変化（病理病体像）を学ぶ。 さらに、分泌系疾患、自己免疫疾患、血液・リンパ系疾患、口腔外科疾患、代謝異常における疾患概念と診断、治療の理解を目的とする。				
授 業 計 画	<内分泌疾患・自己免疫> 1. 内分泌の病理（4時間） （1）内分泌臓器の発生、解剖、各種疾患 （2）代謝・遺伝の病理、 （3）各種遺伝性疾患、逆行遺伝学 2. 内分泌の主な疾患とその診療（4時間） <代謝>（6時間） 1. 代謝疾患の病理 2. 糖尿病、高脂血症、痛風 <自己免疫疾患>（2時間） 1. 膠原病、アレルギー疾患の概念と治療 <血液リンパの疾患>（8時間） 1. 血液・リンパ系疾患の病態：血液・リンパ系が関与する疾患の病態 2. 血液・リンパ系疾患の診断：血液・リンパ系疾患の診断 3. 血液・リンパ系疾患の治療：血液・リンパ系疾患の治療・看護 <歯科・口腔>（4時間） 1. う蝕症と歯周疾患 2. 妊娠と口腔疾患 3. 歯性病巣感染			
評価	筆記試験			
教科書	系統看護学講座	専門基礎分野	病理学	医学書院 【電子版】
	系統看護学講座	専門分野	成人看護学	血液・造血器 医学書院 【電子版】
	系統看護学講座	専門分野	成人看護学	内分泌・代謝 医学書院 【電子版】
	系統看護学講座	専門分野	成人看護学	アレルギー 医学書院 【電子版】
	系統看護学講座	専門分野	成人看護学	歯・口腔 医学書院 【電子版】
参考文献	随時紹介			

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
病理学各論Ⅳ	1単位 (30時間)	2 年次前期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 臨床看護において、疾病を持つ人を看る上で、その疾病の特徴(病態、生理、症状、治療など)を知ることが不可欠である。 女性生殖器疾患、運動器疾患における病理、疾患概念と診断、治療についての理解や手術療法について学ぶ。 <感覚器疾患> 眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科領域の疾患について上記目的に添って講義する。特に眼科領域については、局所解剖と病態生理に関する知識を習得し、眼科一般の検査方法、各疾患における症状、病態生理の習得したうえで、眼科看護の特殊性について考える。皮膚については発疹の種類、形態、表現方法などを修得し、その上で代表的な皮膚疾患につき、学習する。また、皮膚科特有の検査方法なども学習する。				
授 業 計 画	<運動器疾患> (8 時間) 1. 基礎知識 機能と構造、治療法、診察法、病態生理 2. 形態の異常、運動の異常、麻痺、先天疾患、骨折と脱臼 3. RA、変形性関節炎(膝、股) 4. 腰椎疾患、頸椎疾患、骨粗鬆症 <女性生殖器疾患> (8 時間) 1. 婦人科疾患 (6 時間) (1) 膣炎など、子宮筋腫・内膜症、子宮癌・卵巣癌、更年期障害など 2. 乳腺の疾患 (2 時間) (1) 乳腺疾患、乳癌を中心に乳癌手術療法、化学療法 <感覚器疾患> 1. 眼 (4 時間) (1) 眼の構造と機能、各種検査(視力検査、屈折検査、など) (2) 各種疾患についての症状、病態生理、治療について(角膜、結膜、水晶体、ぶどう膜、網膜硝子体、視神経および視路、緑内障、眼球付属器、など) 2. 耳鼻咽喉 (4 時間) (1) 耳の機能、構造、耳の疾患、脳神経について、耳疾患各論 (2) 鼻の機能、構造、鼻・咽頭・喉頭の疾患、気管切開術 3. 皮膚疾患 (4 時間) (1) 発疹学、皮膚科的検査、湿疹、皮膚炎、感染性皮膚疾患、薬疹			
評 価	筆記試験			
教 科 書	系統看護学講座 系統看護学講座 系統看護学講座 系統看護学講座 系統看護学講座 系統看護学講座	専門基礎分野 専門分野 専門分野 専門分野 専門分野 専門分野	病理学 成人看護学 成人看護学 成人看護学 成人看護学 成人看護学	医学書院 【電子版】 運動器 医学書院 【電子版】 女性生殖器 医学書院 【電子版】 皮膚 医学書院 【電子版】 眼 医学書院 【電子版】 耳鼻咽喉 医学書院 【電子版】
参 考 文 献	指定無し			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
病理学各論Ⅴ	1単位（30時間）	2年次前・後期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 脳神経系疾患、精神病理から派生する疾患の病理、疾患概念と診断、治療の理解を目的とする。 <脳神経系疾患>脳・神経系の基本的解剖・生理をふまえて、脳・神経・筋疾患を理解し、これら疾患の治療・リハビリテーション・看護の知識を今世紀脳科学の世紀を迎えて、その展望を取り上げる。 <精神病理>精神に健康障害をもった人の援助を行うために、精神障害・治療・検査に関する基礎的知識を理解する。				
授 業 計	<脳神経系疾患> 1. 脳神経系の病理（8時間） （1）中枢神経系の解剖、神経症候学、神経内科領域の疾患の臨床・診断・治療 2. 脳神経外科疾患の臨床像・診断・治療（8時間） <精神病理> 1. 精神医療とは 2. 精神症状をどうみるか 3. 精神療法・薬物療法・その他 4. 統合失調症圏の障害 5. 気分障害圏の障害 6. 神経症圏の障害 7. 人格障害 8. 外因性精神病			
評 価	筆記試験			
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院 【電子版】 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 脳・神経 医学書院 【電子版】 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 精神看護の基礎 医学書院 【電子版】			
参 考 文 献	1)脳神経疾患患者の看護 医学書院 2)脳神経外科 金芳堂 3)脳神経外科マニュアル 中外医学社 4)頭脳学の見方 朝日新聞 5)脳の探求 講談社 6)塗って覚えて理解する！脳の神経・血管解剖 MCメディカ出版 7) 中井久夫、山口直彦：看護のための精神医学 医学書院			

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
病理学各論Ⅵ	1単位 (30時間)	2年次 前期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 既習の病態生理学的知識を応用して、疾病の診断に用いる検査・治療に関する基本事項を学び、生体への影響を理解するとともに、検査・治療を受ける人の看護につなげる。				
授 業 計 画	1. 麻酔 (4 時間) 1) 麻酔の管理 (全身麻酔・局所麻酔・麻酔薬) 2) 全身麻酔と生体反応 3) 麻酔の効果と二次障害 2. 手術療法 (4 時間) 1) 手術療法の目的と意義 2) 手術侵襲と生体反応 3) 術前・術後管理 4) 手術にかかわる重要事項 3. 放射線治療 (4 時間) 1) 放射線とは 2) 放射線の種類 3) 画像診断 4) 放射線治療と管理 5) 放射線防護と健康管理 6) 放射線障害 4. 検査 (4 時間) 1) 臨床検査の種類 2) 診療と検査機器 3) 検体の採取法とその取扱い 4) 検査成績の見方・考え方 5. 化学療法 (4 時間) 1) 化学療法の概要 (目的・対象・方法) 2) 化学療法と合併症 3) 化学療法を受ける人の看護 4) ペインコントロール 6. リハビリテーション (6 時間) 1) リハビリテーションの概念 2) リハビリテーションの対象理解 3) 身体機能障害のアセスメント (1) 徒手筋力検査 (2) 関節可動域検査 4) リハビリテーションの実際 7. 再生医療 (2 時間)			
評 価	筆記試験			
教 科 書	系統看護学講座	別巻	臨床外科看護総論	医学書院【電子版】
	系統看護学講座	別巻	臨床放射線医学	医学書院【電子版】
	系統看護学講座	別巻	臨床検査	医学書院【電子版】
	系統看護学講座	別巻	がん看護学	医学書院【電子版】
	系統看護学講座	別巻	リハビリテーション看護	医学書院【電子版】
	系統看護学講座	専門基礎分野	病理学	医学書院【電子版】
参 考 文 献	指定無し			

健康支援と社会保障制度

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名	実務経験
医 療 概 論	1単位（15時間）	1 年次 前期	非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 医師や看護師不足などの医療に関する問題、救急医療や医療事故のニュースは、毎日のように報道されています。医療や介護の現場を舞台としたドラマも、テレビや映画などで盛んに放映されています。それなりの問題意識や社会性のあるものもみられます。 しかし、医学について全般的に考えられたり、また深く掘り下げるものではありません。医療に携わる者は、人間の生命と倫理についての理解が必要です。また、高い倫理性と社会使命の自覚を持つことも要請されています。医学概論は「医学・医療とはなにか」について、広い視野に立って考える科目です。問題意識を持ちながら、考えること、調べること、話し合うことをします。人間性、医療、看護の原点について基本的な素養を身につけることを目的とします。 教科書には、医療や保険の現場での実際のエピソードを題材にした挿話が載っています。また、コラムの多くは読み物としても興味深いものです。講義では、取り上げる時間は無いかもしれませんが、不明なことについては質問を受けますので、必ず読んでおきましょう。 考えるためには、読むことも必要です。図書室を活用して、読むこと、調べる習慣を作りましょう。				
授 業 計 画	1. 生きることと死ぬこと 1) 生命を尊ぶ心 2) 健やかに生きる 3) 老いてこそ人生 4) おだやかに死ぬこと 2. 医学と医療 1) 温故知新一医学の歴史に学ぶ 2) 臨床疫学とEBM 3. 保健・医療・介護一切れ目のないサポートの実現 1) 保健・医療・福祉を取り巻く社会環境の変化 2) わが国の医療システム 3) 救急医療・集中医療 4) チーム医療 4. 医療と社会 1) 医の倫理 2) 医療安全 3) 最先端医療 4) 医療情報 5. 医療経済学と医療政策 1) 経済学を用いて医療を読み解く 2) 転換を迫られる医療政策			
評価	筆記試験			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 医療概論 医学書院【医学書院】			
参考文献	基本的には図書室の全ての書籍です			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
公衆衛生学Ⅰ	1単位（15時間）	1年次 後期	非常勤講師	
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 公衆衛生学は、自然科学としての医学を人間社会へ適応する学問である社会医学の一分野であり、疾病の予防に取り組む学問領域である。扱う対象は、臨床医学が疾病をもつ個々の患者であるのに対して、公衆衛生では社会にあつて様々な健康状態にありながら生活している一般の人々全てであり、個々の人々に対しても、さらに集団としても対応する。 公衆衛生に対する現代の社会的要請は、疾病の予防だけにとどまることなく、人の健康度の把握、健康の増進へと向かい、なおかつ医学・医療だけでなく、保健、福祉にわたる人の健康に関わる全てを対象とする包括的な対応へと向かっている。その活動内容は、その年代的对象ごとに、母子保健、学校保健、成人・老人保健、さらに生活する場により、環境保健、学校保健、地域保健、職域保健、国際保健、さらに健康範囲により精神保健などに分類される。それぞれに関連する法律があり、行政が関与している。 公衆衛生学では人の健康の維持増進にかかわる広い概念の医療（保健・狭義の医療・福祉）について、新しい概念に対応しつつ、国民の健康を扱う医療従事者としての素養を伸ばすことを念頭に置き授業を展開する。				
授 業 計 画	1. 公衆衛生の概念（2時間） 健康の概念、衛生の概念、健康をめぐる考え方の変遷を理解することを通して、社会医学としての公衆衛生学について学ぶ 2. 保健統計・疫学（2時間） 公衆衛生を学ぶために必要な、健康指標、保健統計、人口動態・静態、疾病統計などの各種指標を学ぶ。また集団を対象とした医学（社会医学）を実践するために必要な疫学の概念を学ぶ 3. 社会保障制度と医療システム（2時間） 我が国の社会保障制度の内容（機能、4つの柱、費用、関係法規）と現状を学ぶ 4. 各種保健活動1（2時間） 母子にかかわる統計指標とその動向、および制度を学ぶ 5. 各種保健活動2（2時間） 学校保健にかかわる統計指標とその動向、および制度を学ぶ 6. 各種保健活動3（2時間） 生活習慣病の動向とリスクファクター、および制度について学ぶ 7. 各種保健活動4（2時間） 高齢者保健の動向、制度および高齢者医療や介護保険制度について学ぶ			
評価	筆記試験（国家試験形式の筆記試験によって）			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 【電子版】			
参考文献	国民衛生の動向 2022年版 厚生統計協会			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
公衆衛生学Ⅱ	1単位（15時間）	1年次 後期	非常勤講師	
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 公衆衛生学は、自然科学としての医学を人間社会へ適応する学問である社会医学の一分野であり、疾病の予防に取り組む学問領域である。扱う対象は、臨床医学が疾病をもつ個々の患者であるのに対して、公衆衛生では社会にあつて様々な健康状態にありながら生活している一般の人々全てであり、個々の人々に対しても、さらに集団としても対応する。 公衆衛生に対する現代の社会的要請は、疾病の予防だけにとどまることなく、人の健康度の把握、健康の増進へと向かい、なおかつ医学・医療だけでなく、保健、福祉にわたる人の健康に関わる全てを対象とする包括的な対応へと向かっている。その活動内容は、その年代的对象ごとに、母子保健、学校保健、成人・老人保健、さらに生活する場により、環境保健、学校保健、地域保健、職域保健、国際保健、さらに健康範囲により精神保健などに分類される。それぞれに関連する法律があり、行政が関与している。 公衆衛生学では人の健康の維持増進にかかわる広い概念の医療（保健・狭義の医療・福祉）について、新しい概念に対応しつつ、国民の健康を扱う医療従事者としての素養を伸ばすことを念頭に置き授業を展開する。				
授 業 計 画	1. 生活環境と健康 1（2時間） 私たちを取りまく環境因子とこれらの変化が健康に及ぼす環境を理解するとともに生活環境の維持・向上に必要な上下水道や廃棄物処理等の現状について学ぶ 2. 生活環境と健康 2（2時間） わが国における公害、地球環境およびシックハウス等の様々な環境問題の現状と対策について学ぶ 3. 各種保健活動 5 精神保健、障害者保健に関わる統計指標とその動向、および制度を学ぶ 4. 各種保健活動 6 国際保健に関わる統計指標とその動向、および、国際保健の諸活動について理解を深める 5. 産業保健（2時間） 労働者の安全や健康を守るための体制や管理等について理解するとともに様々な有害因子の影響や対策について学ぶ 6. 感染症対策（2時間） 感染の3大要因、感染源（病原性微生物）、感染経路（環境要因）、感受性（宿主抵抗性）について理解し、感染症予防対策について学ぶ 7. 国民栄養と食品保健（2時間） 栄養所要量の概念を理解し、年代別の適正な栄養摂取の必要性を学ぶ。また、食品衛生（食中毒を含む）および食の安全についても学ぶ			
評価	筆記試験（国家試験形式の筆記試験によって）			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 【電子版】			
参考文献	国民衛生の動向 2022年版 厚生統計協会			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
社 会 福 祉 I	1単位（15時間）	1 年次 後期	非常勤講師	
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 現代社会における社会福祉の理念と意義について認識を深め、これからの社会福祉の課題について理解させる。 ビデオや実践報告、各種報告資料等も参考にして、現代の福祉問題を把握させるとともに、看護と社会福祉の関連性、看護実践における福祉との協働の意義を修得させる。				
授 業 計 画	<社会福祉学 I > 1. 社会福祉の基本的性格 2. 社会保障制度と社会福祉 3. 社会福祉の法制度 4. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 5. 医療保障・所得保障 6. 介護保険制度創設の背景 7. 介護保険制度の概要 8. テスト			
評価	筆記試験			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院【電子版】			
参考文献	これからの社会福祉「社会福祉概論」、有斐閣 国民衛生の動向 2019年版 厚生統計協会 厚生労働白書、厚生労働省 その他、授業中に適宜紹介する。			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
社 会 福 祉 Ⅱ	1単位（15時間）	2 年次前・後期	非常勤講師	
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 現代社会における社会福祉の理念と意義について認識を深め、これからの社会福祉の課題について理解させる。 ビデオや実践報告、各種報告資料等も参考にして、現代の福祉問題を把握させるとともに、看護と社会福祉の関連性、看護実践における福祉との協働の意義を修得させる。				
授 業 計 画	<社会福祉Ⅱ> 1. 公的扶助 2. 高齢者福祉 3. 障害者福祉 4. 児童家庭福祉 5. 地域福祉 6. 社会福祉実践の共通基盤 7. これからの社会福祉－医療・看護との連携 8. テスト			
評 価	筆記試験			
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院 【電子版】			
参 考 文 献	これからの社会福祉「社会福祉概論」、有斐閣 国民衛生の動向 2019年版 厚生統計協会 厚生労働白書、厚生労働省 その他、授業中に適宜紹介する。			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
関 係 法 規	1 単位（15 時間）	3 年 次 前 期	非常勤講師	

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

看護職は国家資格の専門職である。そして、看護は法的根拠に基づき行われる。
 専門職に就くものとして、まず、法律の意味、人間の生活と法律の関係を理解することが必要である。その上で、我が国の保健医療福祉に関する法令・制度を理解し、看護職の果たす役割と責任を踏まえた看護実践がおこなえる基盤を持つことが必要であろう。
 この科目では、看護専門職として必要な法に関する知識を学習し、その学びを通して看護師として担う責任に対する自覚を高めて欲しい。

<授業計画>

単 元		回数	内 容	授業形態
1. 法の概念		1 ～ 2	1) 人間の生活と法律 2) 法律の基礎知識 3) 健康支援のための法律とその分類	講 義
2. 医療の提供に関連する法律		3	1) 看護職員に関連する法律 ①保健師助産師看護師法 ②看護師等の人材確保の促進に係る法律	講 義
		4	2) 医療の提供に関連する法律 ① 医療法 ② 医師法 ③ 薬剤師法 ④ 薬事法 ⑤ 臓器移植に関する法律など	講 義
3. 労働に関する法律		5	1) 就労に関する法律 ① 労働基準法 ② 労働安全衛生法 ③ 育児休業、介護休業法など	講 義
4. 医療安全と法律		6 ～ 7	1) 医療過誤と法的責任 2) 医療過誤の事例からの学び	講 義 GW
		8 評価	筆記試験	
評価	筆記試験に授業中の課題への取り組みなどを加味して評価します。			
教科書	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[4]看護関係法令 医学書院【電子版】			
参考文献	看護六法			

專 門 分 野

基礎看護学

専門分野

1. 基礎看護学の考え方・ねらい

看護は、あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会を対象とし、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通してその最期まで、その人らしく生を全うできるように援助することを目的としている。

基礎看護学では、各領域の土台となる臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的理論や基礎的技術、看護学の目的・対象・方法論を学び、対象の様々な健康問題を解決するために行われる看護活動を理解し、看護行為の基礎となる知識・技術・態度を修得する。また、人間の尊厳を重視し、安全で安楽な看護について学ぶ。さらに看護実践する上で欠かせない倫理観をはぐくみ、看護実践の基礎となる態度を養う。

2. 基礎看護学の構成

〈教育内容〉	〈授業科目名〉	〈単元名〉
基礎看護学 11単位 (330時間)	看護学概論Ⅰ 1単位(30時間)	1. 看護の概念 2. 看護の対象 3. 人間と看護 4. 看護の提供者 5. 看護理論 6. 看護の場と役割・機能
	看護学概論Ⅱ 1単位(30時間)	1. 倫理学の基本的な考え方 2. 姓名倫理 3. 看護倫理 4. 専門職の倫理 5. 倫理的問題へのアプローチ
	看護援助の基本Ⅰ 1単位(30時間)	1. 看護技術の概念 2. 看護における記録・報告 3. コミュニケーション 4. 安全を守るための技術
	看護援助の基本Ⅱ 1単位(30時間)	1. フィジカルアセスメントの理解 2. フィジカルアセスメントの実際
	看護援助の基本Ⅲ 1単位(30時間)	1. 看護過程の概念と構成要素 2. ヘンダーソン理論と看護過程 3. ヘンダーソン論に基づく看護過程展開の実施
	日常生活援助技術Ⅰ 1単位(30時間)	1. 環境を整える技術 2. 活動・休息の技術
	日常生活援助技術Ⅱ 1単位(30時間)	1. 健康生活における清潔の意義と基本的知識 2. 身体の清潔・衣生活を整える技術
	日常生活援助技術Ⅲ 1単位(30時間)	1. 食生活の援助技術 2. 排泄の援助技術
	日常生活援助技術Ⅳ 1単位(45時間)	1. オリエンテーション 2. 技術練習および技術チェック 3. 演習の振り返り
	診療援助技術Ⅰ 1単位(30時間)	1. 検査時の看護 2. 治療・処置に伴う看護
	診療援助技術Ⅱ 1単位(30時間)	1. 与薬 2. 輸血・静脈内注射 3. 輸血

3. 授業科目の概要

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
看護学概論 I	1 単位 (30 時間)	1 年次 前期	専任教員	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

看護学概論 I は看護の概論で、introduction of nursing に相当する科目である。看護学の基礎として看護の概念、看護の対象である人間、ライフステージにおける健康、看護の役割・機能、について学び、看護の大まかなイメージをもつことができる。この科目を通して、今後の学習の方向性を見出し、看護の役割と重要性について考える事ができるようにしたい。

<単元目標>

1. 歴史的推移の中で看護概念がどのように変化してきたかを学ぶことにより、現代における看護の概念、本質を理解する。
2. 看護の対象となる人間の捉え方・考え方を学び、人間を総合的に理解する基盤を持つ。
3. 健康の概念を明らかにし、人間と健康、健康レベルと看護の関係について理解する。
4. 看護職を巡る背景を学び、看護の本質を踏まえた看護職のあり方について考える。
5. 看護理論と実践の関係を理解し、理論的根拠を持って看護に取り組む基盤を持つ。
6. 看護の目的・機能・役割を理解し、保健医療福祉システムにおける看護活動の概要を理解する。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 看護の概念 (8 時間)	1～2	1) 看護概念の変遷 (1) 看護の原点 (2) 近代看護への歩み (3) ナイチンゲールと看護 (4) 専門職への歩み	講 義
	3	2) 現代の看護 (1) 看護の定義 法的規定、職能団体による定義、 看護理論家による定義	講 義
	4	(2) 看護独自の機能 ケアの概念、看護実践と質保障の条件 (art、個別性、自立、セルフケア、依存、クリティカルシンキング、EBN、看護過程、看護研究)	講 義
2. 看護の対象 (6 時間)	5～6	1) 人間の理解 (1) 全人的理解 統合体、オープンシステム (2) 適応 (3) 人間の欲求と行動～ニード (4) 成長・発達、変化する人間 発達段階と発達課題	講 義
	7	2) 家族の理解 (1) 家族の定義 (2) 家族の機能 (3) 家族を対象とした看護 3) 生活者としての人間の理解	講 義

3. 人間と健康 (4時間)	8～9	1) 健康概念 WHO の定義、健康観の変化、障害の概念、現代の健康観、健康指標 2) 健康と人間の心と行動 3) 健康レベル、症状に応じた看護の目的・概要	講 義
4. 看護の提供者 (2時間)	1 0	1) 法的規定（保健師助産師看護師法、養成制度） 2) 看護職の必要条件 科学的態度、倫理性	講 義
5. 看護理論 (4時間)	1 1～ 1 2	1) 看護理論とは 2) 看護理論と実践 3) 看護理論の分類 4) 看護理論の活用	講 義 GW
6. 看護の場と役割・ 機能 (4時間)	1 3～ 1 4	1) 保健医療の変遷と看護の役割の拡大 医療チームとしての機能 総合保健医療福祉、保健医療福祉の専門職 2) 看護サービスの場と機能 医療施設に於ける看護 地域に於ける看護 3) 継続看護	講 義 GW
	1 5 評価	筆記試験	
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院【電子版】		
参考文献	F. ナイチンゲール：看護覚え書き 現代社 2016 第7版 V. ヘンダーソン：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 2016 再新装版 城ヶ端初子：実践に生かす看護理論 19 サイオ出版 2018 第2版 看護六法 ほか		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
看護学概論Ⅱ	1 単位 (15 時間)	1 年次 前期	専任教員	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

人間を対象とし、生と死に向き合う職業をもつ看護師は、専門職者として、倫理的態度をもって看護を行うことが大切であり、それを学生時代から養っていく必要がある。そこで、この科目では、職業倫理としての看護倫理、そして看護の倫理原則に基づいた考え方を学ぶことを目的とする。

<単元目標>

1. 人間の価値を学び、患者一人一人の人権の尊重が考えられる。
2. 看護倫理についての基本的な知識を理解する。
3. 看護倫理を学び、看護師としての責務と責任を考えることができる。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 倫理学の基本的な考え方 (2 時間)	1	1) 倫理とは何か (1) 道徳・法 (2) 倫理的判断の基準となるもの (3) 倫理的探求の道筋 2) 倫理理論 (1) 義務論 (2) 帰結主義 (3) 倫理理論の看護倫理への応用 3) 他者理解と対話のための理論 (1) ナラティブとは (2) 患者・家族・医療従事者のナラティブ	講 義
2. 生命倫理 (2 時間)	2	1) 生命倫理とは何か (1) 生命倫理の特徴 (2) 生命倫理の歴史 2) 生命倫理の理論 (1) 生命倫理の4原則 (2) 生命倫理の4原則を用いた倫理問題の検討 (3) ヨーロッパの倫理原則 3) 生命倫理と看護職の責務 (1) インフォームドコンセント (2) 守秘義務と個人情報保護 4) 性と生殖の生命倫理 5) 死の生命倫理 6) 先端医療と制度をめぐる生命倫理	講 義
3. 看護倫理 (2 時間)	3	1) 看護倫理を学ぶ意義 2) 看護倫理の歴史 3) 看護の倫理原則 4) 看護実践上の倫理的概念 5) 看護実践と倫理	講 義

4. 専門職の倫理 (4時間)	4～5	1) 社会から見た倫理 2) 専門職に求められる倫理 3) 専門職の倫理綱領 (1) 看護師の専門職の倫理の発展経緯 (2) ICN看護師の倫理綱領 (3) 看護者の倫理綱領 4) 看護業務基準と倫理実践 5) 保健師助産師看護師法と倫理 6) 看護研究の倫理	講 義
5. 倫理的問題へのアプローチ (4時間)	6～7	1) 看護実践における倫理的問題の特徴 2) 倫理的問題へのアプローチ法 (1) サラ・フライの看護実践における倫理的分析和意思決定のためのモデル 3) 看護実践を行う上での倫理的課題と分析の実際 (1) 日常ケアの中の倫理的課題 (2) 先端医療技術における倫理的課題 * (1) (2) に関する事例から1つ選択しグループで問題の所在とモデル行動について検討 →クラス全体で発表・討議(3～4人/グループ) <事例> ・人間の尊厳に関する事例 ・平等な看護の提供に関する事例 ・信頼関係に基づく看護の提供に関する事例 ・知る権利、自己決定に関する事例 ・個人情報保護、守秘義務に関する事例 ・抑制と安全に関する事例 等	講 義 演 習
	8 評価	筆記試験	
評価	筆記試験		
教科書	〔单元1～4〕 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院【電子版】		
参考文献	石井トク 他著：看護倫理学入門 医歯薬出版株式会社 2012 サラ T. フライ、メガン・ジェーン・ジョンストン 著：看護実践の倫理 日本看護協会出版会 2010 宮脇美保子 : 身近な事例で学ぶ看護倫理 中央法規 2013 杉谷藤子 他著：ベットサイドの看護倫理事例 30 日本看護協会出版会 2011 吉川洋子他著：看護学生のための患者さんの声に学ぶ看護倫理 日本看護協会出版会 2010		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
看護援助の基本 I	1単位 (30時間)	1 年次 前期	専任教員	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

看護者は、対象者の尊厳を守りながら生活の自立を目指して看護の技術を駆使する。そのためには、患者の安全性を保障し、コミュニケーションを図っての対象理解が不可欠である。また、看護はチームで行う。チームで一貫した看護を継続して行う為には看護記録、報告が大切になってくる。

ここでは、他の看護技術に先立ち、対象者の理解と看護実践の基盤になる看護技術の概念を学び、その上でコミュニケーション、安全、記録・報告など看護行為に共通する技術を学ぶ。

単元 1：看護技術の概念

看護技術は、対象の安全・安楽、自立を目指した目的意識的な直接行為であり、看護の専門的知識に基づいて行われるものと定義される。看護技術の概念を学ぶことから、看護を学ぶ者としての心構えと今後の各技術修得のための土台となる知識を身につける。

<単元目標>

1. 看護技術の概念が理解できる。
2. 看護技術の特徴と基本原則が理解できる。
3. 看護技術の構成が理解できる。

単元 2：看護における記録、報告

看護はチームで実施される。患者に個別性のある看護を継続して行う為には、記録、報告は欠かせない。また、記録に関しては法的位置づけもある。

ここでは看護を行う上で必要な記録、報告についての基礎的知識を身につける。

<単元目標>

1. 看護における報告の目的、方法が理解できる。
2. 看護における記録の目的、方法、法的位置づけなどについて理解出来る。

単元 3：コミュニケーション

看護はあらゆる発達段階、健康レベルにある人間を対象としており、看護実践は看護者と対象者の相互作用を通して、人間関係を形成しながら行われる。コミュニケーションの本質は他者との意味の共有であり、看護者が対象と意思疎通を図ることは援助的人間関係の確立のために大変重要である。また、単に看護者と患者の意思疎通技術ではなく、援助過程の構成要素に深く関わり、効果的かつ質の高い看護行為を実施する上で看護活動の質を決定づける。全ての看護実践の基盤となるのがコミュニケーションである。看護における効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度を修得するための基本原則を学ぶ。

<単元目標>

1. コミュニケーションについての基礎的知識を理解できる。
2. 看護における相互作用とコミュニケーションの意義を理解できる。
3. 看護に必要なコミュニケーション能力を身につけるために、自己洞察の必要性が理解できる。

単元 4：安全を守るための技術

看護は個々の身体の状態や環境を総合的に判断し、個人の安全が守れるような援助を行う。患者の状態に合わせた安全の確保を行うということは、身体的・精神的な安楽や安心を得ることと、事故による身体・精神への負担を負うことなく回復を促進することや、医療の信頼を得ること、ケアの質を保証することにことにもつながる。さらに安全はケアの対象者だけではなく看護者自身の安全も含まれている。

ここでは看護職として必要な安全の基礎的知識・技術・態度を身につける。

<単元目標>

1. 看護における安全の意義と安全を脅かす諸因子について理解できる。
2. 事故防止の方法が理解できる。
3. 感染予防対策を理解し、清潔・不潔が判断できる。
4. 医療関連感染の原因と対策について理解できる。
5. 感染予防対策の基本的技術が実践できる。

<授業計画>

単元	回数	内容	授業形態
1. 看護技術の概念 (2時間)	1	1) 看護技術とは アートとサイエンス 2) 看護技術の特徴 3) 看護技術の範囲 (1) 生活援助技術 (2) 診療に伴う援助技術 4) 看護技術を適切に実践するための要素 (1) 目的、方法の理解 (2) 根拠をもって行う (3) 個別性、意思決定の支援 (4) 安全、安楽 (5) 評価 5) 看護技術の発展と修得	講 義
2. 看護における記録・報告 (4時間)	2	1) 看護記録とは (1) 看護記録の法的位置づけ (2) 看護記録の規定、目的と機能 (3) 看護記録記載・管理における留意点 (4) 看護記録の構成	講 義
	3	2) 報告とは (1) 報告の重要性 (2) 報告の目的、方法 (3) 報告の実際	講義・演習
3. コミュニケーション	4	1) コミュニケーションとは	講 義

ン (12時間)		(1) 双方向的な相互作用 (2) 人間のコミュニケーションの特徴 2) 看護・医療におけるコミュニケーション (1) コミュニケーションの目的、特徴 (2) コミュニケーションの重要性 ①信頼関係を築く ②患者の主体的参加を支援 ③医療者どうしの連携、良質な医療の提供 5 3) コミュニケーションの構成要素と成立過程 (1) コミュニケーションの手段 (2) 構成要素と成立過程 (3) ミスコミュニケーション (4) 看護専門職としての能力向上のために 6 4) 関係構築のためのコミュニケーションの基本 (1) 接近的コミュニケーションの原理、態度 (2) 接近的行動と非接近的行動 (3) 接近的コミュニケーションの成立 5) 効果的なコミュニケーション (1) 傾聴の技術 (2) 情報収集の技術 (3) 説明の技術 (4) アサーティブネス 6) コミュニケーション障害への対応 7 7) 基本的なコミュニケーション 8～9 8) コミュニケーションの実際 (1) 患者の心理と看護学生の面接技法 事例に基づいて、コミュニケーションの演習を行う。 (2) まとめ	DVD 講義 講義 演習 演習
4. 安全を守るための技術 (10時間)	10	1) 安全を守る技術 (1) 安全の意義と目的 (2) 安全を阻害する危険因子 (3) 事故防止の技術 ①ベッド上の安全 (安全ベルト、ベッド柵、離床センサーなど) ②移送や移動時の安全 (4) 感染予防対策	講義

		①医療関連感染とは ②感染管理組織 ③職業感染対策 2) 感染防止の技術 (1) 標準予防策 (スタンダードプリコーション) ①標準予防策の基本概念 ②手指衛生 (流水手洗い、手指消毒) ③個人防護具 (2) 感染経路別予防策 (3) 感染性廃棄物の取り扱い (4) 洗浄・消毒・滅菌 (5) 無菌操作 ①ガウンテクニック (マスク・ゴーグル・キャップを含む) ②滅菌物の取り扱い a. 清潔野の作成 b. 滅菌バッグの管理、保管 c. 滅菌包みの開け方 d. 鑷子・鉗子の取り扱い	講 義 演 習 講 義 演 習
	1 1 ~ 1 2 1 3 ~ 1 4 1 5 評価	筆記試験	
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院【電子版】		
参考文献	A. ウィーデンバック：コミュニケーション，日本看護協会出版会 2007 F. ナイチンゲール：看護覚え書き，現代社 2016 第7版 ペプロウ ペプロウ看護論 看護実践における対人関係論 医学書院 1989 宮本真巳 感性を磨く技法 看護場面の再構成 日本看護協会出版会 1995		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師	実務経験
看護援助の基本Ⅱ	1単位（30時間）	1年次 前期	専任教員	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

看護者は患者の発達段階や健康障害を総合的に捉え、健康問題を解決するための看護を実践する必要がある。そのためには観察、測定、面接などの技術を正しく、正確に用いて主観的・客観的情報を収集する必要がある。また、得た情報は専門的な知識を活用して的確に判断してはじめて有用な情報になる。そのため、看護者は観察・測定・フィジカルイグザミネーションから得られた情報を科学的根拠に基づきアセスメントし、日常生活の行動面を評価し看護援助へと結びつけていく必要がある。

ここでは、看護を実践するために必要なフィジカルアセスメントの基本的な知識・技術・態度を身につける。

単元1：フィジカルアセスメントの理解

フィジカルアセスメントとは、頭部から足先までの全身の状態を的確に系統的に把握するために、問診（健康歴など）、視診、触診、打診、聴診などの技術を用いて身体診査することである。看護のためのフィジカルアセスメントは、看護を実施するために、身体を根拠に基づいて的確に系統的に把握するために行う。フィジカルアセスメントは、看護者にとって重要な技術の1つである。そのため、科学的な思考を基盤とした熟練した正確な技術はもちろんのこと、的確な身体の査定であり、看護上の問題を見いだすためのフィジカルアセスメントでなければならない。

ここでは、フィジカルアセスメントの意義や重要性について学ぶ。

<単元目標>

1. ヘルスアセスメントの意義、機能が理解できる。
2. フィジカルアセスメントの意義、重要性が理解できる。

単元2：フィジカルアセスメントの実際

フィジカルアセスメントを行うためには、身体診査のための正確な情報を得ることが重要である。そのためには観察の技術やバイタルサインを正確に測定する技術や得られた情報の正常、異常を判断し援助に繋げるためのアセスメントが必要である。

ここでは、看護の基本となる観察についての意義・目的・原則を学び、バイタルサインの測定やフィジカルイグザミネーションの基本的知識・技術・態度を習得する。

<単元目標>

1. 看護実践における、観察の意義と目的を説明できる。
2. 生命徴候としてのバイタルサインの意義を理解し、正しい測定ができる。
3. 基本的なフィジカルイグザミネーションが実施できる。
4. 得られた情報の正常・異常の判断ができる。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. フィジカルアセスメントの理解 (4 時間)	1～2	1) ヘルスアセスメントとは (1) ヘルスアセスメントの意義、機能 (2) ヘルスアセスメントの視点 (3) 倫理的配慮 2) フィジカルアセスメント (身体診査) とは (1) 看護におけるフィジカルアセスメントの意義と重要性 (2) 看護者におけるフィジカルアセスメントの特徴 (3) フィジカルアセスメントの構成 (4) フィジカルアセスメントの基礎技術 ①問診 ②視診 ③聴診 ④打診 ⑤触診 (5) 観察 ①看護観察の概念 ②看護における観察 i 観察の視点と内容 ii 看護観察における思考の過程	講 義
2. フィジカルアセスメントの実際 (24 時間)	3	1) フィジカルアセスメントの進め方 (1) 健康歴の聴取 (2) 系統的レビュー (3) 身体各部の診査 (4) 測定後の記録 (健康歴・データベース表、温度表) (5) フィジカルアセスメントに必要な器具・材料	講 義
	4～5	2) バイタルサイン (1) バイタルサインの重要性 ①バイタルサインとは ②バイタルサイン測定の意義 (2) バイタルサインの観察 (3) バイタルサイン測定の実際	
	6～7 8～ 11	3) 各器官、系統のフィジカルアセスメント (1) 頭頸部のフィジカルアセスメント ①頭頸部の解剖生理 ②頭頸部の機能の変化によって起こる人間の身体的・心理的・社会的変化および生活への影響 ③頭頸部のフィジカルアセスメントの実際 ④得られた情報の正常、異常の判断 (2) 呼吸器のフィジカルアセスメント ①呼吸器の解剖生理 ②呼吸器機能の変化によって起こる人間の身体的・心理的・社会的変化および生活への影響 ③呼吸器のフィジカルアセスメントの実際 ④得られた情報の正常、異常の判断	演 習 講 義

		(3) 循環器のフィジカルアセスメント ①循環器の解剖生理 ②循環器機能の変化によって起こる人間の身体的・心理的・社会的変化および生活への影響 ③体温調節のメカニズム ④循環器のフィジカルアセスメントの実際 ⑤得られた情報の正常、異常の判断 (4) 腹部のフィジカルアセスメント ①腹部の解剖生理 ②腹部機能の変化によって起こる人間の身体的・心理的・社会的変化および生活への影響 ③腹部のフィジカルアセスメントの実際 ④得られた情報の正常、異常の判断 (5) 筋骨格系のフィジカルアセスメント ①筋骨格系の解剖生理 ②筋骨格系機能の変化によって起こる人間の身体的・心理的・社会的変化および生活への影響 ③筋骨格系のフィジカルアセスメントの実際 ④得られた情報の正常、異常の判断 (6) 神経系のフィジカルアセスメント ①神経系の解剖生理 ②神経系機能の変化によって起こる人間の身体的・心理的・社会的変化および生活への影響 ③神経系のフィジカルアセスメントの実際 ④得られた情報の正常、異常の判断	講 義
	12～ 13	(7) 頭頸部、呼吸器、循環器のフィジカルイグザミネーション技術（呼吸・脈拍・血圧・体温測定を含む）測定の実際（記録、報告を含む） ※デモンストレーション 4人1組になり頭頸部、呼吸器、循環器の順で演習。測定結果について報告し、記録として提出	演 習
	14	(8) 腹部、筋・骨格、神経系のフィジカルイグザミネーション技術の実際、身体計測の実際（記録、報告を含む） ※デモンストレーション 4人1組になり（8）の点で演習。測定結果について報告し、記録として提出	演 習
	15 評価	筆記試験	

評価	筆記試験
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1看護学概論 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院【電子版】
参考文献	岡庭 豊：フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア 平成27年 第1版 川村佐和子 他編：ナーシンググラフィカ⑩基礎看護学—ヘルスアセスメント メディカ出版 2014 第4版 第1刷 日野原重明編：ナースに必要な診断の知識と技術フィジカルアセスメント 医学書院 2014 第4版 第6刷 藤崎郁：フィジカルアセスメント完全ガイド第3版 学研メディカル秀潤社 2017 第3版 第 1刷 守田美奈子：看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス インターメディカ 2016 初 版 第1刷

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
看護援助の基本Ⅲ	1 単位 (30 時間)	1年次 前・後期	専任教員	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

看護は対象の看護上の問題と対象のニーズを明確にし、問題解決していくためにおこなう系統的、組織的な活動である。看護過程は、雑多な現象を整理し、ひとつずつ解決する方向で物事に対処して行くという問題解決的アプローチである。

この活動は、①必要な情報を収集し、②対象の健康状態を査定（アセスメント）し、③その集積から対象の看護上の問題を明確（看護診断）にし、優先順位にそって④目標設定のもと、問題解決のための介入計画を立てる。そして⑤看護ケアを実施し、⑥その後事後評価をする。さらにその評価を次の実践へとつないでいく螺旋階段のような営みである。

ここでは、看護における問題解決思考プロセスを理解し、対象に応じた看護過程を展開できる基礎的能力を養う。また、看護記録の概念を理解し、記録に対する責任の自覚を持ち、記録を活用していくための基礎的能力を養う。

この科目での学習を通して、問題意識をもち、科学的・批判的に思考する態度を養う機会とする。

<単元目標>

1. 看護過程の展開方法について理解する。
2. 対象の個性をふまえた看護展開の実際を理解する。
3. 看護記録の概念とその実際を学び、看護実践に活用できる。
4. 科学的に思考する態度を養う。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 看護過程の概念と構成要素 (8 時間)	1 ～ 4	1) 看護過程の概念 2) 看護過程の基盤となる考え方 (1) 問題解決過程 (2) クリティカルシンキング (3) 倫理的配慮と価値判断 (4) リフレクション 3) 看護過程の段階 (1) 情報収集 (2) アセスメント アセスメントカテゴリー ①ヘンダーソン (基本的ニーズ) ②ゴードン (機能的健康パターン) ③ロイ (4つの機能様式) ④オレム (セルフケア要件) など (3) 看護問題の明確化 (看護診断) (4) 看護計画立案 ①優先順位 ②看護目標の設定、達成期日 ③ケア計画 (5) 実施・評価	講 義

2. ヘンダーソン理論と看護過程 (6時間) 3. ヘンダーソン理論に基づく看護過程展開の実際 (14時間)	5～7 8～14 15 評価	1) ヘンダーソンの理論 (1) 概念枠組み (2) 14の基本的ニーズ (3) ニーズを規定する要因 2) ヘンダーソンの理論に基づく看護過程 (1) 基本的ニーズの充足・未充足のアセスメント (2) 看護診断 (3) 看護計画 ①目標 ②計画 (4) 評価 1) 看護過程展開の実際 (1) ペーパーペイシェントによる看護過程の展開を行う(個人ワーク)。 (2) フェイスシート～介入計画作成まで行う。 筆記試験	講義・演習 講義・演習
評価	筆記試験(50%) 看護過程の個人ワークの提出課題(50%)		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2021 第18版 【電子版】 Ⅴ. ヘンダーソン:看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 2016 再新装版 秋葉公子、江崎フサ子、玉木ミヨ子、村中陽子:看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際 ヌーヴェルヒロカワ 2019 第4版 第7刷 江崎フサ子、玉木ミヨ子、村中陽子、秋葉公子:ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題 リスト ヌーヴェルヒロカワ 2019 第4版 第7刷		
参考文献	ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程—看護計画立案モデル— 日総研 第4版 ヘンダーソン看護論と看護実践への応用 照林社 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
日常生活援助技術Ⅰ	1単位 (30時間)	1 年次 前期	専任教員	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

対象がニードを満たすための重要な看護行為として、日常生活を整えることがあげられる。

ここでは、環境調整と活動・休息に対する看護技術を原理原則に基づいて実践できる能力を習得する。そのためには、それぞれの意義と健康、対象の生活との関係性を理解することが必要である。また、看護行為の基盤となる科目として安全・安楽に配慮する必要性を理解し、基本的知識と態度、技術を身につける。

単元1：環境を整える技術

環境は人間の健康に影響を及ぼし、生命の維持、疾病の予防、回復、健康の保持増進には環境を整える必要がある。ここでは、疾病や機能障害をもち療養生活を送る対象の安全・安楽な環境を保つための知識と態度、基本的な技術を身につける。

<単元目標>

1. 環境の調整の意義を理解する。
2. 環境調整への援助の原理原則を理解する。
3. 室内環境の調整、病床を整える技術が原則に基づいて実施できる。
4. 療養生活を送る患者の気持ち、生活習慣を尊重した配慮ができる。

単元2：活動・休息の技術

活動と休息の意義を理解し、健康の促進、回復の促進ができることが看護師の役割である。

ここでは、対象の生活、疾病や機能障害に合わせた活動、休息の援助が安全・安楽に行えるための知識と態度、基本的な技術を身につける。

<単元目標>

1. 活動と休息の意義を理解する。
2. 活動・休息への援助の原理原則を理解する。
3. ボディメカニクスを活用して、安全・安楽に体位変換、移動・移送が実施できる。

<授業計画>

単元	回数	内容	授業形態
1. 環境を整える技術 (16時間)	1	1) 人間の環境と健康 (1) 環境とは (2) 環境因子 (3) 健康生活と環境 2) 病人の生活環境 (1) 病室内環境の構成因子 (2) 病棟の構成と病床の種類	講 義

2. 活動・休息の技術 (12時間)	2～3	3) 望ましい療養環境と必要な援助 (1) 療養環境調整の意義 (2) 毎日の環境整備 (3) リネン類の取り扱い (4) ベッドメイキング (5) シーツ交換 (6) 臥床患者のシーツ交換	講義
	4～5	4) 環境調整の実際 (1) リネン類の取り扱い (2) ベッドメイキング ①オープンベッド ②クローズドベッド	演習
	6～7	(3) 病室の環境整備の実際 ①シーツ交換と環境整備 ②事例に基づいた環境整備 ③まとめ	演習
	8	(4) 臥床患者のシーツ交換の実際	演習
	9	1) 活動の理解 (1) ADL (2) 活動と姿勢 (3) 重心と支持基底面 (4) 良肢位と関節可動域 (5) 解剖学的断面 (6) ボディメカニクスと力のモーメント	講義
	10	2) 重心移動	講義
	11	3) 体位変換の援助 4) 体位変換の実際 (1) 仰臥位から側臥位 (2) 仰臥位から長座位・端座位	演習
	12	5) 移乗・移送の援助 車椅子、ストレッチャー、杖・歩行器	講義
	13	6) 移乗・移送の援助の実際 (1) 仰臥位から車椅子までの移乗 (2) ベッドからストレッチャーへの移乗 (3) 車椅子での移送 (4) 歩行介助 (5) 移乗・移送の演習のまとめ	演習
		7) 休息の理解 (1) 休息の種類と睡眠	

		1 4	(2) 睡眠障害とそのアセスメント	講 義
		1 5 評価	筆記試験	
評価	筆記試験			
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院【電子版】			
参考文献	F. ナイチンゲール：看護覚え書き， 現代社 2016 第7版 金井一薫：ナイチンゲール看護論入門， 現代社 V. ヘンダーソン：看護の基本となるもの， 日本看護協会出版会 2016 再新装版 氏家幸子：基本看護技術， 医学書院 小玉香津子 他編：基礎看護技術マニュアルⅠ， 学習研究社 佐藤和良：看護学生のための物理学， 医学書院 ほか			

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
日常生活援助技術Ⅱ	1 単位 (30 時間)	1 年次 前期	専任教員	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

対象がニードを満たすための重要な看護行為として、日常生活を整えることがあげられる。この技術を学習するためには、生活の一つ一つについて、その意義と健康との関係性を理解することが必要である。その上で、清潔、衣生活などに対する看護技術を、原理原則の理解に基づき実践できるよう習得する。また、看護技術の学習において初期の段階に当たるため、看護行為の基盤となる身のこなし、安全への注意力、安楽への配慮、物品の扱い、対象への態度などを自らの日常を振り返りながら考え、学ぶ方法を身につける必要がある。

身体の清潔への欲求は生理的欲求であり、そのニードは多くの影響要因に左右される。その個人の清潔のニーズが満たされ、健康の保持・増進につながる看護に必要な基礎知識を身につけ、対象に応じた方法で清潔の援助が実施出来る事を目的とする。

<単元目標>

1. 人間の健康生活と清潔行動の関係、看護における清潔への援助の意義を理解する。
2. 清潔ケアにおける原理原則を理解し、実施できる基本的技術を修得する。
3. 対象の状況に応じた清潔ケアの選択が出来る。
4. 対象のプライバシーを配慮し、対象尊重の姿勢で援助できる態度を身につける。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 健康生活における 清潔の意義と基本的知識 (4 時間)	1	1) 清潔援助の基礎的知識 (1) 皮膚の解剖 (2) 皮膚の働き (3) 粘膜の生理作用	講 義
	2	2) 健康生活における清潔の意義 3) 健康障害時の清潔について (1) 援助の必要性 (2) 疾病時における清潔の意義 (3) 疾病時における清潔のニードと生活習慣 ①朝・夕のケア ②全身の清潔の方法とニード (4) 看護の目的	講 義
2. 身体の清潔・衣生活を整える援助 (2 4 時間)	3	1) 口腔の清潔 (1) 口腔ケアの意義・目的 (2) 口腔の解剖・生理 (3) 口腔状態のアセスメント (4) 口腔ケアの実際 2) 部分浴の清潔 (1) 手浴、足浴の意義・目的 (2) 手浴、足浴の方法と留意点	講 義
	4	4) 手浴・足浴の実際 ①足浴のデモンストレーション、その後演習 ②事例: 76 歳女性 長期臥床で入浴ができない状態であったが、車椅子での座位は可能になった。入浴した気持ちになってもらうため座位にて足浴を行う。	演 習

		③車椅子に座っての足浴の演習 ④グループに分かれ演習を行う。 ⑤グループ内で患者役を決め、実施する。	
	5	5) 頭皮・頭髮の清潔 (1) 洗髪の意味・目的 (2) 頭髮の解剖・生理 (3) 頭皮・頭髮状態のアセスメント (4) 洗髪の方法 (5) 洗髪の方法	講 義
	6～7	(6) 臥床患者の洗髪の実際 ①ケリーパッド・洗髪車の使用方法と取り扱い ②ケリーパッドのデモンストレーション、その後演習 ③事例:50歳女性 ベッド上の安静が必要であり、頭部の搔痒感がある。 ④グループに分かれ演習を行う。 ⑤グループ内で患者役を決め、実施する。 ⑥事前に洗髪方法についての情報収集をする。 (7) 洗面台での洗髪の実際 ①事例:70歳女性、肺炎で回復しているが入浴には自信がなく洗髪を希望する。 ②グループに分かれ演習を行う。 ③グループ内で患者役を決め、実施する。	演 習
	8	6) 陰部の清潔の実際 (1) 陰部の清潔の意味 (2) 陰部の構造の特徴 (3) 陰部ケアの方法 (4) 陰部ケアの演習、基本的方法の演習 ①陰部ケアのデモンストレーション・演習 ②女性・男性の場合の説明をデモンストレーションで実施 ③女性陰部ケアの演習 ④グループに分かれ実施。患者役は陰部モデルを使用。	講 義
	9	7) 全身の清潔の保持 (1) 全身の清潔を保つ意義・目的 (2) 全身の清潔の保持状態のアセスメント (3) 清潔方法の特徴と選択 (4) 清潔の援助実施時の原則 8) 入浴・シャワー浴 (1) 入浴・シャワー浴の目的、方法 (2) 入浴・シャワー浴時の留意点・観察点 9) 衣類の清潔・選択について (1) 病衣の意味・条件 (2) 病衣交換の目的 (3) 病衣交換時の方法・留意点	演 習
			講 義

	10～ 14 10) 全身清拭の実際 (1) 全身清拭の意義・目的 (2) 全身清拭の方法と根拠 (3) 全身清拭の留意点・観察点 (4) 全身清拭の演習 ①全身清拭のデモンストレーション、その後演習 ②事例：45歳女性、心疾患のため活動制限がありベッド上安静の状態 ③グループに分かれ演習を行う。患者役を決め実施する。 ④実施は2人で協力して行う。 11) 全身清拭一連を通したデモンストレーション見学後、演習のまとめを行う 15 評価 筆記試験	演習 演習
評価	筆記試験	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院【電子版】	
参考文献	薄井担子他編：F. ナイチンゲール 看護覚え書き 現代社 2020 第7版12刷 湯楨ます他編：V. ヘンダーソン 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 2016 再新装版1刷 村中陽子他編：学ぶ・試す・調べる 看護ケアの根拠と技術 医歯薬出版株式会社 2013 第2版1刷 岡庭豊：看護がみえる vol. 1 基礎看護技術 メディックメディア 2019 第1版2刷	

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
日常生活援助技術Ⅲ	1 単位 (30 時間)	1 年次 前・後期	専任教員	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

対象がニードを満たすためには、日常生活上の看護問題を把握し日常生活を整えることが重要である。そのためには、日常生活の一つ一つについてその意義と健康との関係性を理解することが必要となる。食事・排泄は人間の健康にとって欠くことが出来ない重要な生活行動であり、心理的にも社会的にもその意義は大きい。それらの意義をふまえた上で、食生活や排泄に対する看護技術を原理・原則をふまえて安全・安楽に実践出来るよう習得する。

単元1：食生活の援助技術

食べることは人間の基本的ニードの一つであり、人は食事によって体内に栄養を取り入れ生命・健康を維持している。また食生活は心理的意義、社会的意義も大きいものである。

ここでは看護における食生活への援助の意義を理解した上で、健康レベルや食事行動の自立度に応じた栄養と食事のニーズを充足する援助を実施するための基本的知識・技術・態度を身につける。

<単元目標>

1. 人間の生活と健康における食事の意義を述べることができる。
2. 対象に応じた食事の援助のためのアセスメントの視点を述べることができる。
3. 対象に応じた食行動や食事環境を整えるための援助ができる。
4. 経管栄養法の適応・原理・原則について述べるができる。
5. 施行上の原則に従って経管栄養を実施できる。

単元2：排泄の援助技術

人間は生命を維持するために、身体にとって必要な物質を摂取し、代謝の結果不要になった有害物質を排出する。排泄機能・排泄行動は人間が生命を維持するために欠かせない生理的欲求であり、また他人には見られたくないきわめて個人的な生活行動である。

ここでは、人間にとっての排泄の意義や排泄援助が対象に与える心理的な影響を理解した上で、対象に応じた安全・安楽な排泄援助を実施するための基本的知識・技術・態度を身につける。

<単元目標>

1. 人間の生活と健康における排泄の意義を述べるができる。
2. 自然な排泄を促すための援助方法について理解し実施できる。
3. 排泄の援助によって対象が受ける心身への影響について理解し、対象に応じた排泄の援助方法を選択・実施できる。
4. 浣腸・導尿の適応・原理・原則について述べるができる。
5. 施行上の原則に従って安全に浣腸・導尿を実施できる。

(授業計画)

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 食生活の援助技術 (8 時間)	1～2	1) 食事・栄養の意義 (1) 生理的な意味 (2) 心理的な意味 (3) 社会的な意味 2) 栄養・食行動に関するアセスメントの視点 (1) 栄養状態のアセスメントの視点 (2) 摂食能力・行動のアセスメントの視点	講 義 VTR

2. 排泄の援助技術 (20時間)	3	3) 食事の援助技術 (1) 食事援助における看護者の役割 (2) 食事援助を受ける患者の心理 4) 経管栄養時の看護 (1) 経管栄養法とは (2) 経管栄養法の適応 (3) 経管栄養法の種類 (4) 経管栄養法実施にあたっての原則 5) 食事援助の実際 (1) 食事介助のデモンストレーション後に演習 (2) 事例: ①80歳。自力で摂取できない安静臥床の患者。仰臥位にて全面介助。 ②75歳右片麻痺で左手食事可能な仰臥位の患者。フアーラー位で部分介助 (3) 食事介助についてのまとめ	デモンストレーション 演習
		4) 経管栄養法の実際 (1) チューブ挿入のデモンストレーション後に演習 ①モデル人形を使用する ・チューブの挿入・固定・抜去 ・栄養剤注入の手順 ②経管栄養法についてのまとめ	
		5) 排泄の援助に必要な基礎知識 (1) 排尿・排便の意義と重要性 (2) 排尿・排便のメカニズム 2) 排泄に関するアセスメント (1) 尿と排尿状態の観察 (2) 便と排便状態の観察 (3) 排泄に影響を及ぼす因子	
		3) 排泄の援助 (1) 排泄援助の基本姿勢と原則 (2) 自然排尿・排便を促す援助 (3) 排尿障害・排便障害に対する援助 (4) 排泄用具を用いた排泄行動の援助	
	7	4) 排泄用具を用いた援助の実際 (1) 床上での排尿・排便の援助 ①洋式便器、和式便器 ②上記3つのデモンストレーションを行う ③洋式便器の挿入・排泄後の後片付けの演習 ④事例:40歳代女性 検査後 安静制限がありベット上での排泄を行う (2) ポータブルトイレ使用時の援助 ①ポータブルトイレ使用時のデモンストレーション (3) 排泄介助についてのまとめ	デモンストレーション 演習
		5) 浣腸法 (1) 浣腸とは (2) 浣腸の目的	
	8		講義 VTR

	9 1 0 1 1 1 2 1 3～ 1 4 1 5 評価	(3) 浣腸の種類 6) 浣腸法を受ける患者への援助 (1) 浣腸法の適応・種類 (2) 浣腸法実施にあたっての原則 7) 浣腸法の実際 (1) グリセリン浣腸のデモンストレーション (2) グリセリン浣腸の実際 ①事例：20 歳代女性 5 日間便秘が続いている。温罨法、マッサージの効果なく、医師の指示でグリセリン浣腸施行 ②患者役体験をする。陰部モデルを着用 (3) 浣腸の演習のまとめ 8) 導尿法 (1) 導尿とは (2) 導尿の目的 (3) 導尿の適応・種類 9) 導尿法を受ける患者への援助 (1) 導尿法実施にあたっての原則 (2) 一時的導尿法を受ける患者への援助 (3) 持続的導尿法を受ける患者への援助 1 0) 導尿法の実際 (1) 持続的導尿法の実際 ①事例：80 歳女性：肺炎のため入院 発熱が続き、体動も困難なため、立位保持できるまで留置カテーテル挿入の指示がでた。 ②グループに分かれ演習を行う。 (2) 導尿・留置カテーテル挿入の演習のまとめ 筆記試験	デモンストレーション 演習 講義 講義 VTR 演習
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院【電子版】		
参考文献	随時紹介		

授 業 科 目	単位数(時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
日常生活援助技術Ⅳ	1 単位 (45 時間)	1 年次 後期	専任教員	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 看護者が主体的に考え、実施できる援助として日常生活の援助がある。対象に援助を行う為にはいくつかの技術を用いながら行う事になる。また、対象への援助を安全に安楽に実施出来る事を基礎教育では求められている。 援助を実施するにあたっては、必要な援助を対象個々の状況に応じて変化させる柔軟性が求められるが、まずは、各看護技術の基礎的な知識と原理原則に則った方法を習得する必要がある。 看護援助の基本Ⅱ、日常生活援助技術Ⅰ～Ⅱについては既習済である。この科目ではそこで学んだ日常生活援助技術の方法を確実に身に付けることを目的とする。また、本科目は既習内容の目標到達度をもとに学生自身が自ら課題を見つけ主体的に学ぶことを基軸とし、振り返りをする力、学生相互の学びあいや協力・協働する力を身につけることもねらいとする。 <科目目標> 1. 対象の安全・安楽に配慮し、バイタルサインの測定、シーツの交換、全身清拭と寝衣交換ができる 2. 実施前後の報告ができる				

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. オリエンテーション (2 時間)	1	1) 科目のオリエンテーション (1) 目的、目標 (2) 内容 (3) 技術チェックおよび評価 (4) グループ編成 (5) 留意事項 2) グループワーク (1) 課題の共有と今後の取り組み (2) 技術練習計画の立案	講義 グループ ワーク
2. 技術練習 (2 2 時間)	2 ～ 1 2	3) 技術練習 (1) バイタルサイン測定: 体温・脈拍・呼吸・ 血圧 (2) 臥床患者のシーツ交換 (3) 臥床患者の全身清拭と寝衣交換 (4) 各援助技術の実施と評価 ①グループ内で看護師役・患者役・観察者 に分かれて行う。 ②看護師役に対し、観察者はチェックリス トに沿ってフィードバックする。 ③技術の実施ごとに練習の記録を残す (5) 評価に基づく反復練習 (6) 報告、連絡、相談、確認 4) 技術発表	演習

3. 技術チェックおよび技術練習 (22時間)	13～ 23	3つのうちいずれかの技術を発表し、その方法を検討する 5) 技術チェック計画の立案 6) 技術チェックおよび技術練習 (1) 技術チェック計画に基づき技術チェックを受ける (2) 技術練習の継続 7) 振り返り	演習
評価	技術(100点、看護技術ごとの技術チェック)		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2022 第18版 【電子版】 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2022 第18版 【電子版】		
参考文献	随時紹介		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
診療援助技術 I	1 単位 (30 時間)	1 年次 後期	専任教員・非常勤講師	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

看護の役割の一つに健康回復促進への援助、つまり生体機能を整えるための援助がある。その実施には、人間の生理機能を理解した上で、解剖学・生化学・薬理学・栄養学などの専門基礎分野で学んだ知識を活用し、生体機能を整えるための援助技術の原理原則を理解することが必要である。また、その行為に於ける安全性を確保し、看護の責任を認識した援助行為が行える必要がある。

単元 1：検査時の看護

検査は個人の健康状態を測定・評価するための情報として、広く健康診断や疾病診断のために重要な役割を果たしている。看護においては、患者の状態を病態生理学的に把握し、患者の訴えや生理機能の変化を査定するうえで重要な看護情報が得られる。患者の安全・安楽を守り、確実に検査が終了できるように援助することが必要である。

<単元目標>

1. 検査の意義と種類が理解できる。
2. 検査の科学的性質を知って注意深く取り扱うことができる。
3. 検査時に必要な看護が理解できる。

単元 2：治療・処置に伴う看護（吸引、吸入、酸素吸入、包帯、創傷処置、電法）

看護の重要な役割の一つに、診療の補助技術がある。この技術は人間の生理に関する基本的知識の活用と同時に、行われる診療行為の目的・意義・生体への影響を理解した上で、その援助技術の原理・原則を理解することが必要である。この科目では、呼吸機能を正常に維持し、あるいは病的状態による機能を回復させる目的で行われる援助について学習する。さらに、対象者の安楽を図るための技法についても学習する。

<単元目標>

吸引、吸入、酸素吸入

1. 吸引、吸入、酸素吸入の目的、原理、原則が理解できる。
2. 酸素の危険性と安全管理の必要性が理解できる。
3. 患者の安全・安楽を確保し、効果的な吸引、吸入、酸素吸入の技術が習得できる。

包帯、創傷処置

1. 包帯法の目的、包帯材料の必要条件と種類が理解できる。
2. 包帯法の原則を理解し、部位に適した基本的な巻き方が習得できる。
3. 創傷が起こるメカニズムと生体への影響が理解できる。
4. 創傷による基本的な治療の目的、生体への影響が理解できる。
5. 創傷によるその人への影響を理解し、苦痛緩和・健康回復への看護援助について計画することができる。

電法

1. 電法の目的と種類、効果を説明できる。
2. 電法の方法、一般原則と注意事項を理解し、安全で効果的な患者に合わせた温、冷電法技術が習得できる。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 検査時の看護 (6時間)	1	1) 検査の意義 2) 検査の種類と方法、実施時の注意点 (1) 生体検査 (心電図検査、脳波、X線検査、超音波検査 呼吸機能検査、視力検査、聴力検査) (2) 検体検査 (尿検査、便検査、喀痰検査、血液検査 血糖検査、消化液検査)	講 義
	2～3	3) 身体侵襲を伴う検査の生体に及ぼす影響の理解 (1) 内視鏡検査 (2) 造影剤を用いた検査 (CT、MRI、PET) (3) 核医学検査 4) 検査における看護者の役割 (1) 患者の準備 (2) 検査の介助 (3) 検査前、中、後の観察 (4) 検査後の安静	講 義
	4～5	1) 吸入・酸素吸入 (1) 吸入の原理・目的 (2) 吸入における生体への影響、必要な観察 (3) 吸入の種類と方法、注意事項 (酸素の危険性、安全管理の必要性) (4) 吸入、酸素吸入 (酸素ボンベの操作含む) の実 際	講 義
2. 治療・処置に伴う 看護 (22時間)	6	(5) デモンストレーション ① 使用器具 (ポータブル式吸入器・酸素流量計、酸素ボンベ、酸素濃度計、カニューラ、マスクなど必要物品)、中央配管システムの説明→患者への説明、吸入 (酸素吸入と薬液吸入) の実施、援助効果を求める技術、安全確保と危険予測と対処 (患者役：学生) ② 実施：4人一組で①②③を経験する。 ・ 酸素流量計の中央配管への取り付け ・ 酸素ボンベの取扱い ・ ポータブル式の吸入器を用いての薬液吸入の実施	演 習
	7	2) 吸引 (口腔、鼻腔、気管内) (1) 吸引の原理・目的 (2) 吸引における原則的な注意事項 (観察を含む)	講 義
	8	(3) 吸引の実際 ① 使用器具の取扱い、必要物品、中央配管システム・ポータブル式の説明→患者への説明、吸引の実施、安全確保と危険予測と対処 (モデル使用) ② 実施：4人一組で①②③を経験する。 ・ 中央配管への取り付け、圧の確認	演 習

		・ ポータブル式の吸引器の取扱い ・ モデルを使用しての吸引の実際	講 義
	9	3) 包帯	
		(1) 包帯法の概念	
		(2) 包帯法の原則	
		(3) 包帯法の実際	
		腹帯、胸帯、三角巾、包帯、ネット	
		それぞれの使用方法と患者の観察	
	10	4) 電法	講 義
		(1) 電法の目的・種類	
		(2) 電法の方法と原則	
		(3) 電法における注意事項	
	11	(4) 温電法・冷電法の実際	演 習
		～発熱患者の悪寒時の看護と発熱時の看護の実際	
		患者役・看護師・評価者に分かれ、観察、患者への説明、電法を実施する。	
	12	5) 創傷処置	講 義
		(1) 皮膚の解剖・生理	
		(2) 皮膚障害の種類	
		(3) 褥瘡発生のアセスメント	
	13	(4) 創傷治癒の基本過程と形式	
		(5) 創傷保護の方法	講 義
	14	(6) 創傷のある患者の看護	
		(観察、予防ケア計画、ケアの実施、代表的消毒薬の特徴)	講義・演習 VTR 実物提示
	15 評価	筆記試験	
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野 系統看護学講座 専門分野	基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学 [4] 臨床看護学総論	医学書院【電子版】 医学書院【電子版】
参考文献	随時紹介		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
診療援助技術Ⅱ	1 単位 (30 時間)	2 年次 前期	専任教員	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

今日の医療現場で薬物を取り扱う職種は、医師、薬剤師、看護師である。看護師は診療の補助という立場で医師の指示を受けて、直接その患者にとって安全かつ安楽な方法で、指示どおりに正しく与薬する重大な責務を負っている。

ここでは、生命に直結することが多い看護技術を中心に、必要な基本的知識・技術・態度を習得し、安全で効果的な技術が提供できるために必要な看護を学習する。

単元1：与薬（採血含む）

看護師は診療の補助という立場で医師の指示を受けて、直接その患者にとって安全かつ安楽な方法で、指示どおりに正しく与薬するという重大な責務を負っている。与薬は、生命に直結することが多いこともあり、対象に応じ安全で効果的な与薬を実施できるために、必要な基本的知識・技術・態度を習得することを目的とする。さらに、患者の与薬治療が開始される前の治療方針決定の段階で、採血を行うことも多く、患者の苦痛を最小限にして確実に技術を習得することも必要である。

<単元目標>

1. 与薬の基本を理解する。(看護者の役割、医療事故防止)
2. 薬物の作用や期待される効果について理解できる。
3. 与薬方法について理解する。(対象の状態把握、正確な与薬のための原則)
4. 与薬の目的、適応、注意事項、管理方法を理解した上で安全・安楽に与薬できる。
5. 様々な注射法の作用機序の相違を理解できる。
6. 正しい注射方法を習得できる。
7. 採血の目的、方法、注意事項を理解できる。
8. 患者の心身の苦痛を最小限にして、安全・安楽に採血ができる。

単元2：輸液・静脈内注射

輸液は、大量の薬液を静脈内に投与するために速やかな効果がある反面、循環動態に影響を及ぼしやすい治療法である。薬液を直接に体内へ注入するため、患者の生命に直結する。したがって、輸液は看護者にとってより重要な看護の一つである。看護者は、患者に施行される輸液の目的を理解し、適切な管理・患者のケアができることが必要である。

<単元目標>

1. 輸液・静脈内注射法について、看護に必要な基礎知識が理解できる。
2. 輸液・静脈内注射法について、目的・意義・適応が理解できる。
3. 輸液・静脈内注射法について、援助の基本と正しい技術を習得できる。

単元3：輸血

輸血は一般に健康な他者の血液を経静脈内に体内に注入する治療法であり、臓器移植の一つでもある。治療効果がある反面、生体に及ぼす影響は大きく、患者の不安は強い。看護者は正確な知識に基づき実施とともに、患者の不安や苦痛を軽減する援助が必要である。

<単元目標>

1. 輸血療法について、看護に必要な基礎知識が理解できる。
2. 輸血療法について、目的・意義・適応が理解できる。
3. 輸血療法について、援助の基本が習得できる。

<授業計画>

単元	回数	内容	授業形態
1. 与薬 (採血含む) (20時間)	1	1) 薬物療法の意義・目的と看護師の役割 2) 薬物療法の種類、影響因子、副作用 薬剤の管理方法 3) 与薬の原則と注意事項、医療事故防止対策 誤薬防止のための与薬	講義
	2	4) 与薬の実際(与薬の種類別方法) (経口与薬、吸入薬、口腔内与薬法、外用薬 直腸・膣・尿道内与薬、皮下・皮内・筋肉内注射法) (1) 各方法の目的、方法 (2) 観察項目と留意点 (3) 必要物品(実物提示)	講義
	3	5) 与薬の実際 (1) 内用薬(経口、口腔内与薬法)、外用薬(直腸 内与薬、点眼) (2) デモンストレーション (3) 各与薬方法の実施 ① 4人1組となり、看護師、患者、評価者に分 かれて実施 ② 座薬については、モデル使用	演習
	4	4) 注射法 (1) 基礎知識	講義
	5	(2) 注射器の取扱い、薬剤の準備の実際 ① デモンストレーション ② 誤薬防止、針刺し防止、感染予防方法を踏ま えての実施 *注射器を用いて、指示確認から注射の準備ま でを実施	演習
	6～7	(3) 皮下注射、筋肉内注射、皮内注射の実際 ① デモンストレーション ② 指示確認、薬剤の準備、患者説明、注射法の実 施、観察、後かたづけの一連の実施 ③ 筋肉内注射、皮下・皮内注射の実施 *注射モデルを使用	演習
	8	6) 採血 (1) 採血の意義・目的、血液検体の取り扱い方 (2) 観察点と注意点 (3) 援助の方法	講義
	9～ 10	(4) 採血の実際(真空管採血法) 使用器具の取扱いと駆血方法の提示の後、 採血の一連(患者への説明から後かたづけ まで)を実施	演習
	11	1) 静脈内注射 (1) 意義、目的、種類 (2) 観察点と注意点 (3) 援助の方法	講義
2. 輸液・静脈内注射 (6時間)			

			2) 輸液 (1) 意義、目的、種類 (2) 観察点と注意点 (3) 援助の方法 (4) 輸液管理 (5) 点滴静脈内注射法 (6) 中心静脈栄養法	
	1 2 ~ 1 3		3) 点滴・静脈内注射法の実際 (1) 静脈内注射法、点滴静脈内注射法 (2) 輸液管理（輸液施行中の観察、看護） (3) 輸液ポンプ、シリンジポンプの操作 (4) デモンストレーション ① （１）（２）は指示の確認から行い、患者への説明、実施、観察、援助、後片づけまでを実施 ＊２人一組になり、患者役（モデル装着）と看護師になり交互に実施 ② （３）は、実物提示、操作方法、使用中の患者への説明など。 ＊４～５人のグループで、取扱いについての確認を行う。	演習
3. 輸血（２時間）	1 4		1) 輸血療法 (1) 意義、目的、種類 (2) 副作用 (3) 患者の観察事項と注意点 (4) 援助の方法 (5) 輸血療法の実際 ＊実物提示、VTR（準備方法・施行中の患者の看護）	講義
	1 5 評価		筆記試験	
評価	筆記試験			
教科書	系統看護学講座 系統看護学講座	専門分野 専門分野	基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学 [4] 臨床看護学総論	医学書院【電子版】 医学書院【電子版】
参考文献	随時紹介			

地域・在宅看護論

地域・在宅看護論

1. 地域・在宅看護論の考え方・ねらい

人口構造・疾病構造の変化に伴い、地域保健医療福祉体制が整備されるとともに在宅看護への社会のニーズはますます高まっている。また、医療は高度化している一方で医療費の高騰から入院期間の短縮化が図られ、医療が施設から地域へと変化してきている。

地域・在宅看護論の対象は、療養者を含めた地域で生活する人々である。疾患や障害を抱えながらも住み慣れた場で過ごしていきたいと望む人々もいれば、疾病を予防して地域で暮らしていきたいと願っている人々もいる。そのため、健康の保持増進を支援する看護から疾病を抱えながら地域で療養し続けていくための看護について理解していくことが求められる。また、対象の抱える課題やニーズも様々であり、あらゆる場で生活していることを考慮していくことも必要である。

上記をふまえ、地域・在宅看護論では、地域で生活する人々やその暮らしを理解し、その生活者を支える看護が地域包括ケアシステムの中で役割を担っていくことができるよう知識・技術・態度を習得することをねらいとする。

2. 地域・在宅看護論の構成

＜教育内容＞ ＜教育内容＞	＜授業科目名＞ ＜授業科目名＞	＜单元名＞ ＜单元名＞
地域・在宅看護論 9単位 (255時間)	地域・在宅看護概論Ⅰ 1単位(30時間)	1. 暮らしと生活者 2. コミュニティと生きがい 3. 生活環境と健康、暮らしを支える看護 4. 地域に暮らす人々
	地域・在宅看護概論Ⅱ 1単位(15時間)	1. 地域・在宅看護の変遷 2. 地域・在宅看護の対象と取り巻く環境 3. 地域・在宅看護の理念と倫理
	地域・在宅看護援助論Ⅰ 1単位(15時間)	1. 地域・在宅における健康管理 2. 日常生活における安全管理 3. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割
	地域・在宅看護援助論Ⅱ 1単位(30時間)	1. 訪問看護の特徴 2. 在宅看護におけるアセスメントと生活援助
	地域・在宅看護援助論Ⅲ 1単位(30時間)	1. 生活の場における医療と看護 2. 療養者家族への支援 3. 地域・在宅における終末期ケア
	地域・在宅看護援助論Ⅳ 1単位(30時間)	1. 疾患・状況別の地域・在宅看護の実際 2. 地域・在宅における看護過程
	地域・在宅看護論実習Ⅰ 2単位(60時間)	
	地域・在宅看護論実習Ⅱ 1単位(45時間)	

3. 授業計画

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
地域・在宅看護概論Ⅰ	1 単位（30 時間）	1 年次 前期	専任教員	○
<授業科目の履修目的> 地域で生活する人々や暮らしについて理解し、暮らしが健康に与える影響について学ぶ。 そして、暮らしを支える人々や地域看護について学ぶ。 <単元目標> 1. 暮らしと生活者について理解できる。 2. コミュニティや生きがいについて理解できる。 3. 生活環境が健康に与える影響とその暮らしを支える看護について理解できる。 4. 地域に暮らす人々と生活環境全体を理解できる。 <授業計画>				
単 元	回数	内 容		授業形態
1. 暮らしと生活者 （6 時間）	1 ～ 3	1) 暮らすとは （1）時間の流れにおける暮らし （2）暮らしにおける場の広がり （3）ライフイベントの中における暮らし 2) 生活者とは		講義 グループワーク
2. コミュニティと生きがい （6 時間）	4 ～ 6	1) コミュニティとは （1）地域の中のコミュニティ （2）人や様々な場面でのつながり 2) 生きがいとは （1）生きがい （2）生きがいに影響を与える要因		講義 グループワーク
3. 生活環境と健康、暮らしを支える看護 （6 時間）	7 ～ 9	3) コミュニティと生きがいの関連 1) 生活環境とは （1）人々の生活の場 （2）地域社会とは 2) 生活環境と健康の関連 （1）環境が生活に与える影響 （2）環境が健康に与える影響		講義 グループワーク
4. 地域に暮らす人 （10 時間）	10 ～ 14 15 評価	3) 暮らしを支える看護 （1）暮らしを支える人々 （2）家族が行う看護 （3）地域における看護 地域に暮らす人々にインタビューを行い、暮らし、コミュニティ、生活環境についてまとめを行い、発表し共有を行う 筆記試験		フィールドワーク まとめ・発表
評 価	グループワーク参加状況、フィールドワークやインタビュー、発表内容などへの取り組み姿勢、講義内での課題、レポートにより総合的に評価する。詳細は講義初日に提示する。			
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院【電子版】			
参考文献	随時紹介			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
地域・在宅看護概論Ⅱ	1 単位（15 時間）	1 年次 後期	専任教員	○
<授業科目の履修目的> 社会環境の変遷と健康課題に対応した地域看護の歴史などを通して、在宅療養を支える法律や制度、保健医療福祉チームのあり方について学ぶ。 <単元目標> 1. 地域・在宅看護の歴史や諸制度の変遷を理解できる。 2. 地域・在宅看護の対象と取り巻く環境を理解できる。 3. 地域・在宅看護の理念と倫理的な看護活動について理解できる。 <授業計画>				
単 元	回数	内 容	授業形態	
1. 地域・在宅看護の変遷 （6 時間）	1 ～ 2	1) 地域・在宅看護を学ぶ意義と目的 2) 地域・在宅看護論が必要とされる社会背景と根拠 （1）人口構造、疾病構造の変化 （2）医療の進歩 （3）人々の価値観の変容 （4）在宅ケア、社会保障制度の見直し	講義	
	3	3) 地域・在宅看護の変遷と関連する法律と制度	講義	
2. 地域・在宅看護の対象と取り巻く環境 （2 時間）	4	1) 地域・在宅看護の対象と生活背景 （1）対象者の特徴 （2）療養者の生活環境	講義	
	5	2) 地域・在宅看護の場と特徴 （1）地域・在宅看護における活動の場 （2）在宅看護師の役割と特徴 （3）家族介護		
3. 地域・在宅看護の理念と倫理 （6 時間）	6	1) 地域・在宅看護の基本的理念 2) 地域・在宅看護の倫理 （1）地域・在宅看護に求められる看護職者の倫理	講義	
	7	（2）事例を用いて地域・在宅看護の倫理について考える	グループワーク まとめ	
	評価	筆記試験		
評 価	筆記試験			
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院【電子版】 厚生統計協会：国民衛生の動向 寺島恵監修：看護職の基本的責務			
参考文献	ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 在宅療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 秋山正子：在宅ケアのつながる力 医学書院 秋山正子：在宅ケアの不思議な力 医学書院 秋山正子：家で死ぬこと考えたことありますか 医学書院 上野千鶴子：上野千鶴子が聞く 小笠原先生、1人で家で死ねますか？ 朝日文庫			

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
地域・在宅看護援助論Ⅰ	1 単位 (15 時間)	2 年次 前期	専任教員・非常勤講師	○
<授業科目の履修目的> 地域で生活する人々の健康の保持増進、疾病の予防を支援する看護について学ぶ。 <単元目標> 1. 地域で生活する人々の健康の保持増進、疾病の予防に関わる看護を理解できる。 2. 日常生活の安全管理に関わる看護を理解できる。 3. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割を理解できる。				

<授業計画>

単 元		回数	内 容		授業形態
1. 地域・在宅における健康管理 (6 時間)		1	1) 地域・在宅における健康管理の特徴 (1) 公衆衛生看護について (2) 地域看護について		講義
		2	2) 生活習慣病予防に向けた援助 (1) 健康診断について (2) 保健指導 (3) 予防行動		
		3	3) 介護予防に向けた援助		
2. 日常生活における安全管理 (2 時間)		4	1) 生活の場で起こる事故について 2) 安全管理と予防策 3) 住環境の改善		講義
3. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割 (6 時間)		5～7	1) 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割 (1) 地域包括ケアシステムとは (2) 地域包括支援センターの役割と機能 (3) 地域の支援機関との連携協働 (4) 地域包括ケアシステムにおける看護の役割 2) 多職種・多機関連携における看護の役割 (1) 地域ケア会議の機能と看護の役割 (2) サービス担当者会議 (3) 退院支援と退院調整		講義 講義
		評価	筆記試験		
評価	筆記試験				
教科書	系統看護学講座 専門分野	地域・在宅看護論 [1]	地域・在宅看護の基盤	医学書院【電子版】	
	系統看護学講座 専門分野	地域・在宅看護論 [2]	地域・在宅看護の実践	医学書院【電子版】	
参考文献	ナーシンググラフィカ	在宅看護論①	在宅療養を支えるケア	メディカ出版	
	ナーシンググラフィカ	在宅看護論②	在宅療養を支える技術	メディカ出版	

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
地域・在宅看護援助論Ⅱ	1 単位 (30 時間)	2 年次 前期	専任教員・非常勤講師	○
<授業科目の履修目的> 地域で療養する人々の生活を支える看護について学ぶ。 <単元目標> 1. 訪問看護の仕組みと役割を理解できる。 2. 多様な生活環境に応じた日常生活援助の知識・技術・態度を理解できる。				

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 訪問看護の特徴 (12時間)	1	1) 訪問看護とは 2) 訪問看護の制度と現状	講義
	2～3	(1) 訪問看護の制度の法的枠組み (2) 訪問看護サービスの仕組みと現状 3) 訪問看護における心構え	講義 演習
	4～5	(1) 訪問する際のマナー (2) 電話対応、多機関との連絡調整 (3) 療養者との関係構築 4) 訪問看護の実際	講義
	6	(1) 訪問看護における看護過程の特徴 (2) 初回訪問と2回目以降の訪問 (3) 訪問看護の記録 (4) 訪問看護師による訪問看護の実際	講義
	7	1. 在宅におけるヘルスアセスメント (1) フィジカルアセスメントの基本 (2) 生活状況のアセスメント	講義
	8	2. 生活ケアの援助技術 1) 「活動」の制限のアセスメントと「生活行為」への支援	講義
	9～	(1) 「生活動作」と「生活行為」 (2) 必要な介助を見極めるための動作分析 2) アセスメントと援助	講義
	10～	(1) 食事・栄養 (2) 排泄のアセスメントと援助 (3) 清潔のアセスメントと援助 (4) 移動の援助 (5) 療養環境のアセスメントと援助	講義
	11～	上記2)の内容をもとに事例に沿って生活援助のアセスメントの視点と援助時の留意点や工夫点を話し合い演習を行う。	グループ ワーク 演習
	12～	筆記試験	
2. 在宅看護における アセスメントと生活 援助 (16時間)	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		

評 価	筆記試験				
教科書	系統看護学講座	専門分野	地域・在宅看護論 [1]	地域・在宅看護の基盤	医学書院
	【電子版】				
	系統看護学講座	専門分野	地域・在宅看護論 [2]	地域・在宅看護の実践	医学書院
	【電子版】				
参考文献	ナーシンググラフィカ	在宅療養を支えるケア	在宅看護論①	メディカ出版	
	ナーシンググラフィカ	在宅療養を支える技術	在宅看護論②	メディカ出版	

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
地域・在宅看護援助論Ⅲ	1 単位 (30 時間)	2 年次前・後期	専任教員	○
<授業科目の履修目的> 療養者の状況に応じたアセスメントの視点、セルフマネジメント力向上の支援、医療処置を行っている療養者や家族に対しての必要な看護技術を学ぶ。 <単元目標> 1. 生活の場で行われる医療と看護が理解できる。 2. 地域で療養する療養者家族を支援するための基本的技術を学ぶ。 3. 在宅で最期を迎える人と家族への看護について理解できる。				

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 生活の場における医療と看護 (18時間)	1～2	1) 生活の場における医療ケアの原理原則 (1) 意義と目的 (2) 観察とアセスメント (3) セルフマネジメント力の向上と家族支援 (4) 多職種連携と社会資源の活用	講義
	3～6	2) 医療ケアと看護技術 (1) 薬物管理 (2) 化学療法・放射線療法時の管理 (3) 在宅経管栄養法 (4) 輸液管理 (5) 膀胱留置カテーテル、自己導尿 (6) ストーマ管理 (7) 褥瘡管理 (8) 排痰ケア、気管カニューレの管理 (9) 在宅酸素療法 (10) 在宅人工呼吸療法、非侵襲的陽圧換気療法	講義 個人ワーク
	7～9	上記1)～10)の内容をもとに事例に沿って治療処置に伴う看護技術の留意点と工夫点を話し合った後、演習を行う	グループワーク 演習
2. 療養者家族への支援 (4時間)	10～11	1) 療養者の家族への看護 (1) 在宅看護における家族支援 (2) 家族の介護力のアセスメントと調整 (3) 介護負担に影響する要因 (4) 家族介護者の健康と休息の必要性 (5) 介護力に応じた家族支援	講義
3. 地域・在宅における終末期ケア (6時間)	12～14	1) 在宅における終末期ケア (1) 終末期ケアの基本 (2) 症状マネジメント (3) 環境調整 (4) 苦痛の管理 (5) チーム医療と連携	講義

		(6) 意思決定支援 (7) 家族支援 (8) 遺族ケア・グリーフケア	
	1 5 評価	筆記試験	
評 価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 医学書 院【電子版】 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践 医学書 院【電子版】		
参考文献	ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 在宅療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
地域・在宅看護援助論Ⅳ	1 単位 (30 時間)	2 年次 後期	専任教員	○
<授業科目の履修目的> 地域・在宅療養者に多く見られる疾患を中心とした看護の特徴や他職種との連携、社会資源の活用について学ぶ。また、地域・在宅看護における看護過程の展開を行う。 <単元目標> 1. 事例の特徴を踏まえた地域・在宅看護の実際について理解できる 2. 地域・在宅看護における看護過程が展開できる。				

<授業計画>

単 元		回数	内 容	授業形態
1. 疾患・状況別の地域・在宅看護の実際 (18時間)		1～9	1) 疾患・状況別の地域・在宅看護の実際 (1) 地域で療養する脳血管障害のある人への看護 (2) 地域で療養する認知症のある人への看護 (3) 地域で療養する難病のある人への看護 (4) 地域で療養する重症心身障害児への看護 (5) 地域で療養する終末期の状態にある人への看護	講義 個人ワーク グループ ワーク
2. 地域・在宅における看護過程 (10時間)		10～14 15 評価	事例を用いての看護過程の展開 *終末期の事例を用いる 筆記試験	個人ワーク グループ ワーク
評 価	筆記試験 (60%) 提出物 (40%)			
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 【電子版】 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践 医学書院 【電子版】			
参考文献	ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 在宅療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 関連図で理解する在宅看護過程 メジカルフレンド社 在宅看護過程 医学書院			

成人看護学

成人看護学

1. 成人看護学の考え方・ねらい

成人看護学では、基礎看護学を基盤にし、成人期にある対象に焦点を当て、その対象を総合的・全人的に捉えた看護を実践することに意義がある。

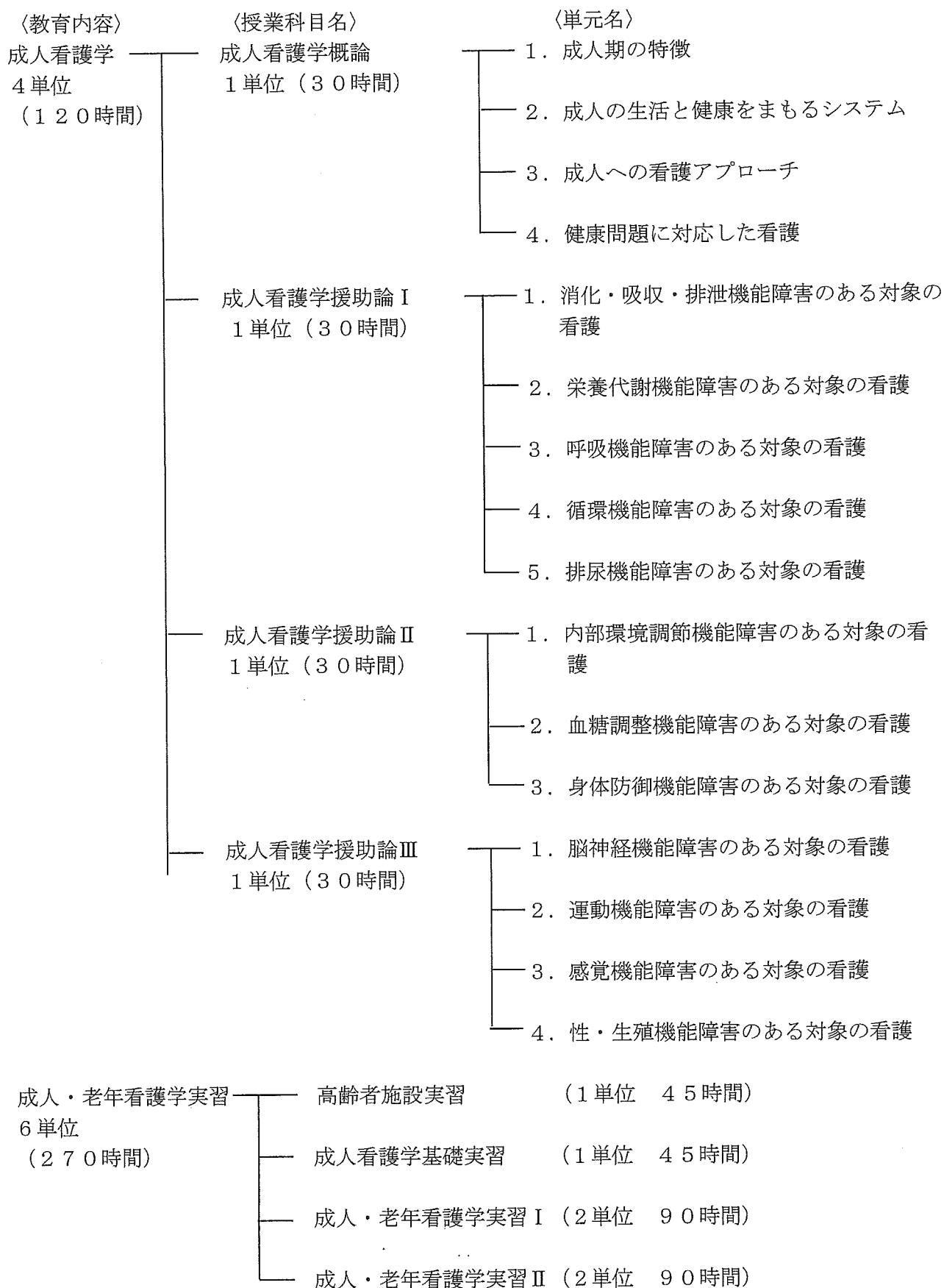
成人期とは、青年期・壮年期・向老期からなり人生の大半を占めている。また、その対象は家庭、学校・職場、地域社会という社会環境のなかで生活しているため、社会的役割や責任は重く、ストレスフルな状況にあるが充実した時期であるといえる。

成人期にある人々は、身体的には加齢と共に成長・発達、成熟、衰退という変化の過程をたどるが、精神的・心理的・社会的には統合された存在であり、内部・外部環境の変化に適応しながら発達課題を達成している。そのなかで、多様な健康状況・生活スタイル・価値観を有し、それぞれのQOLを追求している。また、理性と豊かな感受性を持ち自立・自律した存在であり、セルフケア、セルフマネジメントできる、自己の最適な健康を維持することに責任を持ち、主体的に取り組める存在である。

成人期にある対象の健康には、生活習慣やストレスが影響し、急性期や慢性期などの健康レベルや、疾病による機能障害を抱えながら生活している人も多い。したがって、看護者はあらゆる健康レベルに対して健康を整え、生活の営みを可能な限り豊かにし、健やかな老年期を迎えられるよう支援することが求められる。

ここでは、成人期にある対象の看護に必要な基本的な看護実践能力を身につける。

2. 成人看護学の構成



3. 授業計画

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
成人看護学概論	1 単位 (30 時間)	1 年次前期	専任教員	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 成人期はライフサイクルにおいて長い期間を有する。成人期にある人々は、心身機能が成熟し、徐々にあらわれる老化現象に適応しながらも、生産活動に従事し、子どもと老いた両親を扶養する社会的役割を担う発達段階にあり、自立・自律した存在である。 成人期の生活スタイルは多様化し、様々な価値観を抱きそれぞれの QOL を追求している。また、社会生活でのストレスや、生活習慣が健康に様々な影響を及ぼしている。看護の役割も社会からのニーズや時代と共に変化している。看護を実践するためには、対象とその健康問題の理解だけでなく、関連する看護概念や関連概念についての理解も必要となる。 また、わが国では、生活の場での療養を基本としながら、その人の症状や必要とする医療によって個別の医療機能を持つ医療施設間を移行しながら療養する医療制度をとっている。看護師は多様な人々と協働し、療養者が自分の望む生活が実現できるよう支える必要がある。 ここでは、現代の成人に生じやすい健康上の問題の予防と回復に向けて、要求される看護援助の基礎を学ぶ。 <単元目標> 1. 成人各期の発達段階と発達課題を理解する。 2. 成人の保健動向や生活と健康をまもるシステムを理解する。 3. 成人への看護アプローチを理解する。 4. さまざまな健康状態にある対象の特徴を理解し、有用な理論と看護を理解する。				

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 成人期の特徴 (4 時間)	1 ～ 2	1) 成人とは、大人とは 2) 看護の対象としての成人 (1) 対象の特徴 (2) 発達段階 (3) 青年期 (4) 壮年期・中年期 (5) 向老期	講 義
2. 成人の生活と健康 をまもるシステム (8 時間)	3 ～ 6	1) 成人を取り巻く生活と環境 (1) 生活を営むこと (2) 仕事を持ち働くこと (3) 家族 (4) 人生をたどること 2) 健康の状況と対策 (1) 人口動態 受療状況 (2) 職業性疾病・業務上疾病	講 義

		(3) 生活習慣病 (4) 感染症と難病 3) 保健・医療・福祉システムの連携 (1) 保健・医療・福祉システムの提供 (2) 保健・医療・福祉システムの連携の重要性	
3. 成人への看護アプローチ (6時間)	7～9	1) 大人の学習の特徴 2) 行動変容を促進する看護アプローチ 3) 意思決定支援 4) 家族支援 5) エンパワメント	講 義
4. 健康問題に対応した看護 (10時間)	10～12	1) 健康の急激な破綻にある対象の特徴と有用な理論 (1) 生命の危機状態の場面 (2) 急性期にある対象の特徴 (3) 危機状態にある対象に有用な理論・危機理論 2) 慢性期にある対象に有用な理論 (1) 慢性病を持つ対象の理解・病みの軌跡 (2) 慢性病を持つ対象の支援 ①セルフケアとセルフマネジメント ・セルフケア理論 ・自己効力 3) 障害がある対象の特徴と看護（主に回復期から維持期） (1) 障害がある対象の認識過程 ・障害の認識過程 ・価値観の転換 (2) 障害がある対象と生活を支援する看護 ①回復期 ②維持期	講 義 G W
	13～14	4) がん看護 (1) がん患者の特徴 ①身体的苦痛 ②心理的苦痛 ③社会的苦痛 (2) 苦痛がある対象と家族への看護	講 義
	15 評価	筆記試験	
評価	筆記試験		

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1]成人看護学総論 医学書院【電子版】 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院【電子版】 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院【電子版】
参考文献	ドロセア E. オレム著 小野寺杜紀 訳：オレム看護論 看護実践における基本概念 医学書院 2005 第4版 ドナ C. アギュラ著 小松源助・荒川義子訳：危機介入の理論と実際 医療・看護・福祉のために 川島書店 2004 第4版

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
成人看護学援助論 I	1 単位 (30 時間)	1 年次前・後期	専任教員	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

看護の対象は疾病により様々な機能障害を抱え、それぞれの機能に特有な健康の危機あるいは、生活上の障害を合わせ持っている人とその家族である。看護者は、機能障害をもちながら生涯にわたり自己コントロールを続け、健康生活の実現と生活の質を守るために支援する必要がある。

ここでは、消化・吸収・排泄機能障害、栄養代謝機能障害、呼吸機能障害、循環機能障害、排尿機能障害のある対象の看護の基礎を学ぶ。

単元1. 消化・吸収・排泄機能障害のある対象の看護

人の身体機能のなかで消化器系は、生命を維持するために必要な栄養や水分を口から摂取したあと、消化・吸収して体内に取り込み、身体に必要な成分に代謝する。また、摂取した食物の残渣物は肛門から糞便となり、老廃物を排泄するという重要な役割を担っている。消化・吸収・排泄機能障害は成人期にある対象の生活習慣や身体機能の変化が起因となり、日常生活や社会生活に大きな影響を及ぼすと考えられる。そのため、看護者は成人期にある対象の生命・生活を支える機能の状態を把握し、障害に応じて適切に看護を行う必要がある。

ここでは、消化・吸収・排泄機能障害のある対象の看護の基本を学ぶ。

<単元目標>

1. 消化・吸収・排泄機能障害が対象の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 消化・吸収・排泄機能が障害された対象のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。

単元2. 栄養代謝機能障害のある対象の看護

栄養代謝とは、消化機能により吸収された栄養素や体内に貯蔵された栄養素を、エネルギーや生命の維持に必要な物質につくり変え、不要な物質を排泄することをいう。栄養代謝機能は①利用物質と排泄物質②エネルギー源貯蔵機能③エネルギー供給機能からなる。身体の栄養保持のため、これらの機能は密接に関係している。栄養・代謝機能障害は成人期にある対象のライフスタイルや日常生活行動が起因となり、日常生活や社会生活に大きな影響を及ぼす。そのため、看護者は成人期にある対象の生命・生活を支える機能の状態を把握し、障害に応じて適切に看護を行う必要がある。

ここでは、栄養代謝機能障害のある対象の看護の基本を学ぶ。

<単元目標>

1. 栄養代謝機能障害が対象の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 栄養代謝が障害された対象のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。

単元3. 呼吸機能障害のある対象の看護

呼吸機能とは、酸素を体内に取り入れ、二酸化炭素を体外に排出する働きをいう。身体に酸素が供給されなければ、すべての身体機能が十分に発揮できなくなり生命は危機に陥る。呼吸機能は生命維持の基盤となる機能であり、患者は健康の危機に陥る場合が多い。そのため、看護者は、急性期の患者の生命を救うため緊張度の高いケアが求められる。また、呼吸機能障害は、成人期にある対象の生活習慣、職業、身体機能の変化が起因となり、日常生活や社会生活に大きな影響

を及ぼす。そのため、看護者は成人期にある人の生命・生活を支える機能の状態を把握し、障害に応じて適切に看護を行う必要がある。

ここでは、呼吸機能障害のある対象の看護の基本を学ぶ。

<単元目標>

1. 呼吸機能障害が患者の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 呼吸機能が障害された患者のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。

単元4. 循環機能障害のある対象の看護

循環機能とは、生命維持に必要なエネルギーの生成にかかわる酸素を含む血液を運ぶ機能である。ポンプ機能と輸送環流機能の2つからなる。循環機能は脳の刺激が途絶えても働き続ける機能という特徴がある。循環機能障害は患者の生命の危機状態を引き起こす可能性がある。そのため、看護者は、急性期においては患者の生命を救うため緊張度の高いケアが求められる。そして、成人期にある対象の生活習慣や身体機能の変化が起因となり、日常生活や社会生活に大きな影響を及ぼす。そのため、看護者は成人期にある人の生命・生活を支える機能の状態を把握し、障害に応じて適切に看護を行う必要がある。

ここでは、循環機能障害のある対象の看護の基本を学ぶ。

<単元目標>

1. 循環機能障害が患者の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 循環機能が障害された患者のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。

単元5. 排尿機能障害のある人の看護

人が恒常性を維持していくうえで尿を生成し排出していくことは基本的な生命活動である。排尿機能が障害されることは生理的な排出経路の変更を余儀なくされることもあり、これまでに形成されたボディイメージが崩れ、自己概念を揺るがすなど心身に大きな影響を与えるものである。

ここでは、排尿機能障害により、生活の再構築を必要とする人の看護を学ぶ。

<単元目標>

1. 排尿機能障害が対象の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 排尿機能が障害された対象のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 消化・吸収・排泄機能障害のある対象の看護 (6時間)	1～3	1) 排便機能障害の症状とアセスメント、看護 (1) 嘔気・嘔吐 (2) 下痢 (3) 便秘 2) 消化・吸収・排泄機能障害の検査・治療 (1) 検査：内視鏡検査、X線造影検査 (2) 治療 3) 胃・十二指腸潰瘍のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 看護 ・症状の緩和	講 義

		・薬物療法への援助 ・食事指導 4) 胃がんのある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 手術後の看護 ・食事指導 5) 腸閉塞のある対象の看護 (保存的治療) (1) 症状とアセスメント (2) 看護 ・イレウス管挿入に伴う看護 ・イレウス管抜去し、退院に向けての看護 6) 大腸がんのある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) ストマ造設術を受けた対象の看護	
2. 栄養代謝機能障害のある対象の看護 (6時間)	4～6	1) 肝炎・肝硬変・肝がんのある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 症状、検査、治療に伴う看護 ・安静療法 ・肝生検 ・肝エタノール注入療法 ・肝動脈塞栓療法 ・インターフェロン療法 2) 胆石・胆嚢炎のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 検査、治療に伴う看護 ・ERCP、PTCD、ENBD 3) 膵炎 (急性・慢性) のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 看護 ・疼痛の緩和 ・安静療法 ・生活習慣改善への指導	講 義
3. 呼吸機能障害のある対象の看護 (6時間)	7～9	1) 肺炎のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 急性期から回復期の看護 2) 結核のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 急性期から慢性期の看護 ・気道の清浄化 ・化学療法 ・ストレスコーピング 3) 肺がんのある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 治療に伴う看護	講 義

4. 循環機能障害のある 対象の看護 (8時間)	10～ 13	・化学療法 ・放射線療法 ・安楽な呼吸 4) 自然気胸のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 症状、治療に伴う看護 ・胸腔ドレナージ	講 義 演 習
		1) 虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 検査、治療を受ける対象の看護 ・心電図モニター（ベッドサイドモニター） ・ECG 12誘導 ・心臓カテーテル検査 ・PCI (3) 心筋梗塞患者の発症から退院までの看護 (4) 患者・家族の心理面の看護 2) 不整脈のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 治療と看護 ・薬物療法 ・ペースメーカー 3) 心不全（急性・慢性）をもつ対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 看護 ・自己管理に向けた指導	講 義
5. 排尿機能障害のある 対象の看護 (2時間)	14	1) 排尿機能障害の症状とアセスメント、看護 (1) 尿性状の異常 (2) 排尿の異常 2) 排尿機能障害の検査・治療に伴う看護 (1) 検査 ①尿の検査 ②X線検査 ③膀胱鏡 (2) 治療 ・排尿管理（間欠的自己導尿法） 3) 前立腺肥大症のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 治療と看護 ・前立腺切除術 4) 膀胱がんのある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 治療と看護 ・尿路変向術（回腸導管造設術）	講 義

		1 5 評価	筆記試験	
評 価	筆記試験			
教科書	[单元 1] 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器 医学書院【電子版】 [单元 2] 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器 医学書院【電子版】 [单元 3] 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器 医学書院【電子版】 [单元 4] 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3]循環器 医学書院【電子版】 [单元 5] 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院【電子版】			
参考文献	随時紹介			

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
成人看護学援助論Ⅱ	1 単位 (30 時間)	2 年次前期	専任教員	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

看護の対象は疾病により様々な機能障害を抱え、それぞれの機能に特有な健康の危機あるいは生活上の障害を合わせ持っている人とその家族である。看護者は、機能障害を持ちながら生涯にわたり自己コントロールを続け、健康生活の実現と生活の質を守るために支援する必要がある。

ここでは、内部環境調節機能障害、血糖調節機能障害、身体防御機能障害のある対象の看護の基礎を学ぶ。

単元 1. 内部環境調節機能障害のある対象の看護

人は生命や日常活動を維持していくために、酸素や栄養素を外部から取り入れている。酸素や栄養素は細胞の一つ一つの代謝というプロセスには欠かせない物質である。それらの物質を体内に取り入れ、気温や食物などの外部環境や精神的な刺激によって身体に影響を受けたとしても、生命維持のための体内の活動が、常に同じように行われなければならない。そして生み出されたエネルギーが、身体のあらゆる細胞にくまなく行き渡るようにする機能が内部環境調節機能である。この内部環境調節機能が障害されると、日常生活を営むことが困難となることはもちろん、生命が危機的状態に陥ることになる。そのため、看護者は成人期にある人の生命・生活を支える機能の状態を把握し、障害に応じて適切に看護を行う必要がある。

ここでは、内部環境調節機能障害のある対象の看護の基本を学ぶ。

<単元目標>

1. 内部環境調節機能障害が対象の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 内部環境調節機能が障害された対象のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。

単元 2. 血糖調節機能障害のある対象の看護

血糖調節機能とは、生命活動維持に必要なエネルギーの貯蔵や供給を行うために血糖を一定範囲に保っている。血糖調節にかかわるのは、血糖調節にかかわるホルモンとホルモンが作用する効果器である。そのため、外部からの飲食物の取り入れの過剰や不足、体内でのエネルギーの有効活用ができない場合には身体にとって至適な血糖値を保つことができなくなる。血糖調節機能障害は、成人期にある対象のライフスタイルや日常生活行動が起因となり、日常生活や社会生活に大きな影響を及ぼす。そのため、看護者は成人期にある人の生命・生活を支える機能の状態を把握し、障害に応じて適切に看護を行う必要がある。

ここでは、血糖調節機能障害のある対象の看護の基本を学ぶ。

<単元目標>

1. 血糖調節機能障害が対象の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 血糖調節機能が障害された対象のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。
3. 血糖調節機能が障害された対象の個別性に応じた教育・指導を考えることができる。

単元 3. 身体防御機能障害のある対象の看護

人を取り巻く環境には様々なものがある。その環境のなかには人に障害を与えるものが数多くあるが、人にはその障害を生体に侵入させないようにし、万が一入ってもそれを排除し自己を守

る機能が備わっている。また、生体内で発生した異物や老廃物に対しても、それを排除する機能を持っている。これが身体防御機能である。この身体防御機能の障害が生じることで、日常生活や社会生活に大きな影響を及ぼす。そのため、看護者は成人期にある人の生命・生活を支える機能の状態を把握し、障害に応じて適切に看護を行う必要がある。

ここでは、アレルギー、全身性エリテマトーデス、白血病の疾患をもとに身体防御機能障害のある対象の看護の基本を学ぶ。

<単元目標>

1. 身体防御機能障害が対象の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 身体防御機能が障害された対象のアセスメントをし、必要な看護を考えることができる。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 内部環境調節機能障害のある対象の看護 (8時間)	1～2	1) 甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症)のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 治療と看護 ・患者、家族への教育的アプローチ ・薬物療法 ・心理面への援助	講 義
	3～4	2) 慢性腎不全のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント ・代謝性アシドーシス・アルカローシス (2) 慢性腎不全にて透析療法を受ける対象の看護	
2. 血糖調節機能障害のある対象の看護 (14時間)	5～7	1) II型糖尿病のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 看護 ・検査 ①血糖値(日内変動・HbA _{1c} ・ターゲット) ②75gブドウ糖検査 ③自己血糖測定 ・治療 ①合併症予防と生活指導 (食事療法・運動療法 薬物療法)	講 義
	8～11	2) 事例による看護過程の展開 (1) II型糖尿病で慢性期にある人や家族の看護 ①事例: II型糖尿病のある成人期の対象	
3. 身体防御機能障害のある対象の看護 (6時間)	12	1) アレルギーをもつ対象の看護 (1) 症状とアセスメント ・アレルギーの分類 (2) 症状、治療に伴う看護 ・薬物療法 ・日常生活の指導	講 義

	1 3	2) 全身性エリテマトーデスのある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 治療と看護 ・薬物療法 ・ボディイメージの変容 ・退院後の生活指導	
	1 4	3) 白血病（急性・慢性）のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 治療と看護 ・寛解導入療法（化学療法） ・造血幹細胞移植 ・身体的、精神的苦痛の緩和	
	1 5 評価	筆記試験	
評 価	筆記試験（85%） 提出物（15%）		
教科書	[单元1] 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院【電子版】 [单元2] 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝 医学書院【電子版】 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病学会・文光堂 2013 第7版 [单元3] 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11]アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 電子版】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4]血液・造血器 医学書院【電子版】		
参考文献			

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
成人看護学援助論Ⅲ	1 単位 (30 時間)	2 年次前・後期	専任教員・非常勤講師	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

看護の対象は疾病により様々な機能障害を抱え、それぞれの機能に特有な健康の危機あるいは生活上の障害を合わせ持っている人とその家族である。看護者は、機能障害を持ちながら生涯にわたり自己コントロールを続け、健康生活の実現と生活の質を守るために支援する必要がある。

ここでは、脳神経機能障害、運動機能障害、感覚機能障害、性・生殖機能障害のある対象の看護の基本を学ぶ。

単元1. 脳神経機能障害のある対象の看護

脳神経機能障害は発症年齢も幅が広く、発症後の経過も様々であり、症状も軽症から重症までその程度に相まって、その人のQOLを低下させる。脳・神経の疾患は複雑な病態を伴い、あるいは原因・治療が解明されていない疾患も多く、様々な機能の障害が起こるため、成人期にある対象のライフスタイルに大きな影響を及ぼす。また、生活の自立困難や障害を抱えることにもなり、心理・社会的問題も多く生じる。このような脳・神経疾患対象に対しては生命の維持に向けた援助はもちろん、QOLの維持・拡大のための支援に至るまで、幅広い看護を学ぶ必要がある。

ここでは、脳神経障害のある対象の看護の基本を学ぶ。

<単元目標>

1. 障害を受容過程や障害の程度、状況に応じた看護について理解することができる。
2. 脳神経機能障害の状態に応じた看護について理解することができる。
3. 脳神経機能障害の回復へのリハビリテーション看護を考えることができる。

単元2. 運動機能障害のある対象の看護

運動機能に障害を生じると、治癒の経過が長く、変形・機能障害あるいは疼痛等のために、日常生活動作に支障をきたし、精神的・社会的にも影響を及ぼし、不適応状態となりやすい。そのため運動機能の障害に起因する日常生活の援助と疼痛の緩和・合併症の予防・健康部位の機能低下防止、そして日常生活を再獲得し、社会復帰のために自立に迎えるように援助する必要がある。

ここでは、運動機能障害のある対象の看護の基本を学ぶ。

<単元目標>

1. 運動機能障害が対象の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 運動機能が障害された対象のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。

単元3. 感覚機能障害ある対象の看護

感覚器官とは、外からの刺激を受容し、中枢神経系に伝達する器官をいう。つまり人間が外界からの情報を受け止めている器官であり、視覚器（目）、平衡聴覚器（耳）、嗅覚器（鼻）、味覚器（舌）、触覚・圧覚・温覚・痛覚（皮膚）などが含まれる。これらは日常生活には欠かすことのできない生体の機能であり、生理的要因のみでなく、心理的要因にも影響を受ける機能である。そのため、看護者は成人期にある人の生命・生活を支える機能の状態を把握し、障害に応じて適切に看護を行う必要がある。

ここでは、感覚機能障害の視覚機能障害・聴覚機能障害・皮膚障害のある対象の看護の基本を学ぶ。

<単元目標>

1. 視覚・聴覚・皮膚障害が対象の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 視覚・聴覚・皮膚機能が障害された対象のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。

単元4. 性・生殖機能障害（女性生殖機能障害）のある対象の看護

性・生殖機能は生命の維持に關与する重要な役割を果たす。また、性器とは異性間のコミュニケーションをはじめとして、社会における人間の関係性の成立を支える役割を果たす。そのため、性・生殖機能障害は人々の生活に大きな影響を及ぼす。

ここでは、性・生殖機能障害（女性生殖機能障害）のある対象の看護の基本を学ぶ。

<単元目標>

1. 性・生殖機能障害が対象の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 女性生殖機能が障害された対象のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。

<授業計画>

単元	回数	内 容	授業形態
1. 脳神経機能障害のある対象の看護 (8時間)	1～3	1) 脳梗塞、クモ膜下出血のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント ①言語障害のある人の看護 ②嚥下障害のある人の看護 ③けいれんを起こす人の看護 (2) 入院から治療までの看護 ①急性期のアセスメントと看護 ・全身状態の管理（意識状態、神経症状） ・対象、家族の受容に向けた支援 ②脳血管攣縮期のアセスメントと看護 ・血圧、水分出納管理 ・対象、家族の受容に向けた支援 ③回復期以降のアセスメントと看護 ・正常圧水頭症の看護 ・日常生活動作の再獲得への援助 ・退院後の生活に向けた支援	講 義
	4	2) 筋萎縮性側索硬化症のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 看護 ・日常生活への援助 ・安楽と呼吸に対する援助 ・コミュニケーションの工夫 ・精神的援助	講 義
2. 運動機能障害のある対象の看護 (10時間)	5～8	1) 上肢・下肢骨折のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 治療に伴う看護 ・ギプス固定に伴う看護	講 義

3. 感覚機能障害のある対象の看護 (6時間)	9	2) 関節リウマチのある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 急性期・慢性期・回復期の看護 ・薬物治療 ・変形性膝関節症に伴う人工膝関節置換術術後の看護 ・退院後の生活を見据えた日常生活への指導 3) 腰椎椎間板ヘルニアのある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 看護 ・保存療法、手術療法時の看護 ・退院後の支援 4) 脊髄損傷のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 急性期から回復期から維持期に向けた看護 ・全身管理 ・日常生活動作の習得に向けた援助 (3) 急性期・回復期・退院に向けた看護の実際 ・対象の健康段階に合わせた日常生活動作、精神的支援についてグループワークを行い、発表する。	G W 講 義
		1) 緑内障のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 慢性期、手術前・後の看護 ・安全の確保 ・精神的援助 2) 網膜剥離のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 手術前・後の看護 ・体位制限に関連した身体的苦痛 ・精神的援助 ・退院後の生活指導 3) 突発性難聴のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 症状に対する看護 ・症状出現時の苦痛の緩和 ・心理的支援 4) メニエール病のある対象の看護 (1) 症状とアセスメント (2) 看護 ・発作時の苦痛緩和 ・事故防止 ・心理的支援 ・家族への指導、支援	
	10		
	11		

4. 性・生殖機能障害 （女性生殖機能障害）のある対象 の看護 （4時間）	1 2	5) 熱傷のある対象の看護 （1）症状とアセスメント （2）看護 ・全身管理 ・清潔、感染予防 ・症状に対する看護	講 義
	1 3～ 1 4	1) 女性生殖機能障害のある対象の理解 2) 子宮がんのある対象の看護 （1）症状とアセスメント （2）子宮広汎全摘術を受ける対象の看護 ・手術前から退院に応じた看護 3) 乳がんのある対象の看護 （1）症状とアセスメント （2）乳房切除術を受ける対象の看護 ・手術前から退院に応じた看護	
	1 5 評価	筆記試験	
評 価	筆記試験		
教科書	〔単元1〕 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳・神経 医学書院【電子版】 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院【電子版】 〔単元2〕 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10]運動器 医学書院【電子版】 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院【電子版】 〔単元3〕 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13]眼 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[14]耳鼻咽喉 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[15]皮膚 医学書院【電子版】 〔単元4〕 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9]女性生殖器 医学書院【電子版】		
参考文献			

老 年 看 護 学

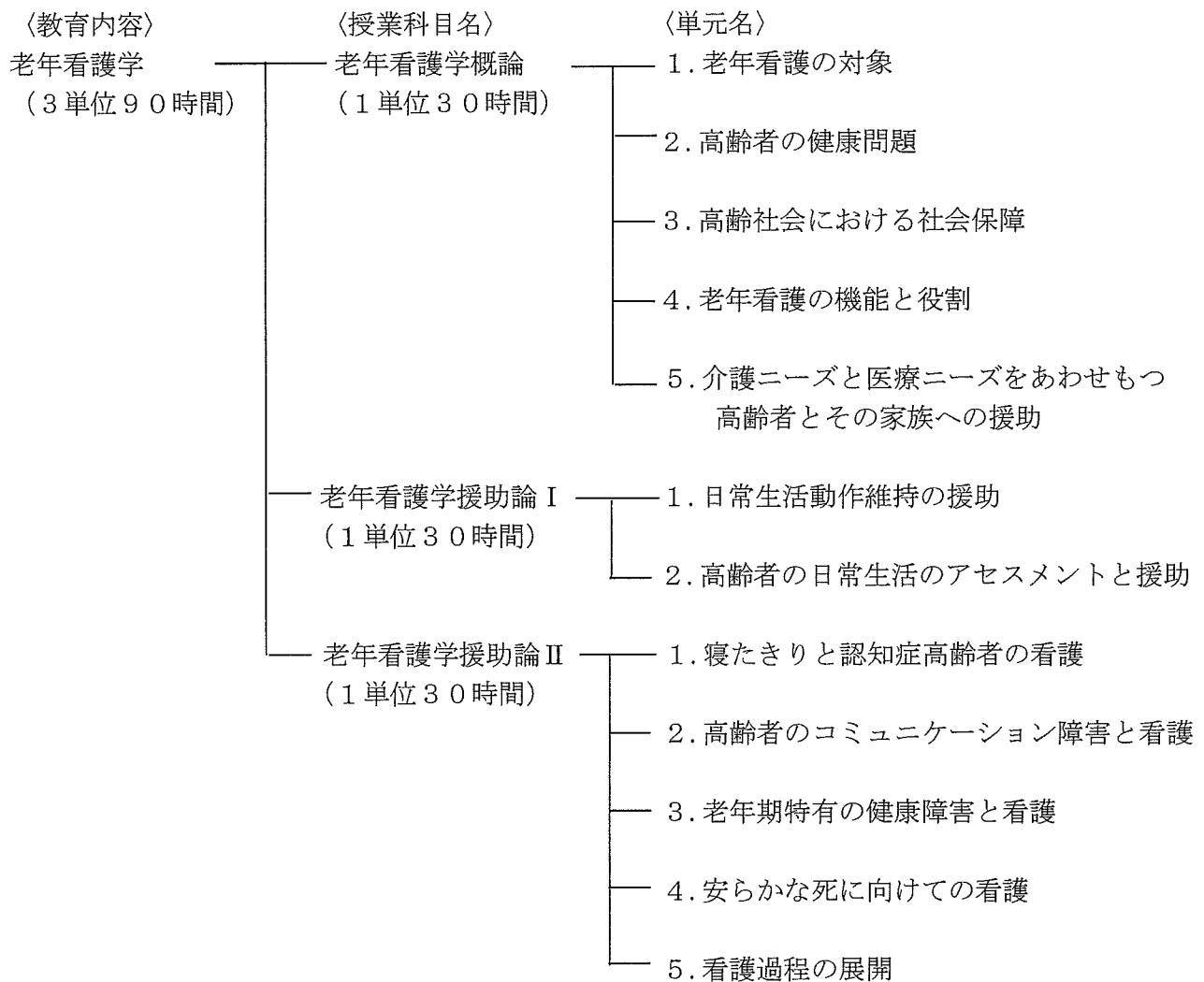
老年看護学

1. 老年看護学の考え方、ねらい

少子高齢化、疾病構造の変化、保健医療福祉制度の変革により、高齢者の生活の場やライフサイクルが多様化している中で老年看護に対する期待が高まっている。高齢者人口がますます増加する中で、高齢者個々に応じた健康な生活を目指し、他職種と協働し、質の高いケアが重要となってくる。

老年看護学では、加齢による身体的・精神的・社会的変化が健康や生活に及ぼす影響や問題を理解し、個々の高齢者の生活機能をアセスメントし、健康レベルに応じた予防対処と日常生活の自立を目指した看護を実践するために必要な基本的な知識・技術・態度を養う。また、高齢者の生活の質に必要な様々な保健・医療・福祉の制度について理解する。

2. 老年看護学の構成



成人・老年看護学実習 (6単位270時間) ————— 成人看護学参照

3. 授業計画

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
老年看護学概論	1 単位 (30 時間)	1 年次前・後期	専任教員	○
〈授業科目の履修目的・概要・指針など〉 超高齢社会の現代では、多くの高齢者が元気に活動している一方で、健康に不安を抱え、障害をもっている高齢者も多い。また今まで活動的であった人が少しのきっかけで寝たきり状態になったり、認知症が進行したりする。さらに加齢にともなう身体的、精神的、社会的変化は健康状態に大きく影響する。 そこで加齢にともなう身体的、精神的、社会的変化とその特徴を理解したうえで、高齢者の生活史や生活習慣、生活信条、健康観を尊重し、健康レベルに応じた看護を実践していくための基礎的能力を養う。 また高齢者の自立支援にむけた援助を実践するため、関連する法律、施策と保健・医療・福祉サービスの特徴、高齢者に多い医療事故を理解する必要がある。また高齢者のニーズにあった制度活用支援にむけて、他職種との連携、協働が求められる中、看護職に期待されている役割について考えていく。 〈単元目標〉 1. 老年期にある対象の身体的、精神的、社会的変化と特徴を理解する。 2. 老年看護の意義、目的、必要性について理解する。 3. 老年期にある人の自立支援にむけて、保健・医療・福祉サービスの理解と、看護者の役割を考える事ができる。 4. 高齢者と家族の多様化したニーズとその看護について学ぶ。				

〈授業計画〉

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 老年看護の対象 (6 時間)	1	1) 老年期とは (1) 老年期の定義 (2) ライフサイクルからみた老年期の意義 (3) 高齢者の生活 (4) 老年期の発達課題	講 義
	2～3	2) 加齢に伴う身体的機能・精神心理的機能・社会的変化	講 義
2. 高齢者の健康問題 (8 時間)	4～7	1) 高齢者の健康 (1) 長寿の要因、老年人口、平均寿命、健康寿命 (2) 健康意識 (3) 老年期における健康の考え方 2) 高齢者の健康問題 (1) 老年期の疾病 (2) 日本の高齢化現象の特徴 (3) 高齢化に伴う問題	講 義

3. 高齢社会における社会保障 (4時間)	8～9	1) 高齢者、社会のニーズ 2) 老人保健・福祉対策の経緯 3) 介護保険制度 4) 高齢者の権利擁護	講 義
4. 老年看護の機能と役割 (6時間)	10～ 12	1) 老年看護の基本 (1) 老年看護の定義 (2) 老年看護活動の場〔医療機関、施設、在宅〕 (3) 老年看護の役割・機能 (4) ICF モデル (5) 高齢者と医療安全 2) 老年看護における家族支援のあり方	講 義
5. 介護ニーズと医療ニーズをあわせ持つ高齢者とその家族への看護 (4時間)	13～ 14	1) 生活・療養の場における看護 (1) 高齢者と家族の多様化したニーズ (2) 在宅高齢者への看護 (3) 保健医療福祉施設の特徴と看護	講 義
	15 評価	筆記試験	
評 価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院【電子版】		
参考文献	岡堂哲雄 長濱春子 老人患者の心理と看護 中央法規出版 厚生統計協会 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 国民福祉の動向 日本看護協会 介護保険とケアマネージャー 日本看護協会出版会 他随時紹介		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
老年看護学援助論Ⅰ	1 単位 (30 時間)	2 年次前期	専任教員・非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化をふまえて、老年期にあるすべての人が、よりよい健康な生活を目指すために、日常生活機能をアセスメントし看護援助に必要な援助方法を学ぶ。 さらに、それらの人がより健康な生活への適応を促進し、できるかぎり自立性の維持を目指した看護が行える方法を学ぶ。 <単元目標> 1. 高齢者の生活機能をアセスメントし、日常生活の看護援助を理解する。 2. 高齢者の日常生活の自立を維持するために必要な看護援助を理解する。				

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 日常生活動作維持の援助 (4 時間)	1	1) 高齢者の転倒、褥瘡予防に向けた支援 (1) 転倒の要因 (2) 転倒予防のアセスメントと援助 (3) 高齢者の褥瘡のリスク (4) 寝たきり高齢者と家族への支援	講 義
	2	(5) リスクアセスメントの実際 * 82歳の女性。脳梗塞で緊急入院した片麻痺のある高齢者の事例。高齢者体験スーツを使用し、高齢者の身体機能を体験する。また高齢者の日常生活の中で、転倒転落予防の援助を実践する。	演 習
2. 高齢者の日常生活のアセスメントと援助 (24 時間)	3	1) 高齢者の清潔のアセスメントと援助 (1) 入浴・シャワー浴 (2) 清拭 (3) 足浴・洗面・口腔ケア	講 義
	4	(4) 義歯の取扱 (モデル人形) (5) 援助の実際	講 義 演 習
	5	(6) シャワー浴・爪切り * 82歳の女性。脳梗塞で緊急入院した片麻痺のある高齢者の事例。実施方法をポスターで掲示したものを説明後、グループで入浴とシャワー浴、爪切りを学生間で擬似体験。 発表・教員のまとめ。	演 習
	6	2) 高齢者の食生活のアセスメントと援助 (1) 老年期の栄養 ①加齢による身体機能・精神機能・社会的変化	講 義

		②加齢と摂食・嚥下機能の変化 (2) 食生活のアセスメント ①一般的な栄養評価法 ②高齢者栄養評価に必要な視点を考える (3) 食事中的アセスメント ①摂食・嚥下の5期モデル ②食事によって引き起こされる合併症 ・窒息、誤嚥性肺炎など (4) 水分補給の重要性 ①脱水の要因と発生のメカニズム ②症状の特徴・アセスメント・予防 (5) 援助の実際 ①食事前、中、後の援助 ②直接訓練・間接訓練	講 義
	7		
	8	(6) 食事の演習・間接訓練 ①トロミ剤の比較 ・でんぷん・グアガム系・キサンタンガム系の比較・番茶/ジュース等で比較 ②食事環境を整える ③摂食姿勢を整える ④食事の援助を行う ・各グループで患者役・看護師役を決めて実施 ・各自が作成したトロミ水を用いて、飲水の介助を行う ・ゼリーを用いて食事介助を行う ≪必要物品≫ ・コップ、スプーン（ティースプーン、カレースプーンなど介助を想定した物品を準備） ・エプロン ・布巾 ・オーバーテーブル、車いす ・番茶、ジュース（オレンジジュース）など ・ゼリー（果物が入った物は介助しにくいため具なしの物を準備する）	演 習
	9～10	3) 高齢者の排泄のアセスメントと援助 (1) 排泄のメカニズム (2) 排泄行為の自立のポイント (3) 尿失禁 (4) 便秘・下痢 ①便秘の予防・対処 ②下痢の特徴 (5) 援助の実際	講 義
	11	(6) 骨盤底筋体操・オムツの交換 ＊82歳の女性で脳梗塞により入院したにより片麻痺のある高齢者の事例 ・実施方法を説明	演 習

		・グループで看護師役と患者役を体験 ・グループワーク後グループ毎に発表 ・教員のまとめ	
	1 2	4) 高齢者の生活リズムのアセスメントと援助 (1) 睡眠と覚醒の変化 (2) 睡眠障害に関連する要因 (3) 安眠への援助	講 義
	1 3	5) 日常生活動作能力のアセスメント (1) ADLの指標 (2) アセスメントするときの注意点 (3) 日常生活動作のためのアセスメント (4) ADLを高めるための援助	講 義
	1 4	(5) 生活のリハビリテーション ①遊びリテーション、レクリエーション ＊ 介護老人保健施設に入所されている高齢者を設定。 ・老年期の特徴をふまえたレクリエーションを企画 ・発表し全体討議。 ・教員のまとめ。	演 習
	1 5 評価	筆記試験	
評 価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院【電子版】		
参考文献	看護学大系 1 3 老人の看護 日本看護協会出版会 日本看護協会編 介護保険とケアマネージャー 日本看護協会出版会 臨床老年医学入門 医学書院 生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程 医歯薬出版株式会社 他随時紹介		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
老年看護学援助論Ⅱ	1 単位 (30 時間)	2 年次前・後期	専任教員・非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 老年期には、身体・精神・社会的変化などにより生活機能の低下や日常生活行動が自立に向かないことがある。また、加齢に伴い防衛力や予備力などが低下し、疾患や障害をおこしやすい状態にある。成人期に罹患した慢性疾患からの影響や、加齢に伴う特徴的な疾病が複合しやすいため、健康障害を総合的にアセスメントし、二次的障害を予防する看護が必要とされている。 老年看護学援助論Ⅱでは、高齢者に特徴的な二次的障害を有する対象や家族を援助するために必要な基礎的知識と、高齢者と家族の多様化したニーズに応じた看護、高齢者を尊重した看護について学ぶ。 <単元目標> 1. 廃用症候群および認知症高齢者の特徴を学び、必要な援助方法を理解する。 2. 感覚機能の低下がある高齢者へのコミュニケーション技法を学ぶ。 3. 疾患の治療に伴い起こりやすい身体・精神的侵襲への看護を理解する。 4. 老年期に特徴的な疾病を理解することにより、老年看護をおこなうための基礎能力を養う。 5. 障害をもつ高齢者とその家族への看護過程を理解する。				

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 寝たきりと認知症 高齢者の看護 (6 時間)	1	1) 寝たきり高齢者の看護 (1) 寝たきりになる要因 (2) 寝たきりの予防と合併症 (3) 廃用症候群発生予防に向けた支援 ①廃用症候群の予防のための運動	講 義
	2～3	2) 認知症高齢者の看護 (1) 高齢化社会と認知症との関係 (2) 認知症の発症要因と評価基準 (3) 認知症高齢者への看護の基本 ①生活機能障害からみる認知症のとらえ方 ②関わり方 ③家族への支援 *動画を視聴後、グループで検討と発表。全体討議。	講 義 演 習
2. 高齢者のコミュニ ケーション障害と看 護 (2 時間)	4	1) 高齢者に特徴的なコミュニケーションと看護 (1) 失語症のある高齢者 (2) 構音障害のある高齢者 (3) 難聴のある高齢者	講 義 演 習

3. 老年期特有の健康障害と看護 (10時間)	5～9	* 82歳の女性、脳梗塞で緊急入院した事例のVTRをもとに(1)(2)(3)をグループで討議、発表する。 1) 運動器疾患と看護 (1) 骨・筋系疾患に伴う変化への看護 ①骨粗鬆症 ②筋萎縮・関節の拘縮 (2) 大腿骨頸部骨折の高齢者の理解と看護 2) 循環器系疾患と看護 (1) 高血圧症の高齢者の理解と看護 (2) 心不全の高齢者の理解と看護 3) 呼吸器系疾患と看護 (1) 肺炎(誤嚥性肺炎、間質性肺炎)の高齢者の理解と看護 (2) COPDの高齢者の理解と看護 4) 感覚器系疾患と看護 (1) 白内障の高齢者の理解と看護 5) 皮膚疾患と看護 (1) 老人性掻痒症の高齢者の理解と看護 (2) 疥癬の理解と看護 6) 脳神経系疾患と看護 (1) 脳血管障害の高齢者の理解と看護 (2) パーキンソン病の高齢者の理解と看護	講義
4. 安らかな死に向けての看護 (2時間)	10	1) 高齢者への看取りの看護 (1) 死を迎えることの意味 (2) 死の迎え方の特徴 ①看取りの場 ②家族を支えるということ	講義
5. 看護過程の展開 (8時間)	11～ 14 15 評価	1) 事例を用いて看護過程の展開 大腿骨頸部骨折の高齢者の看護過程の展開 (人工骨頭置換術後の看護) * 75歳の女性。転倒し入院。大腿骨頸部骨折術後の事例 (1) 看護過程の一連を行う。 (2) 問題解決思考と目標志向型思考で行う。 (3) 看護計画立案後、クラスで討論を行い、全体で共有をする。 筆記試験	講義 GW

評価	筆記試験（80％） 看護過程（20％）
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院【電子版】
参考文献	日本看護協会編 介護保険とケアマネージャー 日本看護協会出版会 臨床老年医学入門 医学書院 生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程 医歯薬出版株式会社 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 【電子版】 看護学大系 13 老人の看護 日本看護協会出版会 鎌田ケイ子 高齢者ケア論 全国老人ケア研究会 臨床老年医学入門 医学書院 生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程 医歯薬出版株式会社 他随時紹介

小 児 看 護 学

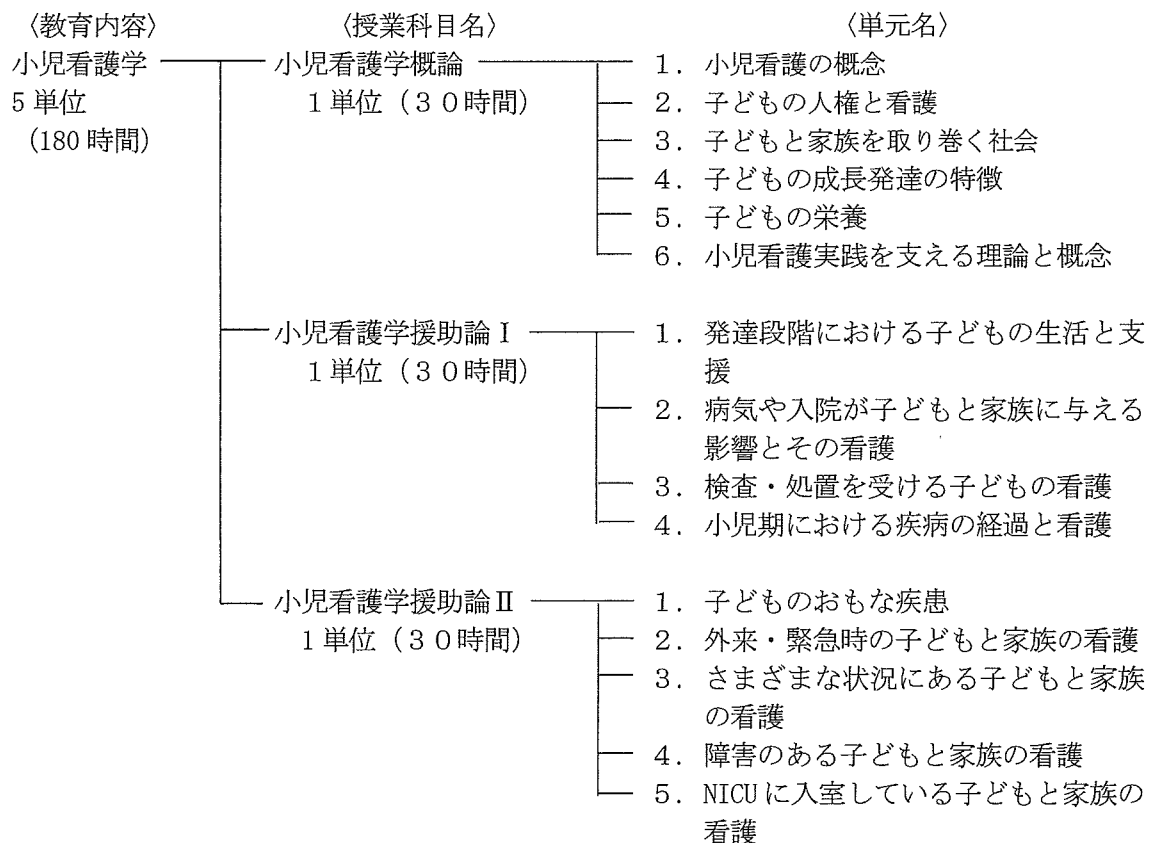
小児看護学

1. 小児看護学の考え方・ねらい

少子超高齢社会を迎えて、子どもを取り巻く環境は急速に変化している。この変化の中で、子どもの生活習慣病の増加、こころの問題、思春期の子どもの自殺、育児不安、児童虐待など、子どもを取り巻く社会や家族に深くかかわる子どもの健康問題が増加しており、子どもが置かれている社会や周囲の状況を理解することは、現在の小児看護を考える第一歩として重要である。小児看護に携わる看護者は、ヘルスプロモーションの理念に基づき、権利を有するひとりの人として子どもを尊重し、さまざま健康レベルの子どもが社会の中で健やかに発達し生きていくことができるように、個別性ある看護を提供する責務がある。また、子どもを育む家族も看護の対象と位置づけ、家族に対して看護を提供するとともに、子どもの発達を支援し、子どもにとって最善の利益を目指した看護を提供することが重要である。

小児看護学では、小児看護の特徴と理念を学び、健康な子どもの成長・発達の理解、発達段階に応じた援助と支援の必要性を学ぶ。その上で、健康障害を持つ子どもの理解のため、主要な疾患、症状などを学び、さまざまな健康状態、さまざまな状況にある子どもと家族の看護を理解し、子どもの発達段階、健康レベルに応じた看護を実践するための基本的な知識・技術・態度を学ぶ。

2. 小児看護学の構成



3. 授業計画

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
小児看護学概論	1 単位 (30 時間)	1 年次前・後期	専任教員	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

これからの社会を担う子どもの命を守り、健やかな成長・発達を支えることや、一人ひとりの子どもが豊かな人生を歩むことができるように支援していくことは、医療者をはじめとする社会全体の責務である。小児看護に携わる看護者は、「権利を有するひとりの人」として子どもを尊重し、子どもが社会の中で健やかに成長・発達していくことができるように、看護を提供していく責務がある。成長・発達していく存在である子どもを理解し、その基盤となる知識を学ぶことで、子どもの成長・発達を支援し、子どもにとって最善の利益を目指した看護を提供することができる。

ここでは、小児看護の概念を理解し、子どもと家族を取り巻く社会の現状から倫理的課題や小児看護の必要性を学ぶ。また、子どもの成長・発達過程を理解し、子どもの健やかな成長・発達に向けた看護の役割を学ぶ。

<単元目標>

1. 小児看護の対象とその特徴を理解する。
2. 子どもの権利と小児看護における倫理的課題について理解する。
3. 子どもと家族を取り巻く社会と法律や保健対策を理解する。
4. 子どもの成長・発達過程と発達課題を理解する。
5. 小児期における栄養の役割と特徴を理解する。
6. 子どもと家族の看護に必要な理論と概念を理解する。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 小児看護の概念 (2 時間)	1	1) 小児看護の対象 (1) 子どもの特徴 (2) 子どもと家族、社会 2) 小児看護の目標と役割 3) 小児医療、小児看護の変遷	講 義
2. 子どもの人権と看護 (4 時間)	2	1) 小児看護の倫理 (1) 子どもの権利 (2) 児童憲章 (3) 児童の権利に関する条約 (4) アドボカシー (5) 子どもを取り巻く社会の変化 (6) 虐待	講 義
	3	2) 医療現場で起こりやすい問題と倫理的配慮	演 習

3. 子どもと家族を取り巻く社会 (6時間)	4 5～6	1) 子どもと家族の諸統計 2) 小児保健対策 (1) 小児を巡る法律と統計 ①児童福祉法 ②母子保健法 ③予防接種法 ④その他の法律	演 習 講 義
	7	1) 成長発達とは (1) 小児期の年齢区分 (2) 成長発達の原則 (3) 成長発達に影響する因子	講 義
	8～9	2) 小児各期の成長発達 (1) 形態的成長 (2) 機能的発達 (3) 精神・運動機能の発達	
	10	3) 成長発達の評価	講 義
	11	1) 子どもにとっての栄養の意義 2) 小児各期の栄養の特徴と看護 3) 離乳食の進め方とめやす	講 義
	12	4) 演習:「乳児の1日の栄養計画」	演 習
6. 小児看護実践を支える理論と概念 (4時間)	13	1) 子どもの発達理論 (1) エリクソン自我発達理論 (2) ピアジェ認知発達理論 2) 小児看護とセルフケア理論	講 義
	14	3) 小児看護における理論と概念の活用	演 習
評価		筆記試験	
評価	筆記試験 (70 点)・課題 (30 点)		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院【電子版】 国民衛生の動向：厚生統計協会		
参考文献	1. 小児看護と看護倫理—日常的な臨床場面での倫理的看護実践—へるす出版 2020 2. 子どもの権利条約ハンドブック 自由国民社 2016 3. こどもセルフケア看護理論 医学書院 2019 4. 他、随時紹介		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
小児看護学援助論Ⅰ	1 単位 (30 時間)	2 年次 前期	専任教員	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

小児期は、日常生活のなかでさまざまな経験を重ねながら、人間が社会生活を送るうえで必要な基本的能力を獲得していく時期であり、生活行動の自立をとげていく。そのため、小児各期における子どもの生活や特性、発達課題や諸問題をとらえ、本来子どもがもっている育つ力や学ぶ力を最大に発揮できるよう支援することが看護の役割である。また、病気や障害は、子どもの成長・発達に大きく影響し、子ども自身だけでなく、家族のこころや生活に大きな影響を及ぼす。そのため、子どもの病気や障害の支援だけでなく、その子らしく成長・発達の過程を歩め、家族全体の安寧を支えることも看護の役割である。

ここでは、小児看護学概論での既習知識をいかし、小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護について学び、子どもの全体像を理解する。また、病気や障害に対して子どもと家族が示す反応をとらえ、健康問題や発達段階による特徴から、必要とされる看護を考える。

<単元目標>

1. 小児各期の生活や特性をとらえ、健やかな成長発達に向けた支援について理解する。
2. 病気や障害が子どもと家族に与える影響を理解し、必要とされる看護を説明できる。
3. 小児期における病気の経過から看護の特徴をとらえ、子どもと家族への看護を理解する。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 発達段階における子どもの生活と支援 (8時間)	1	1) 乳児期 (1) 日常生活の世話 (2) 遊びの支援 (3) 事故防止 (4) 育児支援	講 義
	2	2) 幼児期 (1) 日常生活の自立と世話 (2) 遊び (3) 子どもの事故と安全教育 (4) 生活習慣の支援	講 義
	3	3) 演習：「幼児の世話」	演 習
	4	4) 学童期 (1) 学童期にある子どもを取り巻く社会環境 (2) 学校生活への適応 (3) 生活習慣病予防、疾病予防 (4) 安全教育と事故防止 (5) 性教育	講 義

		5) 思春期 (1) 子どもの生活の特徴 (2) セルフケアと保健指導 (3) 親からの自立 (4) 子どもを取り巻く社会環境 (5) 問題行動と家族機能	講 義
2. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 (4時間)	5	1) 病気や障害が子どもと家族に与える影響 (1) 発達段階と子どもの病気の理解 (2) 健康障害に伴う子どものストレスと対処とその支援 (3) 家族の反応と支援	講 義
	6	2) 入院中の子どもと家族の看護 (1) 子どもが入院する病棟の形態 (2) 入院環境と看護の役割 ①病床環境 ②処置室 ③遊び・学習の場 ④生活の場 (3) 計画入院・緊急入院時の看護 (4) 治療や処置に伴う苦痛絵の支援 ①インフォームドアセント ②プレパレーション ③ディストラクション (5) 各発達段階にある子どもの心理・社会的苦痛と看護 (6) 退院をみすえた看護	講 義
3. 検査・処置を受ける子どもと家族の看護 (4時間)	7・8	1) 子どもの看護技術の特徴 2) 子どもの健康を把握する看護技術 (1) コミュニケーション (2) バイタルサインの測定 (3) 身体計測 3) 検査・処置に必要な看護技術 (1) 与薬 (2) 輸液 (3) 抑制 (4) 検体採取 (5) 吸引・吸入 4) 生活援助に必要な看護技術	講 義 演 習
4. 小児期における疾病の経過と看護 (12時間)	9・10	1) 急性期にある子どもと家族の看護 (1) 発熱時のアセスメントと看護ケア (2) 下痢・嘔吐時のアセスメントと看護 (3) 脱水時のアセスメントと看護ケア	講 義

		(4) 呼吸困難児のアセスメントと看護ケア (5) けいれん時のアセスメントと看護ケア (6) 生命兆候が危険な状況にある子どもの観察とケア及び家族への支援 1 1 2) 演習「急性期にある子どもと家族の看護」 1 2 3) 慢性期にある子どもと家族の看護 (1) 病気の時間経過と急性増悪 (2) 病気による子どもと家族の生活の変化 (3) 学校の受け入れ・調整 (4) 長期治療を必要とする子どもの発達とセルフケア (5) 地域との連携・調整 (6) 小児における在宅看護 (7) 家族のストレスの緩和・対処への支援 1 3～ 4) 演習「慢性期にある子どもと家族の看護」 1 4 1 5 筆記試験	演 習 講 義 演 習
評価	筆記試験 (85点) 課題 (15点)		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論 医学書院【電子版】		
参考文献	1. 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ 2017 2. 他、随時紹介		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
小児看護学援助論Ⅱ	1 単位 (30 時間)	2 年次前・後期	専任教員・非常勤講師	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

小児期の疾患は、程度の差はあれ病気が子どもと家族の生活に影響を及ぼす場合も少なくない。その影響は、発達段階や病気の種類により大きく異なることが考えられる。また、子どもが病気を持つことにより、なれない環境や初めて経験する治療・処置、制限のある生活などから、苦痛や恐れ、やりたいことができない悲しみなど、ストレスの原因となる体験も多く、子どもの発達段階にも影響を及ぼすことが考えられる。看護者は、さまざまな状況下に置かれた子どもと家族に対して、どのような看護が必要かを考えて提供していかなければならない。

ここでは、小児の疾患を学ぶ。また、子どもの発達段階や家族のニーズ、疾病や健康問題の状態に応じた看護を学ぶ。健康障害を持つ子どもと家族が遭遇するさまざまな状況を知り、看護に必要な知識・技術・態度を身につける。

<単元目標>

1. 小児期に多い疾患・小児に特有な疾患の病態生理を理解する。
2. さまざまな状況にある子どもと家族への看護を理解する。
3. 心身障害のある子どもと家族の実際を知り、必要な看護を理解する。
4. 低出生体重児と家族の実際を知り、必要な看護について理解する。
5. 検査・処置を受ける子どもの看護を理解し、必要な技術を身につける。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 子どもの主な疾患 (1 4 時間)	1～7	1) 先天異常 2) 神経疾患 3) 消化器疾患 4) 内分泌・代謝疾患 5) 免疫・アレルギー疾患 6) 循環器疾患 7) 呼吸器疾患・感染症 8) 腎・血液・悪性新生物 9) 発達障害 10) 児童虐待	講 義
2. 外来・緊急時の子どもと家族の看護 (2 時間)	8	1) 外来における子どもと家族の看護 (1) 子どもを対象とする外来の特徴と看護の役割 (2) 外来の役割 (3) 外来における子どもと家族の看護	講 義

		(4) 児童虐待の気づきと看護 2) 救急救命処置 (1) 意識・呼吸状態の観察 (2) 心肺蘇生 (3) 気道確保・人工呼吸法 (4) 小児救急看護の実際	講 義 演 習
3. さまざまな状況にある子どもと家族の看護 (6時間)	9 ~ 1 1	1) 活動制限が必要な子どもと家族の看護 (1) 活動制限の目的 (2) 身体的・心理社会的影響 (3) ストレス対処への支援 (4) 家族への支援 2) 隔離が必要な子どもと家族の看護 (1) 隔離の目的・方法 (2) 身体的・心理社会的影響 (3) 隔離時の日常生活援助 (4) 家族の面会・付き添い時の指導と支援 3) 痛みのある子どもと家族の看護 (1) 痛みの受け止め方 (2) 痛みの表現方法 (3) 痛みの客観的評価 (4) 痛みの緩和への援助	講 義
4. 障害のある子どもと家族の看護 (4時間)	1 2 1 3	1) 障害児医療 (1) 重症心身障害児の歴史・定義・病態 (2) 必要な療育のあり方と福祉 2) 障害のある子どもと家族の特徴 3) 障害のある子どもと家族への看護 4) 障害のある子どもと家族への社会的支援	講 義
5. NICU に入室している子どもと家族の看護 (2時間)	1 4 1 5	1) 胎外生活への適応を支える看護 2) 成長・発達を支える看護 3) 家族への看護 筆記試験	講 義

評 価	筆記試験
教科書	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院【電子版】 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院【電子版】 3. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復促進 [1] 病理学 医学書院【電子版】
参考文献	3. 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ 2017 4. 他、随時紹介

母 性 看 護 学

母性看護学

1. 母性看護学の考え方、ねらい

母性看護学は、女性の生涯を通じての「性と生殖に関する健康」（リプロダクティブヘルス）を守る役割がある。現代の女性の生き方は多様化し、女性の健康を母性の健康としてだけでは捉えられない状況にある。そのような状況の中で、母性看護学の役割は女性の自己決定を尊重するリプロダクティブヘルスを基盤に、女性のライフサイクル全般にわたって母性の健康を維持・増進することである。また、女性には子どもを産む仕組みが備わっていることから、次世代の健全な育成に努める役割がある。安全で快適な出産を経ることは、子どもの成長・発達および母子関係・親子関係へ相互に影響し合っていくことから、母と子の成長を一体化して捉えることや地域社会で生活している対象である視点も踏まえ看護していくことが必要である。

これらをもとに母性看護学では、種族保存あるいは生殖の意義を理解しその機能が健全に営むことができるように、対象の一生を通しての健康の維持・増進と母性機能を適切に遂行していくための基本的な知識・技術・態度を学ぶ。

2. 母性看護学の構成

<科目>	<授業科目名>	<単元>
母性看護学 5単位 (180時間)	母性看護学概論 1単位(30時間)	1. 母性看護の基盤となる概念 2. リプロダクティブヘルスに関する概念 3. 母性看護と倫理 4. 母性看護の対象理解 5. リプロダクティブヘルスケア 6. 女性のライフステージと看護 母性看護まとめ
	母性看護学 援助論Ⅰ 1単位(30時間)	1. 周産期看護 2. 妊娠期看護 3. 分娩期看護
	母性看護学 援助論Ⅱ 1単位(30時間)	1. 産褥期看護 2. 新生児期の看護 3. 母性の看護過程
	母性看護学実習 2単位(90時間)	

3. 授業計画

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
母性看護学概論	1 単位 (30 時間)	1 年次 後期	専任教員	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

母性看護学概論では、女性という役割をもつ対象を出発点とし女性の生涯を通じた学習をおこなう。また、リプロダクティブヘルスをもとに女性の健康を守る役割についての学習を深める。現代の女性の生き方は多様化し、晩産化・少子化、母子をめぐる環境の変化、国際化など母性看護の役割の拡大化が進んでいる。このような役割の拡大化を踏まえ、母性看護の実践活動に繋がる基礎知識を学習する。

<単元目標>

1. 母性看護の概念および母性のあり方を捉える
2. リプロダクティブヘルスライツに関する概念が理解できる
3. 母性看護における倫理が理解できる
4. 母性看護の対象理解ができる
5. リプロダクティブヘルスケアの実際が理解できる
6. 母性看護のまとめをもとに母性看護の役割が理解できる

<授業計画>

単元	回数	内 容	授業形態
1. 母性看護の基盤となる概念 (4 時間)	1	1) 女性の理解 (1) 女性の生き方の変遷 2) 母性、父性 3) 母性のあり方 (1) 親になることと母性 (2) 母性観・父性観の変遷 (3) 現代における母性・父性とは	講 義
	2	4) 母性看護を支える概念 (1) ヘルスプロモーション (2) エンパワメント (3) ウェルネス (4) セルフケア	講 義
2. リプロダクティブヘルスに関する概念 (4 時間)	3	1) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 2) セクシュアリティとジェンダー	講 義
	4	3) 性分化のメカニズム 4) 多様な性	
3. 母性看護と倫理 (4 時間)	5	1) 母性看護における倫理的問題	講 義 GW
	6	2) 人工妊娠中絶、生殖補助医療について 3) GW、発表	
4. 母性看護の対象理解 (6 時間)	7	1) 二次性徴 2) 性周期 3) 性行動、性反応	講 義 GW
	8	4) 性周期についての GW、発表	

5. リプロダクティブヘルスケア (6時間)	9	5) 母性の発達・成熟・伝承 6) 家族看護	発表 講義
	10	1) 家族計画、STD、喫煙、DV、薬物について 一課題をグループ学習	講義 GW
	11	2) 発表	発表
	12	3) 災害と母性 4) 国際化社会と看護	講義
	13	1) 領域横断授業をもとにライフステージに合わせた 健康教育 GW	GW 発表
6. 女性のライフステージと看護 母性看護のまとめ (4時間)	14		
	評価	筆記試験	
評価	筆記試験(90%)、課題と取り組み状況(10%)		
教科書	系統看護学講座 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 【電子版】		
参考文献	木村好秀：家族計画指導の実際 医学書院 2017 第2版増補版第1刷 厚生統計協会：国民衛生の動向 2020/2021 新道幸恵他：母性の心理社会的側面と看護ケア 医学書院 2015 第1版第23刷 中込さと子他：概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版 2019 第1版第1刷 大北全俊他：ケアの倫理 メディカ出版 2015 第1版第1刷 有森直子：母性看護学Ⅰ 医歯薬出版 2020 第2版第1刷 立岡弓子：女性の健康と看護 サイオ出版 2017 第1版第1刷 ※他、講義の中で随時紹介します。		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
母性看護学援助論 I	1 単位 (30 時間)	2 年次 前期	専任教員・非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 女性の体内で成長している胎児の存在は、形態的・機能的に母体の全身状態を大きく変化させ、心身は様々な影響を受ける。女性が、周産期に生じる心身の変化に適応し、健康で快適な生活が出来るように援助することが必要である。母体のケアを通じて子を異常や障害の発生から守り、生まれてくる子が健全な成長・発達が出来るように援助することが必要である。また、妊娠期の多くの時間を地域で生活する妊婦とその家族が、セルフケア能力を活かしながら、安心・安全な生活を送るための必要な援助を学び、周産期における看護の基礎的能力を養う。 <単元目標> 1. 妊娠期・分娩期の看護の概念を理解する。 2. 妊娠期・分娩期に生じる身体的・心理的・社会的変化を理解する。 3. 妊娠期・分娩期の母子の適応過程における総合的アセスメントを理解する。 4. 妊娠期・分娩期の看護の原則と必要なケアを理解する。				

<授業計画>

単元	回数	内 容	授業形態
1. 周産期看護 (2 時間)	1	1) 周産期看護 (1) 周産期とは ① 周産期の期間と時期 (2) 周産期をとりまく社会の現状 ① ひとり親世帯の経済格差 ② 妊婦健康診査未受診者の状況	講 義
2. 妊娠期看護 (18 時間)	2	1) 妊娠の生理的变化とその特性 (1) 妊娠期の身体的特性 ① 妊娠の生理 ② 胎児の発育とその生理 ③ 母体の生理的变化 (2) 妊婦と家族の看護 ① 妊婦が受ける母子保健サービス	講 義
	3	2) 妊娠期の心理・社会的特性 ① 妊婦の心理 ② 妊婦と家族および社会 3) 妊婦と胎児のアセスメント (1) 妊娠とその診断 (2) 妊娠期に行う検査とその目的 (3) 胎児の発育と健康状態の診断 4) 妊娠期に必要な看護技術 (1) レオポルド触診法 (2) 腹囲・子宮底長計測	講 義 演 習
	4	5) 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント ① 妊娠経過の診断	講 義

4. 分娩期の看護 (8時間)		② 妊婦の健康状態のアセスメント ③ 生理的変化に伴うマイナートラブルのアセスメント 6) 日常生活に関するアセスメント ① 食生活、服薬、嗜好品、喫煙、飲酒、排泄、清潔、運動・姿勢、休息・睡眠、衣生活、性生活、ストレス対処行動	GW
	5	7) 日常生活に関するアセスメントのGWの発表	発表 講義 演習
	6	8) 妊婦の健康相談・教育の実際 9) 親になるための準備教育 (1) 出産準備教育 (2) 育児準備 (3) 育児に必要な看護技術 ① おむつ交換、更衣 ② 赤ちゃんの抱き方、寝かせ方	
	7	10) 妊婦の生活を知る (1) 市内での妊婦支援の実際 市内の広報や保健所のホームページなどから、妊婦の地域での生活や、市での支援の実際を調べ、グループでまとめる。 (2) 妊婦体験 妊婦ジャケットを着用し、学校周辺の地域を活動することで、妊婦生活の実態を体験し、グループでまとめる。	GW
	8	(1) (2) のどちらかを選び実施	発表 講義
	9	11) 妊婦の生活について発表 12) 妊娠の正常からの逸脱(医師) (1) 妊娠期の異常 ① 流産・早産 ② 感染症、悪阻 ③ 妊娠高血圧症候群 ④ 妊娠糖尿病	
	10	13) 妊娠の異常と看護 (1) ハイリスク妊娠の看護 ① 切迫流産、切迫早産の妊婦の看護 ② 妊娠高血圧症候群妊婦の看護 ③ 肥満、過剰体重増加妊婦の看護など	講義
	11	1) 分娩の要素 (1) 分娩とは (2) 分娩の三要素 (3) 分娩の機序 (4) 分娩監視装置の判読 2) 分娩の経過 (1) 分娩の進行と産婦の身体的変化 (2) 産痛 (3) 産婦の心理、社会的変化 3) 産婦、胎児、家族のアセスメント (1) 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント	講義

		4) 産婦と家族の看護 (1) 安全・安楽な分娩への看護 (2) 基本的ニーズに関する看護 1 2 5) 分娩期の看護の実際 (1) 分娩第1期～2期の看護 ① 産婦の身体的、心理的、社会的特徴 (2) 分娩第1期～2期に必要な看護技術 ① リラックス法 (3) 分娩第3～4期の看護 ① 産婦の身体的、心理的、社会的特徴 (4) 分娩第3～4期に必要な看護技術 ① マッサージ法、呼吸法、補助動作、いきみ 1 3 6) 分娩の異常 (医師) (1) 産道の異常 (2) 娩出力の異常 (3) 胎児の異常による分娩障害 (4) 胎児の付属物の異常 (5) 胎児機能不全 (6) 分娩第3期および分娩直後の異常 (7) 分娩時異常出血 (8) 産科処置と産科手術 1 4 7) 分娩の異常と看護 (1) 異常のある産婦の看護 (2) 分娩時異常出血のある患者の看護 1 5 筆記試験 評価	講 義 演 習 講 義 講 義
評 価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院【電子版】		
参考文献	有森直子編：母性看護学Ⅱ 医歯薬出版 2016 第1版第3刷 石村由利子：母性看護技術 医学書院 2016 第2版第3刷 岡庭豊：病気がみえる 産科 メディックメディカ 平成28年 第3版第6刷 櫛引美代子：妊産褥婦のケア 医歯薬出版 2014 第2版第15刷 小林康江他：母性看護の実践 メディカ出版 2019 第1版第1刷 新道幸恵他：母性の心理社会的側面と看護ケア 医学書院 2015 第1版第23刷 有森直子：母性看護学Ⅱ 医歯薬出版 2020 第2版第1刷 ※他、講義の中で随時紹介します。		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
母性看護学援助論Ⅱ	1 単位 (30 時間)	2 年次 後期	専任教員・非常勤講師	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

産褥期は、分娩後6～8週をかけて妊娠前の状態に戻る過程をいう。この変化は生理的な現象であり、自然な過程であるが、その身体的変化が起こる中でも心理・社会的な変化も同時に起こる。産褥期は新しく子どもと母親と家族が様々な役割を習得し、新しい家族の関係性を確立する時期でもあり、父親と母親が子どもとの暮らしに心理的・社会的に適応していく期間でもある。また、新生児は出生した直後から、子宮外環境のもとで独立して生命を維持しなければならず、新生児期は胎外生活の適応のために生理的機能が大きく変化する時期であり、家族を中心にした社会生活の出発点に立つという特徴を持っている。

これらの産褥・新生児期の過程を理解し、母子そして家族が地域社会で生活するために、母子相互作用を通じて子どもと母親そして家族の関係が成立できるように援助することが必要となる。子どもと母親の健康を守るセルフケア能力を獲得するために必要な援助を学び、新生児の成長発達のための適正な養育環境を整えるための基本的知識を養う。

<単元目標>

1. 産褥・新生児期の看護の概念を理解する。
2. 産褥・新生児期に生じる身体的・心理的・社会的変化を理解する。
3. 産褥期の母子の適応過程における総合的アセスメントを理解する。
4. 新生児期の適応過程における総合的アセスメントを理解する。
5. 産褥・新生児期の看護の原則と必要なケアを理解する。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 産褥期の看護 (12時間)	1	1) 産褥期の経過 (1) 産褥期とは (2) 産褥期の身体的変化 ① 子宮の復古と悪露 ② 月経の発来 ③ 全身の変化 2) 退行性変化(生殖器・全身) (1) 褥婦のアセスメント ① 産褥経過の診断(退行性変化) (2) 褥婦の健康状態のアセスメント ① 褥婦の身体の状態 (3) 産褥期に必要な看護技術 ① 子宮復古の観察 ② 全身状態の観察	講 義
	2	3) 進行性変化 (1) 産褥期の身体的変化 ① 乳汁分泌 (2) 褥婦のアセスメント ① 産褥経過の診断 ② 褥婦の健康状態のアセスメント (3) 母乳分泌と児の哺乳について	講 義

2. 新生児の看護 (10時間)	3	① 母乳分泌のメカニズム ② 児の哺乳行動 ③ ポジショニングとラッチオン ④ 児の栄養のアセスメント ⑤ 乳房ケア	講 義 演 習
		4) 産褥期に必要な看護技術 ① 乳房の観察	
	4	5) 授乳に必要な看護技術 ① ポジショニング ② ラッチオン ③ 乳頭マッサージ ④ 乳房マッサージ	講 義
		6) 産褥期の心理・社会的変化 (1) 褥婦の心理的变化 (2) 家族の心理的变化 (3) ソーシャルサポート	
	5	7) 家族関係再構築への看護 (1) 上の子どもへの対応 (2) 夫またはパートナーへの対応	講 義
		8) 産褥の異常 (医師) (1) 子宮復古不全 (2) 産褥期の発熱 (3) 産褥血栓症 (4) 産褥期の精神障害	
	6	9) 産褥の異常と看護 (1) 子宮復古不全 (2) 産褥期の発熱 (3) 産褥血栓症 (4) 産褥期の精神障害	講 義
	7	1) 新生児の生理 (1) 新生児とは (2) 新生児の機能	講 義
		2) 新生児のアセスメント (1) 新生児の診断 ① 出生直後の評価 ② 発育、成熟度の評価 ③ 黄疸の評価 ④ 新生児マスキング	
	8	(2) 新生児の健康状態のアセスメント ① 子宮外生活への適応状態のアセスメント ② 新生児の生活のアセスメント ③ 児の清潔 (沐浴・清拭) ④ 児の健康管理	講 義 演 習
		3) 新生児の観察技術の実施 ① 新生児のバイタル測定 ② 新生児の全身状態の観察	
	9	4) 新生児の異常 (医師) (1) 低出生体重児 (2) 高ビリルビン血症	講 義

3. 母性の看護過程 (6 時間)	1 0	(3) 新生児・乳児ビタミン K 欠乏性出血症	講 義
	1 1	5) 地域の母子保健活動の実際 退院後の母児の生活、育児相談、産後ケアなど 6) 施設退院後の看護 (1) 産後生活調整 (2) 育児不安 (3) 産後の健康診査と子育て支援 (4) 職場復帰 ① 各地域で行われている地域の子育て支援について GW しまとめる	
	1 2～ 1 4	7) 産褥期の母子の健康問題と援助（看護過程）	講 義 個人ワーク
	1 5 評価	筆記試験	
評 価	筆記試験（80％）、看護過程（20％）		
教科書	系統看護学講座 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院【電子版】		
参 考 文 献	荒木奈都他：母性看護技術 メディカ出版 2019 第4版第1刷 有森直子編：母性看護学Ⅱ 医歯薬出版 2020 第1版第3刷 石村由利子：母性看護技術 医学書院 2016 第2版第3刷 今津ひとみ編：母性看護学2.産褥・新生児 医歯薬出版 2014 第2版第8刷 岡庭豊：病気がみえる 産科 メディックメディア 平成28年 第3版第6刷 平澤美恵子：写真でわかる 母性看護技術アドバンス インターメディカ 2017 初版第1版 櫛引美代子：新生児の観察と看護技術 医歯薬出版 2016 第1版第8刷 小林康江他：母性看護の実践 メディカ出版 2019 第1版第1刷 佐世正勝他編：ウェルネスからみた母性看護過程 医学書院 2017 第3版 新道幸恵他 母性の心理社会的側面と看護ケア 医学書院 2011 第1版第23刷 Klaus. M. H. Kennel. J. H（竹内徹他訳）：親と子のきずなはどうつくられるか 医学書院 2017 第1版 第9刷 Rubin. R（新道幸恵他訳）：母性論－母性の主体的体験－ 医学書院 2012 第1版 第5刷		
	※他、講義の中で随時紹介します。		

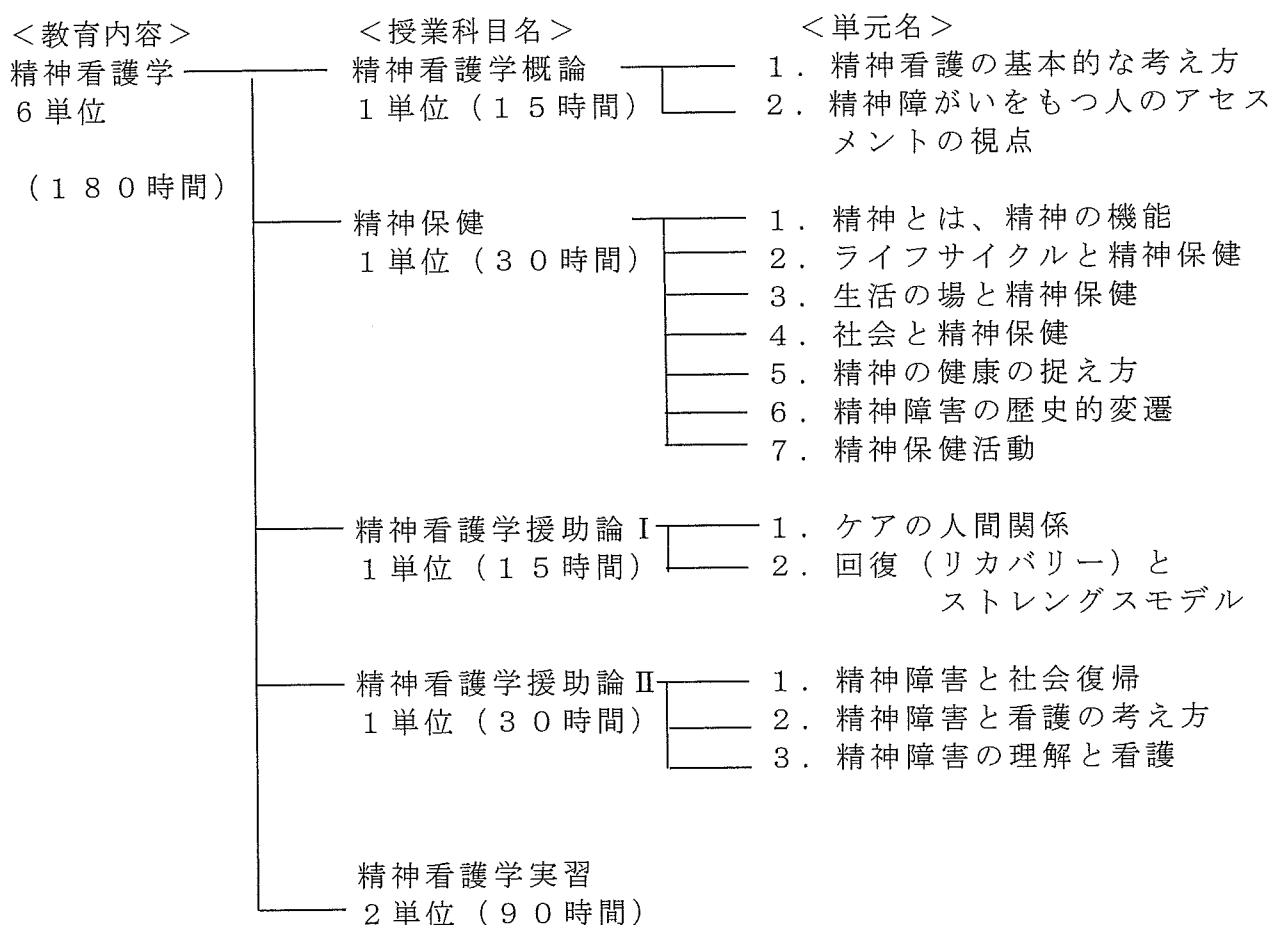
精神看護学

精神看護学

1. 精神看護学の考え方・ねらい

精神看護学は、人間の精神に関する看護を対象とする学問である。広い意味ではあらゆる場で、あらゆる人々の精神保健に関わる看護であり、狭い意味では精神障害をもつた方の施設内や地域での看護である。精神看護学では、精神機能とライフサイクルや社会と精神保健について学ぶ。また、精神障害の歴史的変遷を知り、精神に障害をもつ人の理解と人権の尊重、看護の対象のレジリエンスを高め回復を促すための看護、地域で生活する精神障害者への援助や資源の活用について学ぶことをねらいとする。

2. 精神看護学の構成



3. 授業計画

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
精神看護学概論	1単位（15時間）	1年次前・後期	専任教員・非常勤講師	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

精神科医療は入院医療中心から地域医療中心へと転換してきている。そのような社会の変化に伴い、看護者に求められる能力・役割も変化してきている。ここでは、精神医療を取り巻く社会状況の中における精神看護に必要な倫理や法律、制度、安全管理について学ぶ。

また、精神に障害をもつ人の生きにくさ、不自由さを理解し、その人らしい生活を送るための看護を実践するためのアセスメントモデルについて理解する。

<単元目標>

1. 精神看護の基本的な考え方と看護者の役割について理解する。
2. 精神障害者の人権尊重と看護師の倫理的な配慮について理解する。
3. 精神障害者の病の体験と看護実践を行う上で必要なアセスメントの視点や考え方を理解する

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 精神看護の基本的な考え方 (10時間)	1～2	1) 精神障がいをもつ人の病の体験と精神看護 (1) 精神看護学で学ぶこと ①精神看護学とは ②精神科看護の倫理綱領と倫理 (2) 精神障がいをもつ人の病の体験の理解と精神看護 ①精神に障がいをもつ人の生きづらさ ②精神に障がいをもつひとへの基本的な看護	講 義
		2) 精神科における安全管理と看護 (1) リスクマネジメントの考え方と方法 (2) 暴力と包括的暴力防止プログラム(CVPPP)	講 義
		3) リエゾン精神看護とその活動 (1) リエゾン精神看護とは (2) リエゾナーズの役割	講 義
	3～4	4) これからの精神医療と地域生活 (1) 精神に障がいをもつということ (2) 精神に障がいをもつ人への診療の実際 (3) 精神に障がいをもつ人の地域生活に必要な多職種連携・協働	講 義
	5	5) 精神看護領域で必要な法律と制度 (1) 精神保健福祉法 (2) 障害者総合支援法 (3) 生活を支えるための法律と制度	
2. 精神に障がいをもつ人のアセスメントの視点 (4時間)	6～7	1) 精神障がいをもつ人への看護 (1) 精神障害の診断と疾病分類 ①DSMとICDの分類 (2) 精神に障がいをもつ人のアセスメント	講 義

		①BPSモデル（生物学的・心理学的・社会的側面） ②セルフケアモデル（オレム・アンダーウッド） ③ストレングスモデル	
	8 評価	筆記試験	
評 価	筆記試験（80％）・レポート（20％）		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1]精神看護の基礎 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2]精神看護の展開 医学書院【電子版】		
参考文献	国民衛生の動向 厚生統計協会 森 実恵 心に乗っとられて ある精神障害者の手記, 初版, 埼京印刷, 2002. 長谷川浩訳: トラベルビー 人間対人間の看護 医学書院 1974 等々 萱間真美他: リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術, 第1版, 医学書院, 2017.		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
精神保健	1単位（30時間）	1年次 後期	非常勤講師	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

◎授業の目標およびテーマ

精神保健は、個人・家族・社会という幅広い対象があることを理解し、疾患や障害の有無にかかわらず全ての人が生きがいをもって自分らしく生きることのできる地域社会づくりを目指すものです。最初に、精神保健の概念や基本的視点を理解します。そこから、現代社会における具体的な精神保健上の問題と精神保健活動の実際を学び、精神保健の課題と展望について理解を深めます。学生一人ひとりが広い視野をもって精神看護を考える基盤とすることを本授業の目標にします。

◎授業の概要

個人・家族の生活ライフサイクル、地域社会のあり方と精神保健について、また、精神障害と精神保健、精神保健福祉活動の実際について、時事の問題や具体的な事例を多く取り入れた講義を中心として進めます。

◎授業に当たり皆さんに望むこと

積極的に授業へ参加することを望みます。精神保健福祉を取り巻く社会の動向にも関心を持ち自ら考える姿勢を持つことが望ましいです。

<授業計画>

単 元	内 容	方法
第1回	オリエンテーション	講義 GW
第2回	精神とは何か 精神と脳の関係 精神機能の障害	
第3回	精神の機能 パーソナリティ 精神の構造と働き 正常と異常とは	
第4回	ライフサイクルと精神保健① 思春期・青年期その1（自我の揺らぎと社会関係の問題）	
第5回	ライフサイクルと精神保健② 思春期・青年期その2（精神障害～統合失調症、摂食障害、パーソナリティ障害等）	
第6回	ライフサイクルと精神保健③ 成人期～老年期（人生における安定と不安定を体験、精神障害～うつ病）	
第7回	生活の場と精神保健① 学校・職場	
第8回	生活の場と精神保健② 地域生活、災害看護	
第9回	社会と精神保健① ストレスと危機	
第10回	社会と精神保健② 自殺	
第11回	社会と精神保健③ 暴力・虐待	
第12回	精神の健康のとらえ方～ICFモデルから精神の健康と障害を捉える	
第13回	精神障害の歴史的変遷① 監置から病院へ（精神病患者監護法から精神病院法：長期入院の問題）	
第14回	精神障害の歴史的変遷② 病院から地域へ（精神衛生法から精神保健福祉法）	
第15回	精神保健活動 地域社会における精神障害者の生活支援システム（リカバリーの考え方）	
評価	筆記試験	
評 価	出席状況と筆記試験（もしくはレポート）により総合的に評価する。	
教科書	テキストは使用しない。資料を配付する。	
参考文献	必要時指示する。	

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
精神看護学援助論Ⅰ	1単位（15時間）	2年次 前期	専任教員・非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 社会構造の変化に伴い、精神的バランスを崩している人が増えてきている。また、精神科医療は入院医療中心から地域医療中心へと転換してきている。社会の変化に伴い、看護者に求められる能力・役割も変化してきている。ここでは、社会状況を知った上で、精神看護の場・対象・看護師の役割について学ぶ。また、治療のために対象を隔離・拘束することが必要な場合があるため、看護者として対象の尊厳を守り安全な医療・看護を提供するための倫理を身につける。 また、入院医療中心から地域生活に向けた看護実践のために、対象の回復（リカバリー）を促進するための強みや生きる力に着目した看護モデルを理解する。さらに、精神障害をもつ対象との治療的関係の構築のために必要な知識とコミュニケーション技法を学ぶ。 <単元目標> 1. 精神に障害をもつ対象とのコミュニケーション技法について理解する。 2. 精神障害の影響を多角的に考えながら、対象者の回復（リカバリー）に向けて必要な看護を考えることができる。 3. 精神障害をもつ対象の回復（リカバリー）を促進するために、必要な理論（ストレンクスモデル）について理解することができる。				

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. ケアの人間関係 (8時間)	1～3	1) ケアの人間関係 (1) ケアの前提・原則・方法 (2) 関係をアセスメントする ①プロセスレコードの活用 ②アサーティブなコミュニケーション (3) 患者-看護師関係における感情体験	講 義 G W
	4	2) 事例を活用したコミュニケーションの実践 (1) ジョイニングと肯定的コミュニケーションの実践 (2) 精神症状のある対象とのコミュニケーション（傾聴・共感・受容）	
2. 回復（リカバリー）と ストレンクスモデル (6時間)	5	1) 回復（リカバリー）の意味とプロセス (1) 回復（リカバリー）の意味 (2) 治療の場におけるリカバリーと看護 ①急性期病棟におけるリカバリー ②慢性期病棟におけるリカバリー ③リカバリーを促す環境と方法 ④リカバリーのためのプログラム 作業療法・社会生活技能訓練（SST） 認知行動療法（CBT）・当事者研究等	講 義 G W
	6	(3) リカバリーのプロセス	講 義
	7	2) ストレンクスモデルと看護における活用 (1) ストレンクスモデル (2) ストレンクスマッピングシートの活用	講 義 G W
	8 評価	筆記試験	

評 価	筆記試験（70％）・提出物評価（30％）
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1]精神看護の基礎 医学書院 【電子版】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2]精神看護の展開 医学書院 【電子版】
参考文献	国民衛生の動向 厚生統計協会 中井久夫, 山口直彦:看護のための精神医学 医学書院 萱間真美:精神科訪問看護テキスト 利用者と家族の地域生活を支えるために, 初版, 中央法規出版, 2020. 萱間真美他:リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術, 第1版, 医学書院, 2017. 武藤教志:他科に誇れる精神科看護の専門技術 メンタルステータス イグザミネーションVol.1, 第1版, 第2刷, 株式会社精神看護出版, 2018 武藤教志 他科に誇れる精神科看護の専門技術 メンタルステータス イグザミネーションVol.2, 第1版, 第1刷, 株式会社精神看護出版, 2018

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
精神看護学援助論Ⅱ	1単位（30時間）	2年次 後期	専任教員・非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 精神障害を多角的に捉え、対象の発達段階を踏まえ、回復（リカバリー）と自立（自律）を促進する看護援助について学ぶ。また、精神障害をもつ人への地域における看護の実際を学ぶ。 <単元目標> 1. 精神障害をもつひとの地域における生活支援について理解することができる。 2. 様々な精神障害の特徴と対象の生活への影響を系統的に理解しアセスメントすることができる。 3. 様々な精神障害が及ぼす対象への影響を多角的にアセスメントし、対象者の回復（リカバリー）に向けて必要な看護を実践することができる。 4. 対象者の個別性を踏まえながら、自立（自律）を考慮した看護援助の視点を身につける。 5. 精神科治療（薬物治療他）における看護師の役割を理解できる。				

<授業計画>

1. 精神障害と社会復帰 (4時間)	1～2	1) 地域における生活支援の方法 (1) 地域における生活支援の方法と実際 (2) 精神科訪問看護と実際	講 義 G W
2. 精神障害と看護の考 え方 (4時間)	3～4	1) BPSモデル・ストレングスモデル・セルフケアモデルを使ったアセスメントと看護 (1) BPSモデル・セルフケアモデルの概要 (2) 気分障害の事例を使ったアセスメントの実際	講 義 演 習
3. 精神障害の理解と看護 (20時間)	5～9	1) 統合失調症と看護 (1) 統合失調症の基本的理解 (2) 精神症状と生活への影響 (3) 薬物療法と副作用 (4) ストレス脆弱性→対処技能モデル (5) 社会生活技能訓練の実際 (6) 統合失調症と看護の留意点 (7) 事例をもとにアセスメントの実施	講 義 G W 演 習
	10	2) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害と看護 (1) 不安の定義 (2) 恐怖症性不安障害 (3) 強迫性障害 (4) 不安障害の基本的理解と治療 (5) 不安障害と看護の留意点 (4) 身体表現性障害の基本的理解 (6) 疾病利得の理解 (7) 身体表現性障害と看護の留意点	講 義
	11～ 12	3) 精神作用物質使用による精神および行動の障害と看護 (1) 依存症の基本的理解 (2) アルコール症(依存)と看護の留意点 (3) 薬物依存と看護の留意点	講 義

	1 3 ~ 1 4	4) 摂食障害と看護 (1) 摂食障害の基本的理解 (2) 摂食障害が身体に及ぼす影響 (3) 摂食障害と看護の留意点 5) パーソナリティ障害と看護 (1) パーソナリティ障害 (PD) の概念 (2) PDの基本的理解 (3) PDと看護の留意点 6) 自閉症スペクトラム障害 (ASD) と看護 (1) ASDの基本的理解 (2) ASDと看護の留意点	講 義 講 義 講 義
	1 5 評価	筆記試験	
評 価	筆記試験 (60%) ・ 課題提出 (40%)		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1]精神看護の基礎 医学書院 【電子版】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2]精神看護の展開 医学書院 【電子版】		
参考文献	萱間真美 リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術, 第1版, 医学書院, 2017 武藤教志 他科に誇れる精神科看護の専門技術 メンタルステータス イグザミネーションVol. 1, 第1版, 第2刷, 株式会社精神看護出版, 2018. 武藤教志 他科に誇れる精神科看護の専門技術 メンタルステータス イグザミネーションVol. 2, 第1版, 第1刷, 株式会社精神看護出版, 2018. 白石壽美子他 全人的視点にもとづく精神看護過程, 第2版, 第1刷, 医歯薬出版株式会社, 2021. 萱間真美 ストレングスからみた精神看護過程+全体関連図、ストレングスマッピングシート, 第1版, 第1刷, 医学書院. 2021.		

健康状態に応じた看護

健康状態に応じた看護

1. 健康状態に応じた看護の考え方・ねらい

近年の人口構造の変化により、通院や入院している対象の高齢化が進み、一人の人が複数の疾患を抱える時代となり、また、家族形態の変化により、子どもを産み育てる世代も含めた全世帯を対象とした支援が必要な時代となっている。こうした背景から、看護職が対応する対象の多様性や複雑性が増し、看護職にはこれまで以上に高い能力が求められている。そのため、社会のニーズに応え、地域で生活する人の一生を理解した上で健康の状態やその変化に応じた判断力を身につけるとともに、人の健康・病気・回復の関連を考え、多角的に看護を実践することが必要である。そこで、基礎看護学を土台とし、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の5つの専門領域が相互に共通理解しつながりをもつことが重要である。

健康状態に応じた看護は、健康支援論、薬物療法と看護、周術期と看護、継続看護、終末期と看護、問題解決活用法から成り、健康の保持・増進、疾病の予防、健康回復、苦痛の緩和、その人らしい死という対象の状態に応じた看護が実践できる能力を強化することを目的とする。そのため、教育方法に事例演習を取り入れ、人々の生命と生活を支えるための応用力と看護の実践につながる基礎的知識と技術を学ぶ。

2. 健康状態に応じた看護の構成

〈教育内容〉	〈授業科目名〉	〈単元名〉
健康状態に応じた看護 6単位 (165時間)	健康支援論 1単位(30時間)	1. 社会の変化と保健 2. ライフステージ各期の発達課題と健康課題 3. 高齢者の生活を守る施策と看護の役割
	周術期と看護 1単位(30時間)	1. 周術期の看護とは 2. 術前の患者の看護 3. 術中の患者の看護 4. 術後の患者の看護 5. 高齢者と手術 6. 精神障害のある患者と手術 7. 手術を受ける子どもと家族の看護 8. 帝王切開術を受ける産婦の看護
	終末期と看護 1単位(30時間)	1. 終末期にある対象の理解 2. 緩和ケア 3. 死の受容 4. 看取りの看護 5. 死亡時の看護
	継続看護 1単位(30時間)	1. 継続看護とは 2. 継続看護の実際
	薬物療法と看護 1単位(15時間)	1. 薬物療法と看護の基礎知識 2. 薬物療法と看護の実際 3. 薬物療法における安全管理
	問題解決活用法 1単位(30時間)	1. 発達段階と看護の展開 2. その人らしさを支える看護 3. 「生活しているひとりの人」の理解

3. 授業計画

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
健 康 支 援 論	1 単位 (30 時間)	1 年次 後期	専任教員	○

〈授業科目の履修目的・概要・指針など〉

医療提供体制が大きく変化し、地域で生活する人々を対象とする看護が重要性を増している。同時に医療費の抑制から、病気にならない、あるいは病気の悪化を防ぐ、一次予防、二次予防、三次予防に看護師がその力を発揮する必要性は大きい。そのため、看護師には健康支援・保健指導能力が求められる。

ここでは、ライフステージの健康課題と施策について、その概要を学ぶ。また、発達段階ごとの健康課題の理解、“ゆりかごから墓場まで”の健康課題と健康を守る施策の理解を深めることで、看護職者の役割を認識する。さらに、衛生統計を読み解く力を身につけ、健康支援・保健活動に興味・関心を持ち、看護の役割を学ぶ。

〈単元目標〉

1. 衛生統計を読み解き、そこから保健医療福祉の動向が理解できる。
2. 健康支援の基本理論が理解できる。
3. 健康支援の方法が説明できる。
4. ライフステージ各期における発達課題と健康課題について理解できる。
5. 高齢者の生活を守る施策と看護の役割が説明できる。

〈授業計画〉

単元	回数	内容	授業形態
1. 社会の変化と保健 (6 時間)	1～3	1) 保健医療福祉の動向 2) ライフステージにおける法律と施策 3) 社会の変化と保健にかかわる意義・教育	講義・GW
2. ライフステージ各 期の発達課題と健 康課題 (18 時間)	4～ 12	1) 成人期の発達課題と健康課題 (1) 健康支援の基本理論 ①自己効力感 ②変化のステージモデル ③ヘルスビリーフモデル (2) 健康支援の方法 ①健康診査 ②保健指導 2) 働く人の健康課題と管理 (1) 産業保健 (2) メンタルヘルス 3) 乳幼児の発達課題と健康課題 4) 学童期の健康課題と管理 (学校保健) 5) 女性のライフステージにおける健康課題 6) 高齢者の発達課題と健康課題	講義・GW

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
周 術 期 と 看 護	1 単位 (30 時間)	2 年次 前期	専任教員	○

〈授業科目の履修目的・概要・指針など〉

手術は生体への侵襲を伴う治療法であり、患者の不安や恐怖は、疾患や治療内容によってははかり知れないほど大きい。看護師は一人ひとりの「心と体と社会関係」のつながりを視点にもった全人的な患者理解に努め、患者の意思を尊重し、納得のいく意思決定を支援することが重要である。また、看護師は、周術期においてチーム医療が効果的に行われるようにコーディネーターとしての役割を担う。そのため、患者・家族の心身の状態の変化に関する知識と洞察力、看護実践力が不可欠であり、手術後の身体的機能の変化を理解し、その変化をふまえてセルフケアの確立を目的として援助を組み立てる必要がある。

ここでは、基本的な周術期の看護の理解を基盤として高齢者、子ども、精神疾患を抱えている患者、帝王切開術を受ける産婦と、その家族の看護を学ぶ。また、全期間をとおして一貫した看護を提供し、手術を受ける患者の「人権と生命の尊厳」を考え、手術療法が患者にとって最大の利益となる支援ができるよう、その基本を学ぶ。

〈単元目標〉

1. 周術期の看護について説明できる。
2. 手術による身体侵襲と生体反応が理解できる。
3. 周術期（術前・術中・術後）の特徴に応じた看護が理解できる。
4. 手術後の身体的変化に伴い、生活にどのような影響を与えているのか、またそれに対してどのような看護援助が必要かを理解する。

〈授業計画〉

単元	回数	内容	
1. 周術期の看護とは (4 時間)	1～2	1) 周術期の看護とは 2) インフォームドコンセント 3) 周術期におけるチーム医療と看護師の役割 4) 侵襲的治療に伴う身体変化	講 義
2. 術前の患者の看護 (6 時間)	3	1) 全身状態と術後合併症のリスクアセスメント 2) 術前オリエンテーション	講 義
	4～5	3) 術前訓練	演 習
3. 術中の患者の看護 (2 時間)	6	1) 麻酔導入・覚醒時の看護 2) 呼吸・循環・体温のモニタリング 3) 手術体位とその影響	講 義

4. 術後の患者の看護 (6時間)	7～9	1) 術後の疼痛管理 2) 術後合併症の予防とその看護 3) 早期回復促進への看護 4) 集中治療を受ける患者の看護	講義 (2H) 演習 (4H)
5. 高齢者と手術 (2時間)	10	1) 高齢者の外科的治療 2) 高齢者の周術期の看護 3) 術前・術後の看護 4) 術後合併症の予防と発症時の看護 5) 退院に向けての援助 6) 認知症患者と手術 7) 術後せん妄	講義
6. 精神障害のある患者と手術 (2時間)	11	1) うつのある患者と手術 2) 精神障害のある患者と手術 3) 術後管理	講義
7. 手術を受ける子どもと家族の看護 (4時間)	12～ 13	1) 手術を受ける子どもの理解 2) 手術を要する健康障害と時期 3) 手術の種類 4) 術前の看護とプレパレーション 5) 周術期の看護 6) 退院指導・継続看護	講義
8. 帝王切開術を受ける産婦の看護 (2時間)	14	1) 術前オリエンテーションと心身準備 2) 帝王切開術中の看護 3) 術後合併症の予防と身体回復への看護	講義
	15 評価	筆記試験	
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院【電子版】 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院【電子版】 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野 各巻 医学書院【電子版】		
参考文献	随時紹介		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
終 末 期 と 看 護	1 単位 (30 時間)	2 年次 後期	専任教員	○

〈授業科目の履修目的・概要・指針など〉

看護職はこれまでも人生の最終段階にあるさまざまな年代の人々をケアしてきたが、病院や施設、自宅での最期の時を迎える人が増加する中で、看護職が看取りを行う場面も多様化し、年齢にかかわらず、最期までその人らしい人生を全うできるよう支えることも看護者の役割である。看護者は療養生活支援の専門家であり、対象者の長期的な身体状況の変化を予測するとともに、対象者や家族の希望を把握し、それが叶うような生活を実現・継続するために必要なケアを判断し、提供していく医療職である。そのため、対象の尊厳を守りながら、その人らしく最期を迎えられるように支援し、同時に家族がその状態変化や死を受け止め、悲嘆による影響を最小限に抑えるために、生前から死別後まで継続的に日々の看護実践の中でかかわることが大切である。

ここでは、終末期にある対象の特徴を理解し、各発達段階にある人とその家族の死のとりえ方を学ぶ。さらに、身体や精神の苦痛を緩和させつつ、人としての尊厳を保ちながら静かにその人らしい最期を迎えられるよう支援し、不安定な精神状態にある家族のサポートと看護について学ぶ。

〈単元目標〉

1. 終末期にある対象の特徴が理解できる。
2. 緩和ケアにおける看護師の役割の理解するとともに、倫理的課題とその対応について理解する。
3. 終末期にある人とその家族の死の受容過程が理解できる。
4. 看取りをする家族の援助について説明できる。
5. 死後の身体変化を理解し、人としての尊厳を守る死後の処置について説明できる。

〈授業計画〉

単元	回数	内容	授業形態
1. 終末期にある対象の理解 (6 時間)	1～3	1) 終末期看護の概念と倫理的問題 2) 子どもの終末期の特徴 3) 成人期における終末期の特徴 4) 老年期における終末期の特徴	講 義
2. 緩和ケア (4 時間)	4～5	1) 慢性疼痛の緩和ケア 2) がん性疼痛の緩和ケア 3) 他職種による横断的な緩和ケア	講 義
3. 死の受容 (6 時間)	6～8	1) 子どもと家族の死のとりえ方 2) 成人期における死のとりえ方 3) 流産・死産の喪失体験と死のとりえ方 4) 高齢者の死のとりえ方	講 義

4. 看取りの看護 (10時間)	9 10 11 12 13	1) 意思決定支援とグリーフケア 2) 成人の看取り (精神疾患患者を含む) 3) 臨終時の看護と家族ケア 4) 臨死期の対応と家族参加、家族の心理 5) 在宅における看取りの看護 6) 自宅で死を迎えることの意味	講 義
5. 死亡時の看護 (2時間)	14 15 評価	1) 死後の身体変化 2) 死後の処置 筆記試験	講 義
評価	筆記試験 (100点)		
教科書	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野 各巻 医学書院【電子版】		
参考文献	随時紹介		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
継 続 看 護	1 単位 (30 時間)	2 年次前・後期	専任教員	○
〈授業科目の履修目的・概要・指針など〉 地域包括ケアシステムにおいては、健康状態に応じて「場」・「役割」・「ケア提供者」などが短い時間で変化することも多くなる。そのため、変化により生じるさまざまな課題を理解し、対象が変化に対応できるように支援することが必要となる。 ここでは、どのような場にあっても適切な看護が受けられるために、継続看護の考え方とその方法について、事例展開をとおして学ぶ。 〈単元目標〉 1. 継続看護の意義や目的を理解するとともに、継続看護を提供するための在宅看護について説明できる。 2. 事例をとおして継続看護を考えることができる。				

〈授業計画〉

単元	回数	内容	授業形態
1. 継続看護とは (4 時間)	1	1) 継続看護の意義・目的 (1) 継続看護とは (2) 施設内における継続看護 (3) 施設間の継続看護 (4) 施設と在宅間の継続看護	講 義
	2	2) 継続看護を提供するための在宅看護 (1) 継続看護を担う部署と職種 (2) 退院支援と退院調整 (3) 地域との連携システム (4) 地域連携クリティカルパス	講 義
2. 継続看護の実際 (24 時間)	3～5	1) 成人期のがん看護と継続看護 検診でがんを発見→入院・手術→仕事しながら 外来化学療法→在宅での看取り	講義・演習
	6～8	2) 独居高齢者と継続看護 高血圧で脳出血発症→急性期医療→回復期病 棟→介護老人保健施設→老人ホーム入所	講義・演習
	9～ 11	3) 先天性異常児の誕生と継続看護 出生前診断→母親への育児支援→先天性疾患 の合併症治療→退院支援	講義・演習

	12～ 14	4) 精神障害をもつ人と継続看護 措置入院→退院支援→デイケア通所→訪問看護 ステーション→入院	講義・演習
	15 評価	筆記試験	
評価	筆記試験（60点） 課題（40点）		
教科書	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野 各巻 医学書院【電子版】		
参考文献	随時紹介		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
薬物療法と看護	1 単位 (15 時間)	2 年次 前期	専任教員	○

〈授業科目の履修目的・概要・指針など〉

看護の対象である人への投薬において、看護師は与薬の実践者として対象者に直接薬を与え、その効果や副作用を最も間近で観察する立場にあり、医師、薬剤師とともに「対象者を守る最後の砦」として、薬物療法に関して高度で幅広い知識が求められる。そのため、薬のメカニズムを知り、治療効果と安全を管理する方法である cure の視点と、対象別看護で学ぶ care の視点を融合させ、対象者個人の身体、生活、心理状況を包括的に、最適な投与方法を考えることができる応用力を身につける必要がある。

ここでは、与薬が対象者への介入を伴う行為であることを理解し、その安全性を担保するとともに、対象者の生活状況を多く知っているキーパーソンとして、薬物療法が生活の中の何と関係するのか、対象者の何を見ていく必要があるのかの知識を学ぶ。さらに、演習をとおして基礎知識の定着と思考能力を習得し、看護専門科目の理解と看護技術の根拠につなげる。

〈単元目標〉

1. 既習の薬理学および看護薬理学の知識から、薬物療法について説明できる。
2. 薬物療法を受ける対象に必要な看護の方法が理解できる。
3. 薬物治療における安全管理と Medikation エラーが理解できる。

〈授業計画〉

単元	回数	内容	授業形態
1. 薬物療法と看護の基礎知識 (2 時間)	1	1) 薬物療法とは 2) 薬物療法における看護師の役割 3) 薬物の剤形とその特徴に応じた教育指導の理解 4) 薬物の体内動態とハイリスク患者の看護	講 義
2. 薬物療法と看護の実際 (10 時間)	2～6	1) 成人患者の薬物療法の実際 (1) 外来化学療法を受ける患者の生活指導 (2) リウマチ疾患患者の服薬支援 2) 認知症高齢者の在宅での服薬管理 3) 妊婦、授乳婦の服薬指導の実際 4) 糖尿病患児のインスリン療法の実際 5) 精神疾患と薬物療法の実際 (1) 統合失調症患者の社会復帰に向けた自己管理 (2) 薬物依存症と看護	講義・演習 (指導案作成とロールプレイ)

3. 薬物療法における 安全管理 (2 時間)	7	1) 薬物治療における安全管理と Medikation エラー	講義
	8 評価	筆記試験	
評 価	筆記試験 (60 点) 課題 (40 点)		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3]薬理学 医学書院 【電子版】 系統看護学講座 専門分野 各巻 医学書院【電子版】 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院【電子版】		
参考文献	随時紹介		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
問題解決活用法	1 単位 (30 時間)	2 年次前・後期	専任教員	○

〈授業科目の履修目的・概要・指針など〉

看護過程は、看護の対象者がもつ何らかの課題や問題を解決するためのプロセスであり、看護師の思考過程である。そのため、看護の理論と知識をより効果的に実践に結びつけるための方法論として、看護基礎教育の中で重要な位置づけをもっている。人は健康が障害される前も社会の中で生活しており、また、健康が障害された後も死を迎えるまで生活している。看護は人々の生活の中で営まれるケアであり、「生活しているひとりの人」として対象者の生活を知り、その人らしい生活が送れるように多面的にとらえながら、看護的な視点で問題を見出し、援助していくための思考力を身につける必要がある。

ここでは、「ひとりの人の一生」を追いながら、対象者を生活しているひとりの人としてとらえ、その人の生活や人生に思いを馳せて、その人らしい豊かな人生が送れるよう支援するための方法論を学ぶ。

＜単元目標＞

1. 各発達段階における看護過程の特徴が理解できる。
2. 既習の知識を活用しながら、さまざまな健康状態に応じた看護が展開できる。
3. 人の生活を支えるための看護が理解できる

〈授業計画〉

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 発達段階と看護の展開 (4 時間)	1～2	1) 各発達段階における看護過程の特徴 2) 看護過程と理論 3) 事例紹介 沢山 亜瑠 (さわやま ある) さん 女性 I 型糖尿病	講 義
2. その人らしさを支える看護 (2 4 時間)	3～6 7～8 9～ 10 11～ 12 13～ 14	1) 小学 5 年生で糖尿病発症！どうする修学旅行 (学校生活と自己管理・自己注射) 2) 人生の大イベント 出産！無事に生まれる？ 3) 子育てと仕事の両立は大変 (血糖コントロール) 4) プロジェクトチームの責任者に抜擢！でも上司は急かすし部下も子どもの言うこときかない (うつ発症) 5) 老後はのんびり過ごしたい (認知症)	演 習
3. 「生活しているひとりの人」の理解 (2 時間)	15	1) 人の一生を振り返る (年表作成)	演 習

評価	課題（100点）
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 各巻 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野 各巻 医学書院【電子版】 系統看護学講座 別巻 各巻 医学書院【電子版】
参考文献	随時紹介

看護の統合と実践

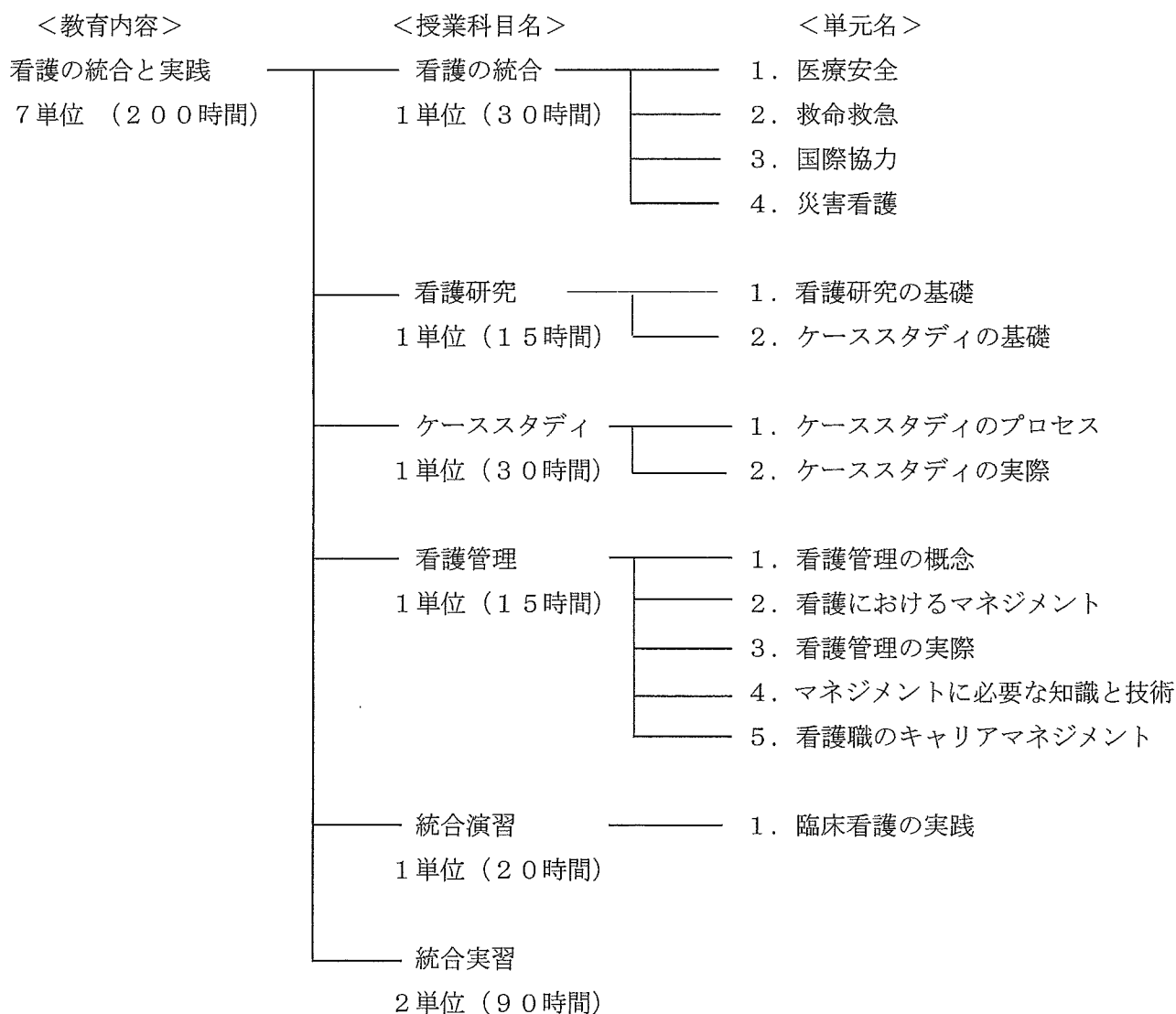
看護の統合と実践

1. 看護の統合と実践の考え方、ねらい

看護の統合と実践は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学習したことを、臨床で実際に活用できるよう、知識・技術を統合させることをねらいとしている。

そのため、チーム医療及び他職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する、看護をマネジメントできる基礎的能力を身につける、医療安全の基礎的知識を修得する、災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解する、国際社会において広い視野に基づき看護師として諸外国との協力を考える、これまでの学習の中で修得した看護技術の総合的な評価を行う内容とする。臨地実習は、臨床実践の中で必要な基礎的な知識と技術を統合的に体験する内容とする。

2. 看護の統合と実践の構成



授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
看護の統合	1 単位 (30 時間)	2 年次前・後期	非常勤講師	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

看護の専門性はより高まり、看護者の担う役割・機能・活動内容が多様化している現在、柔軟に思考できる能力や感性を養うことが大切である。また、医療過誤や事故の発生によって、医療に対する信頼は揺らぐことになる。そのため、既習の基礎的知識や看護技術を安全に実践し、さらに発展応用していく能力が必要とされている。

看護の統合では、多様な場面で求められる看護の役割・機能を理解し深めて、信頼される看護が実践できる能力を修得することを目的とする。

単元 1. 医療安全

看護職は日常的に危険に関わる職業であり、さらに間違いを誘発するさまざまなプレッシャー状況にさらされやすい職業である。看護者もヒューマン・エラーを起こす人間であることを認識し、看護を安全におこなうために必要な知識・技術・態度と、医療に関わる専門職者としての責務や安全管理の実際について学ぶ。また、看護の対象を多様な視点でとらえるために必要な基礎的知識を学び、危険予知・回避への判断力を養う。

<単元目標>

1. 安全管理の必要性がわかる。
2. 専門職としての看護の役割や責務、知識・技術・態度が理解できる。
3. 事故の可能性を予測し、回避方法を理解する。
4. 事故発生時の対応がわかる。

単元 2. 救命救急

救急医療の対象となる患者は救急処置が必要なさまざまな人々であり、救急処置、緊急度・重症度の判断、医療行為の介助、生活行動援助、精神的サポートなどの看護が必要である。ここでは、対象の命を救い生を支えるために必要な知識と技術を学ぶ。

<単元目標>

1. 救急患者の特徴と救急看護に必要な専門知識を理解する。
2. 生命の危機状況にある患者・家族の心理を理解する。
3. 救急蘇生法の基本的技術を身につける。

単元 3. 国際協力

グローバル化が進んだ現代の世界においては、わが国だけではなく、地球上のあらゆる人々の健康がわれわれに関係している。ここでは、国境をこえて広域的に発生している健康問題の現状を学び、看護師の役割と国際協力の実際を理解する。

<単元目標>

1. 国際協力の現状と目的、概念が理解できる。
2. 国際社会における看護の役割が考えられる。

単元4. 災害看護

災害は、その特徴によって被害状況が大きく異なる。そのため、どのような災害にも対応できる体制を整え、保健・医療・福祉との連携を図り、人々の生活を支えられるような看護実践力の育成が望まれている。

ここでは、災害が人々の健康生活に及ぼす影響を理解し、災害状況に合わせた看護について学習する。また、災害看護に必要な他職種との協働・連携について理解し、看護マネジメントの基本的な知識と方法を学ぶ。

<単元目標>

1. 災害看護の定義と概要が理解できる。
2. 災害の種類と傷病の特徴を理解し、人々の健康生活に及ぼす影響がわかる。
3. 災害発生時の看護ケアがわかる。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 医療安全 (10時間)	1	1) 事故防止の考え方 (1) 医療事故と看護業務 (2) 看護事故の構造 (3) 看護事故防止の考え方	講 義
	2～3	2) 診療の補助の事故防止 (1) 患者に投与する業務における事故防止 (2) 医療行為の観察・管理における事故防止 3) 療養上の世話の事故防止 (1) 療養上の世話における2群の事故の発生要因と事故防止の2つの視点 (2) 療養上の世話の事故防止の考え方 (3) KYT ※食事、排泄、移動、移送、休息、清潔、環境などにかかわる危険予測のグループワーク	講 義 演 習
	4～5	4) 医療安全とコミュニケーション (1) 医療チームにおけるコミュニケーション (2) 患者とのコミュニケーション 5) 組織的な安全管理体制への取り組み (1) 組織としての医療安全対策 (2) システムとしての事故防止の具体例 ※誤嚥、誤薬、転倒、転落などの事例分析のグループワーク	講 義 演 習

2. 救命救急 (6時間)	6	1) 日本における救急医療の変遷 2) 救急医療および救急看護を必要とする患者の特徴と看護 (1) 救急患者の病態・治療と看護 ① 1次救命処置とは ② 2次救命処置とは (2) 救急患者のトリアージとは 3) 救命救急時に使用する機器と留意点	講義
	7	(1) AED、他の使用方法 (2) 救急時の応援要請とは 4) 脳死 (1) 脳死判定基準 (2) 臓器移植ネットワーク 5) 救急蘇生法の実際	講義
	8	(1) 心肺蘇生法 (1次救命処置、2次救命処置) ※デモンストレーション ① 救急時の応援要請から救急蘇生法の実際 (傷病者発見から AED 使用、救急車到着まで) ② 患者急変時の応援要請から蘇生処置の実際 (急変した患者発見から気管挿管の介助まで) (2) 救命救急時の看護と機器使用技術 ① 心肺蘇生 ② バッグバルブマスク換気法 ③ AED ④ 気管挿管時の留意点 (説明)	演習
	9	1) 国際看護学とは (1) 世界の健康問題の現状 (2) 国際看護学の定義 (3) 国際看護学の対象 (4) 国際看護学に関連する基礎知識 2) グローバルヘルス (1) 人間の安全保障 (2) MDGs と SDGs	講義
	10	3) 文化を考慮した看護 (1) 文化を考慮した看護理論 (2) 文化や制度を考慮した在留外国人への看護 4) 国際協力のしくみ (1) 国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関	講義
3. 国際協力 (6時間)			

4. 災害看護 (6時間)	1 1	(2) 国際救援の調整 (3) 開発協力 5) 国際協力の実際 (1) 開発協力と看護 (2) 国際救援と看護	講 義
	1 2	1) 災害医療の基礎知識 (1) 災害の定義 (2) 災害の種類と健康被害 (3) 災害医療の特徴 ①CSCATTT ②トリアージ (4) マスギャザリングとNBC 災害への看護 (5) 災害看護と法律	講 義 V T R
	1 3	2) 災害看護の基礎知識 (1) 災害看護の定義と役割 (2) 災害看護の対象 (3) 災害看護の特徴と看護活動	講 義 V T R
	1 4	3) 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 (1) 急性期・亜急性期 (2) 慢性期・復興期 (3) 静穏期 4) 被災者特性に応じた災害看護の展開	講 義 V T R 演 習
	1 5 評価	筆記試験	
評 価	筆記試験		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1]看護学概論 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4]臨床看護総論 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2]医療安全 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3]災害看護学・国際看護学 医学書院【電子版】 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院【電子版】		
参 考 文 献	※随時授業の中で紹介		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
看 護 研 究	1 単位 (15 時間)	3 年次 前期	専任教員	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 看護者は、常に研究や実践等により得られた最新の知見を活用して看護を実践するとともに、より質の高い看護が提供できるよう、新たな専門的知識・技術の開発に最善を尽くすことが求められている。また、研究や実践に基づき、看護の中核となる専門的知識・技術の創造と開発を行い看護学の発展に寄与する責任を担っている。 ここでは、看護研究の意義を理解し、自ら研究に取り組むための基本的な知識と方法を学ぶことを目的とする。 <単元目標> 1. 看護における研究の意義がわかる。 2. 看護研究の概要と方法がわかる。 3. 看護研究の実践者としての基本的な姿勢がわかる。				

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1, 看護研究の基礎 (10 時間)	1	1) 看護研究とは (1) 研究とは何か (2) 看護研究とは何か	講 義
	2～3	2) 看護研究のはじめ方 (1) リサーチクエスションとは (2) リサーチクエスション決定までのプロセス 3) 情報の探索と吟味 (1) 情報と科学的な根拠 (2) 文献とその種類 (3) 文献レビューとその目的 (4) 文献検索の方法 (5) 文献の入手と整理 (6) 文献の読み方 (クリティーク) (7) 文献レビューの記述	講義・演習
	4	4) 研究における倫理的配慮 (1) 研究における倫理的配慮の原則 (2) 依頼書と同意書の書き方	講 義
	5	5) 研究計画書 (1) 研究計画書とは (2) 研究計画書の書式と書き方	
		1) ケーススタディとは	

2. ケーススタディの基礎 (4 時間)	6～7	(1) ケーススタディの特質 (2) ケーススタディの意義・目的 2) ケーススタディの進め方 (1) 研究テーマの設定 (2) 文献レビュー (3) 研究目的の設定 (4) 分析事例の選定 (5) 研究計画書の作成・クリティーク	講 義 講義・演習
	8 評価	筆記試験	
評 価	筆記試験		
教 科 書	系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院【電子版】 看護学生のためのケーススタディ メジカルフレンド社 第4版		
参 考 文 献	河野哲也著：レポート・論文の書き方入門 第4版 慶応義塾大学出版会 2018 城ヶ端初子監修：実践に生かす看護理論 19 医学芸術社 他、授業の中で紹介する。		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
ケーススタディ	1 単位 (30 時間)	3 年次前・後期	専任教員	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 看護者は、常に研究や実践等により得られた最新の知見を活用して看護を実践するとともに、より質の高い看護が提供できるよう、新たな専門的知識・技術の開発に最善を尽くすことが求められている。また、研究や実践に基づき、看護の中核となる専門的知識・技術の創造と開発を行い看護学の発展に寄与する責任を担っている。 ここでは、看護研究の意義を理解し、自ら研究に取り組むための基本的な知識と方法を学び、看護実践と現象を理論に基づいて考察することで、自己の看護観を深める。そして、日常の看護に対して問題意識を持ち、新しい知識を取り入れ、理論的根拠に基づいた看護が実践できるよう、研究的態度を養うことを目的とする。 <単元目標> 1. 看護における研究の必要性を認識し、基本的な知識と方法を学ぶ。 2. 対象に実践した看護について、看護理論や中範囲理論に基づき看護の効果や意味を考察する。 3. 自己の看護観を育む。 4. 看護に対する問題意識を持ち理論的根拠に基づいた看護実践ができるよう、研究的態度を養う。				

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1, ケーススタディのプロセス (2 時間)	1	1) 論文構成と作成方法 (1) 研究論文の様式 (2) 研究論文の項目	講 義
2. ケーススタディの実 際 (2 8 時間)	2～3 4 5～6 7～8 9 10 11 12～ 15	1) 研究計画書作成 2) ケーススタディ演習 3) 論文作成 4) ケーススタディ演習 5) 抄録作成 6) ケーススタディ演習 7) ケーススタディ発表 (1) オリエンテーション (2) 発表	講義・GW 個人指導 講 義 個人指導 講 義 個人指導 講 義 発 表
評 価	論文		
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院【電子版】 看護学生のためのケーススタディ メジカルフレンド社 第4版		
参考文献	河野哲也著：レポート・論文の書き方入門 第4版 慶応義塾大学出版会 2018 城ヶ端初子監修：実践に生かす看護理論 19 医学芸術社 *他、授業の中で紹介する。		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
看 護 管 理	1 単位 (15 時間)	3 年次前・後期	専任教員・非常勤講師	○
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 看護管理は、新しいヘルスケアシステムを創造し、チームや組織、システムを動かしていく活動としてとらえられ、看護管理活動の場は病院のみならず地域の保健医療福祉の場へと拡大している。そのため看護管理は、管理者だけでなく看護実践者にも必要な知識と技術となっている。 ここでは看護をしくみとしてとらえ、それがどのようなになっているのか、問題はなにか、どのような改善策があるのか、どのようにすればより良い看護が提供できるのかななどを追及し、看護職同士の協働、他職種との連携によって対象者のニーズを満たすために看護管理の基本を学ぶ。 <単元目標> 1. 看護管理の概念と看護のマネジメントが必要とされる場について理解する。 2. 看護におけるマネジメントの変遷と看護職に求められることについて考察する。 3. 看護の実践のために必要なマネジメントについて理解する。 4. 専門職業人として必要なキャリアマネジメントについて理解する。				

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 看護管理の概念 (2 時間)	1	1) 看護管理と定義 2) 看護管理学の概念構成 3) 看護管理学の基本的要素 4) 看護のマネジメントが行なわれる場	講 義
2. 看護におけるマネジメント (4 時間)	2～3	1) マネジメントの考え方の変遷 2) 看護におけるマネジメントの考え方の変遷 3) これからの看護職に求められるマネジメント	講 義
3. 看護管理の実際 (4 時間)	4～5	1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2) 患者の権利の尊重 3) 安全管理 4) チーム医療 5) 看護業務の実践	講 義
4. マネジメントに必要な知識と技術 (2 時間)	6	1) マネジメントとは 2) 組織とマネジメント 3) リーダーシップとマネジメント 4) 組織の調整 5) タイムマネジメント 6) ストレスマネジメント	講 義

5. 看護職のキャリア マネジメント (2時間)	7 8 評価	1) キャリアとキャリア形成 2) 看護職のキャリア形成 3) 看護専門職としての成長 筆記試験	講 義
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理 医学書院【電子版】		
参考文献			

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師 名	実務経験
統 合 演 習	1 単位 (20 時間)	3 年次前・後期	専任教員	○

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

近年の臨床看護の場では、医療の高度化、患者の高齢化・重症化、平均在院日数の短縮等により、看護業務が多様化・複雑化してきている。また、患者の人権への配慮や、医療安全確保のための取り組みが強化される中で、複数の対象の状況に合わせた看護を安全に実践できることが望まれている。

総合演習では、複数の対象の状態と場面を分析し安全に援助を実施するために必要な思考を理解し、看護実践力を修得することを目的とする。

<単元目標>

1. 複数の対象の優先順位を考えた行動計画を立案できる。
2. 計画に沿った看護実践中に起こる突発的な状況に対する判断ができる。
3. 状況に応じてチームメンバーとの連携の判断ができる。
4. 看護実践を振り返り、対象の状態、援助内容、自己の実践能力などの視点から分析的に考察できる。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 臨床看護の実践 (20時間)	1	1) 情報の分析 (1) 情報の分析とは (2) 情報の分析の具体的方法 (3) 情報の分析のために必要な力 2) 事例紹介 (1) A氏 (2) B氏	講 義
	2	3) 1日の行動計画立案 4) 計画した看護の実践と振り返り	講義・GW
	3～4	(1) 計画した援助の実施 (2) グループで振り返る (3) 全体発表	演習・GW
	5	5) リフレクション (1) リフレクションとは (2) 行為についてのリフレクション (3) 行為のなかのリフレクション (4) 看護実践におけるリフレクション (5) リフレクションに必要なスキル (6) リフレクションの方法	講義・GW

	6～7	6) 突発的な状況に応じた対応① (1) 提示された状況に合わせた対応を考える (2) 考えた対応の実践 (対応の根拠を説明し実践する) (3) 思考プロセスの整理 (リフレクションシートに記載する)	GW・演習
	8～9	7) 突発的な状況に応じた対応② (1) 提示された状況に合わせた対応を考える (2) 考えた対応の実践 (対応の根拠を説明し実践する) (3) 思考プロセスの整理 (リフレクションシートに記載する)	GW・演習
	10 評価	筆記試験	
評価	提出物 (50 点) ・ 筆記試験 (50 点)		
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院【電子版】 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院【電子版】		
参考文献	※随時、授業で紹介		